

史 跡

# 上之国勝山館跡 XVII

—平成7年度発掘調査環境整備事業概報—



1996・3

上ノ国町教育委員会

史 跡

# 上之國勝山館跡 XVII

—平成7年度発掘調査環境整備事業概報—

1996・3

上ノ国町教育委員会



# 序

史跡上之國勝山館跡環境整備事業は、昭和54年の開始以来今年で17年を経過することになり、この間の調査で、百数十年の長期に亘る館の存続と各種の遺構・遺物を知り得るところとなりました。

今年度は第二平坦面東側中央部を中心に遺構調査を実施しました。その結果、館東側を走る帯曲輪、門跡と思われる大型柱穴など当時の館内の様子が窺われる発見がありました。

本年度の事業の推進にあたり、文化庁記念物課をはじめとする関係各機関の諸先生、勝山館跡調査研究専門員としてご指導をお願いしている石井進、朝尾直弘、網野善彦、榎森進、仲野浩の諸先生には、ご多忙中のところ多大なご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後も本事業を継続して推進して参りたく思うところでありますので関係機関・諸先生には、なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成8年3月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長 和泉定夫

## 本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次  
例言／引用参考文献

I 調査の概要	1
II 遺構確認調査	4
1 調査目的	4
2 検出遺構と出土遺物	4
(1) 位置、概要	4
(2) 層序	4
(3) 掘立柱建物跡・曲輪跡・通路跡等	4
(4) 竪穴建物跡・土壌	74
(5) 出土遺物の概要	87
III 小括	96
IV 保存処理	97
V まとめ	98

## 挿図目次

第1図 遺跡地形図・調査区位置図	2
第2図 調査区範囲図	3
第3図 調査区土層堆積図—1	5
第4図 調査区土層堆積図—2	7
第5図 調査区遺構配置図	23
第6図 第1号建物跡想定図	29
第7図 第2号建物跡想定図	30
第8図 第3号建物跡想定図	31
第9図 第4号建物跡想定図	32
第10図 第5号建物跡想定図	33
第11図 第6号建物跡想定図	34
第12図 第7号建物跡想定図	35
第13図 第8号建物跡想定図	36
第14図 第9号建物跡想定図	37
第15図 第10号建物跡想定図	38
第16図 第11号建物跡想定図	39
第17図 第12号建物跡想定図	40
第18図 第13号建物跡想定図	41
第19図 第14号建物跡想定図	42
第20図 第15号建物跡想定図	43
第21図 第16号建物跡想定図	44
第22図 第18号建物跡想定図	45
第23図 第19号建物跡想定図	46

第24図 第20号建物跡想定図	47
第25図 第21号建物跡想定図	48
第26図 第22号建物跡想定図	49
第27図 第23号建物跡想定図	53
第28図 第24号建物跡想定図	54
第29図 第25号建物跡想定図	55
第30図 第26号建物跡想定図	56
第31図 第27号建物跡想定図	57
第32図 第28号建物跡想定図	58
第33図 第29号建物跡想定図	59
第34図 第30号建物跡想定図	60
第35図 第31号建物跡想定図	61
第36図 第32・34号建物跡想定図	62
第37図 第33号建物跡想定図	63
第38図 第35号建物跡想定図	64
第39図 第36号建物跡想定図	65
第40図 第37号建物跡想定図	66
第41図 第38号建物跡想定図	67
第42図 第39号建物跡想定図	68
第43図 第40号建物跡想定図	69
第44図 第41号建物跡想定図	70
第45図 第42号建物跡想定図	71
第46図 第43号建物跡想定図	72
第47図 第44号建物跡想定図	73
第48図 第45号建物跡想定図・通路跡A	75
第49図 通路跡B	77
第50図 竪穴65・67平面図他	79
第51図 第69号竪穴遺構平面図他	82
第52図 土壌20・21・23平面図他	83
第53図 土壌23平面図他	85
第54図 土壌40出土遺物	86
第55図 土壌40平面図他	87
第56図 第17号建物跡想定図	88
第57図 調査区出土遺物（陶磁器）	89
第58図 調査区出土遺物（陶磁器他）	90
第59図 調査区出土遺物（金属製品他）	91
第60図 調査区出土遺物（陶磁器）	92

## 表目次

表1	18 I 19.18.17.16.19 J 20.19.18.17.16南北セクション東壁土層〈A～A'〉	9
表2	19K10.19 J 6.7.8.9.10.19 I 6.7.8.9.10南北セクション東壁土層〈B～B'〉	11
表3	18 J 6.7.8.9.10.18 I 6.7.8東西セクション北壁土層〈C～C'〉	13
表4	19 I 23.18.13.8.3.18 I 23.18東西セクション北壁土層〈D～D'〉	15
表5	19 I 21.16.19 I 11.6東西セクション北壁土層〈E～E'〉	17
表6	19 J 25.20.15.10.5.18. J 25.20.15東西セクション北壁土層〈F～F'〉	18
表7	19 J 23.18.13.8.3.18 J 23.18.13東西セクション北壁土層〈G～G'〉	20
表8	20 I 8.7南北セクション西壁土層〈H～H'〉	21
表9	竪穴65セクション 土層表	80
表10	18K24.25.竪穴69東西北壁セクション土層	81
表11	土壙20.21.22.23土層観察表	84
表12	18K24大型柱穴南北西壁セクション	93
表13	出土遺物観察表（陶磁器）	93
表14	出土遺物観察表（鉄製品他）	94
表15	堀立柱建物一覧表	95
表16	出土遺物集計表1（陶磁器）	96
表17	出土遺物集計表2（鉄製品他）	97

## 附図 調査区遺構配置図

### 写真図版目次

PL. 1	調査区全景
PL. 2	遺構・遺物検出状況
PL. 3	調査区調査前・遺構検出状況
PL. 4	遺構検出状況
PL. 5	遺構検出状況
PL. 6	遺構検出状況
PL. 7	遺構検出状況
PL. 8	遺構検出状況
PL. 9	遺構検出状況
PL. 10	遺構検出状況
PL. 11	遺構検出状況
PL. 12	遺構出土状況
PL. 13	遺物出土状況
PL. 14	遺物出土状況

## 例 言

1. 本書は史跡上之國勝山館跡の平成7年度発掘調査及び環境整備事業について概要をまとめたものである。
2. 本年度の発掘調査は次の体制でのぞんだ  
調査主体者 上ノ国町教育委員会  
教育長 和 泉 定 夫  
指導 上ノ国町文化財保護審議会特別委員  
福山大学教授 足達富士夫、文化学院講師 鈴木亘  
同勝山館跡調査研究専門員 国立歴史民俗博物館館長 石井 進、橘女子大学教授 朝尾直弘、神奈川大学特任教授 網野善彦、東北学院大学教授 榎森 進、東北芸術工科大学教授 仲野浩  
主管 上ノ国町教育委員会文化財課 課長 木村 幹郎、主事 笹浪甲衛  
勝山館跡修景技術専門員 北島 讓  
発掘担当者 学芸員 齊藤邦典  
調査員 学芸員 松崎水穂 佐藤一志 松田輝哉、発掘調査員 柳沼弥生  
調査補助員 山崎洋子 笠谷奈智子 竹内江美子 石井淳平、仲田書矢、春名理史(富山大学) 岩井良太、岡崎友美、鈴木さち恵(東北芸術工科大学)、徳本悟(奈良大学)  
作業員 青木千秋、浅原すみ、井越祥子、小田川喜美子、大谷弓子、奥寺京子、川合冴子、斎藤圭子、佐藤明美、佐藤則子、笹浪竹志、杉村八重子、鈴木千春、住吉春子、平智之、高島弘、竹内正章、田畑康子、沼沢国枝、羽田貴子、林栄子、八田綾子、八田揚子、松本津枝子、目黒加奈子、森恵美子、鷺田フミ子  
保存処理作業員 木村洋子、油谷和枝
3. 本書の編集は松崎、斎藤、佐藤、松田、柳沼が協議の上齊藤が行なった。  
本書の作成はIを齊藤、佐藤、IIを齊藤、佐藤、松田、柳沼、III、IVを齊藤、Vを松崎の分担で行ない、文末に分担者名を記した。尚遺物観察表、集計表は山崎、土層の観察表は竹内、掘立柱建物跡の想定図は笠谷の各調査補助員が作成したものに基づいている。
4. 挿図の作成は担当者、調査員の指示により補助員、作業員が行なった。挿図中の方位は真

- 北を示す。
5. 土層の土色は「新版標準土色帖」(農林水産技術会議事務局)を遺物の色調名は「標準色彩図表A」(日本色研事業株式会社)を用い、目測で比定した。
  6. 本書の調査時の写真は齊藤、佐藤、松田、柳沼が撮影した。
  7. 調査にあたっては次の関係機関と各位に多大なご指導とご援助を賜った。  
文化庁記念物課 本中眞 岡村道雄 井上和 人 小池伸彦、北海道教育庁文化課 大沼忠春 種市幸生 伊藤敏彦 笹島淳子、北海道大学日本史研究室、北海道大学 天野哲也、札幌大学 原田信男、静修女子大学 吉崎昌一、中央学院大学 市村高男、京都大学 大山喬平、同志社大学 森浩一、名古屋大学 丹下昌之、八戸工業大学 高島成侑、光星短大 工藤祐薫、北海道大学埋蔵文化財調査室 椿坂恭代、北海道立アイヌ民族文化研究センター 古原敏弘、北海道埋蔵文化財センター 越田賢一郎 倉橋直孝、瀬戸市埋蔵文化財調査センター 藤沢良祐 金子健一、東京国立博物館 佐々木利和 池田宏、北海道開拓記念館 山田悟郎 小林幸夫 亀谷隆、函館市博物館 長谷部一弘、北方民族資料館 野村祐一、八戸市博物館 佐々木浩一、南部町教育委員会 中居達磨 永井治 浪岡町史編纂室 佐藤仁 工藤清泰、深浦町歴史民俗資料館 西崎正孝、中里町教育委員会 齋藤淳、東北町教育委員会 古屋敷則雄、山形県埋蔵文化財センター 山口博之、乙部町教育委員会 森広樹 藤田巧 仙庭晋一、松前町教育委員会 久保泰、函館市教育委員会 佐藤智雄 落合治彦 野辺地初雄 五十嵐貴久、八雲町教育委員会 三浦孝一、七飯町教育委員会 石本省三、今金町教育委員会 寺崎康史、奥尻町教育委員会 乾哲也 村上義直、南茅部町教育委員会 阿部千春 福田祐二 小林貢、森町教育委員会 藤田登、木古内町教育委員会 鈴木正語 菅野文二 三上英則 木元豊 大矢内愛史 中村和之 笹野武則  
(順不同 敬称略)

## 引用参考文献

- 函館志海苔古銭 1973年 市立函館博物館
- 文化財講座日本の美術13工芸(刀剣・武具) 1977年 文化庁
- 文化財講座日本の美術9工芸(金工) 1978年 文化庁
- 14～16世紀の染付碗、皿の分類と年代 1982年 小野正敏 貿易陶磁研究No.2
- 新版仏教考古学講座 第五卷 仏具1984
- 浪岡城跡III～VIII 1979～1984年 浪岡町教育委員会
- 日本の古鏡 1985年 大阪市立博物館
- 図説中世城郭事典一 1987年 村田修三編
- イオマンテの考古学 1989年 宇田川洋
- 北大構内の遺跡 [8] 1990年 北海道大学
- 北海道の館 1991年 八巻孝夫 中世城郭研究 第5号
- 月刊文化財平成4年11月号 1992年
- 城館調査ハンドブック 1993年 千田嘉博・小島道裕・前川要
- 瀬戸市史陶磁史編四 1993年 瀬戸市史編纂委員会
- 中国古陶磁鑑定基礎 1993年 陳徳富
- 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 1989～1993年 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
- 特別史跡朝倉氏遺跡発掘調査報告 I～IV 1979～1993年 福井県教育委員会 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
- 中国陶磁 1994年 馮先銘
- 概説中世の土器・陶磁器 1995年 中世土器研究会
- 草戸千軒町遺跡発掘調査報告書 I～III 1993～1995年 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
- 史跡上之国勝山館跡 I～XVI 1980～95年 上ノ国町教育委員会





# I 調査の概要

## 1 調査

史跡上之国勝山館跡は、松山郡上ノ国町字勝山に位置し、前方には天然の良港大澗湾を臨み、後方には夷王山を配する。館の主体部は、両側を宮の沢・寺の沢に挟まれた台地となっている。また、大きく3つの平坦面に分かれており、下から第一平坦面、第二平坦面、第三平坦面としている。第一平坦面は虎口から大手側の空壕までの間の平坦面で、面積は約5,000㎡。第二平坦面は面積約7,000㎡と最も広く、勝山館の中心的な建物をはじめ多くの建物跡等が検出されている。また第一平坦面との境には深さ約2m（第二平坦面までの落差約8m）の空壕が2本掘られている。第三平坦面は、館神八幡宮などがあった箇所では面積は約3,500㎡。最後部には土塁が作られ、さらにその外側には空壕が切られている。第二平坦面と第三平坦面を囲むようにして柵列が巡らされていた。

本年度は、平成2年度から継続している第2平坦面の調査を行い、北東中央部約1,230㎡を発掘調査した。

発掘調査は、5月15日～11月27日の期間実施した。調査方法は、20m×20mの大グリッドを分割した4m×4mの小グリッド方式を採用した。また、建物の概要を知るために柱穴配置略図（縮尺1/40）を作成し、柱穴間の重複・覆土の状態を観察しながら柱穴を掘り下げた。焼土・土壌等は半裁し、セクション図を作成した後に掘り下げ、土壌のサンプリングを行った。遺物の取り上げ方法は、I・II層は4m×4mのグリッドを2m×2mに4分割して一括して取り上げ、遺構面のIII層は実測図に記録した後にレベルを附して取り上げた。遺物の記録には縮尺1/20の平板実測、遺構面の実測は1/10・1/20その他による平板及び遣り方測量を採用した。（佐藤）

5月 作業員に作業内容、就業規則その他説明。調査区内踏査、関連出土品の説明、調査区内4m×4mグリッド設定。発掘作業開始I・II層除去作業

6月 6月7日 調査区内のII層下面までの表土除去作業終了。

遺構確認調査開始。調査区内各整形区画面の柱穴

をはじめとした遺構配置略図作成。

14～17号建物跡、23～25号建物跡、41～44号建物跡、帯曲輪、堅穴64、69調査

7月 14～17号建物跡調査、実測、写真撮影。堅穴64調査。17号建物跡大型柱穴の柱根取り上げ。23～25号建物跡調査、実測、写真撮影。41～44号建物跡調査、実測、写真撮影。帯曲輪調査

8月 8～12。13号建物跡、堅穴64調査。18～22号建物跡調査、実測、写真撮影。38～40号建物跡調査。帯曲輪、通路跡A、溝77、帯曲輪調査。集中豪雨のため環境整備済み箇所の大手空壕斜面、搦め手地区土葬墓斜面が崩壊する。

9月 集中豪雨崩落箇所応急処置。18 I 11、16区整形区画面調査。26～31号建物跡調査、土壌20～23調査、実測、写真撮影。38～40号建物跡実測、写真撮影、帯曲輪調査

10月 26～31号建物跡調査、実測、写真撮影。堅穴65.66、土壌40調査、実測、写真撮影。32～37号建物跡調査。通路跡B調査、帯曲輪写真撮影

11月 32～37号建物跡調査、実測、写真撮影。通路跡B実測、写真撮影。調査区全景写真撮影。調査終了（斉藤）

## 2 基本層序

I層 表土層、10YR3/3暗褐～10YR4/4褐シルト、草根多量。やや密。

II層 館廃絶後の自然堆積層。10YR3/3暗褐～10YR4/4褐シルト。やや密。炭化物、Os-a混入。細分される。Os-a純層も含まれる

III層 館機能時の整地盛土層。10YR4/4褐～10YR5/8黄褐、密。ソフトローム粒、炭化物等多量に含有する。細分される。

IVa層 縄文期以後より館が形成される直前までの自然堆積層。黒シルト～7.5YR3/3暗褐シルト

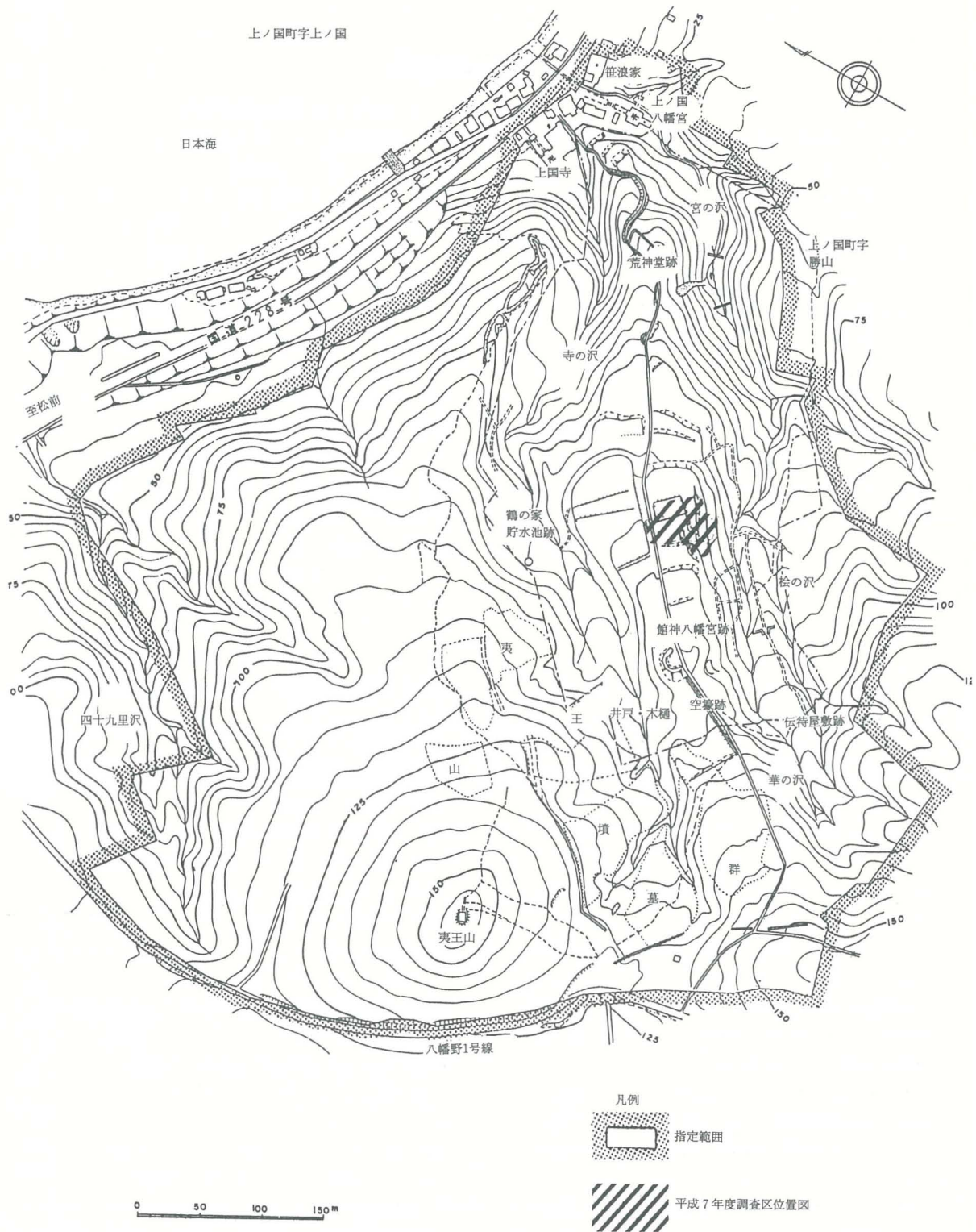
IVb層 10YR6/6明黄褐火山灰。やや密。

IVc層 縄文期包含層。10YR4/6褐シルト。やや密。

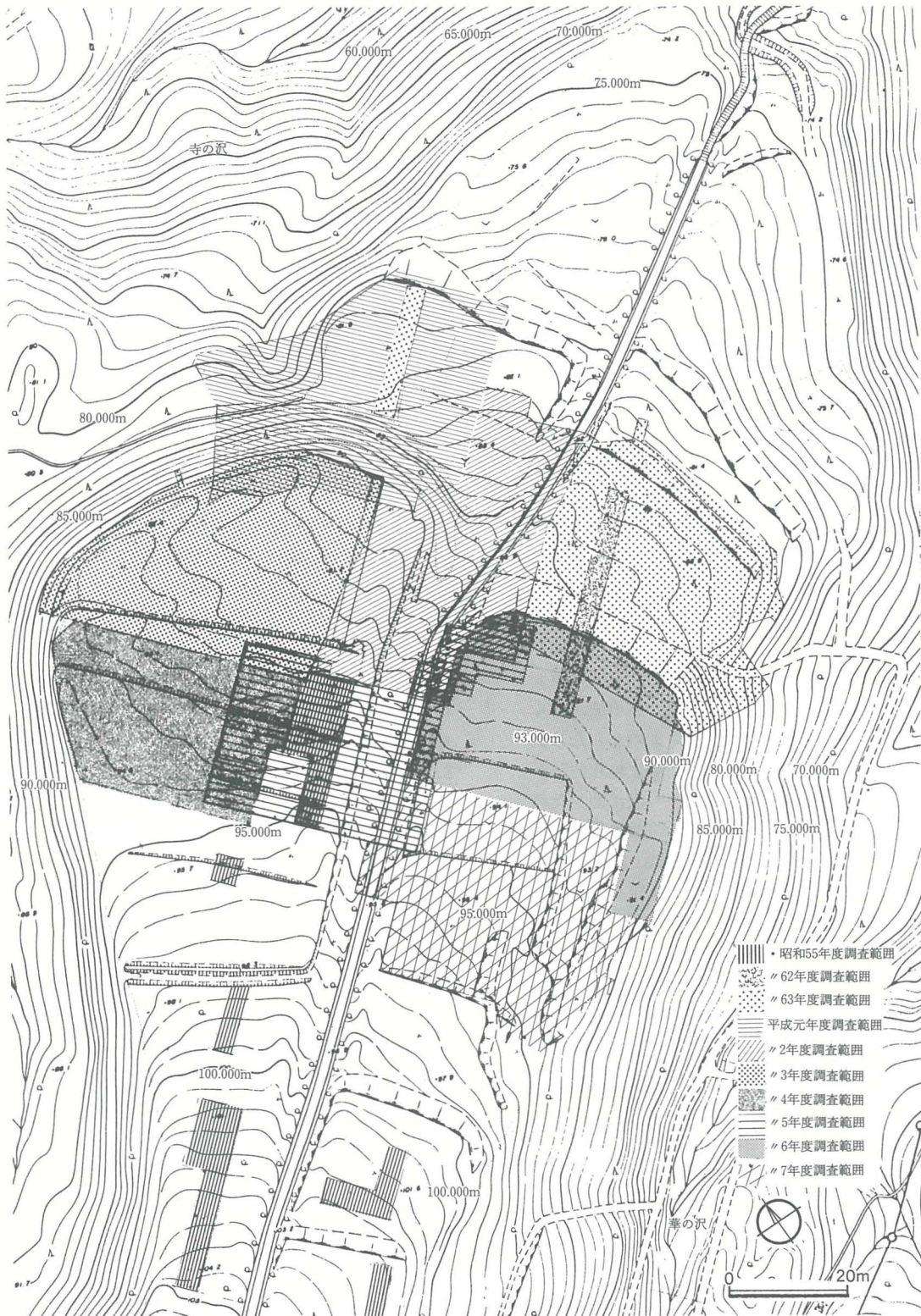
V層 10YR5/4にぶい黄褐～10YR5/6黄褐。ソフトローム。VI層 ハードローム。（斉藤）

## 3 保存処理

本年度は鉄製品1,000点、木製品1,400点、銅製品40点の処理を行なった。（斉藤）



第1図 遺跡地形図・調査区位置図



第2図 調査区範囲図

## II 遺構確認調査

### 1 調査目的

平成2年～6年度の遺構確認調査の結果、館を縦断して中央通路が通り、その左右に溝や段で区画された建物跡の立つ地割が作られていることが想定された。特に館主体部、第2平坦面と称しているもっとも広い平地の北東部では客殿に比定する建物跡や配石遺構、井戸跡、鍛冶・鋳造作業場などの種々の遺構が発見され館内の様相が広がりを見せはじめた。今年度は昨年度一部検出された帯曲輪の全体さらにそこから建物跡への通路、建物と建物間の通路等を探ること等を目的とした。

### 2 検出遺構と出土遺物

#### (1) 位置・概要

平成7年度の調査区は第2平坦面中央通路の南東部、平成6年度調査区の南東側1,230㎡である。

調査区の中央部及び西側の約2/3にあたる地区は中央通路とは段差を有せず、それに長軸の直交する地割が溝、段によって作られ、その中に掘立柱と堅穴の建物跡が作られていた。調査区の東側1/3は段差を持って整形盛土された平坦面が作られていた。そしてそれは約三つの地割からなり調査区中央部よりやや規模の小さい掘立柱建物跡が検出された。また調査区東端部華の沢に面した箇所（すぐその北東の平成6年度の帯曲輪が検出された箇所の南側）からさらに一段低く細長い平坦部が約80mにわたり整地盛土により作りだされ、端部に数条の柵列が作られ、またそれに伴うように何回かの平坦部が作られていることがわかった。また14～17号建物跡のある地割から焼失の堅穴が検出された。溝や段で区画され、建物跡の想定された地割は12面、想定された建物跡45棟、堅穴建物跡3棟、土壌40基、これに地割を区画する溝、段、柱列等が主な検出遺構である。

#### (2) 層序

遺構および遺構面の形成を捉えるため調査区内に縦横する形で土層断面を設定し、第3～4図に示した。また基本的な層序については先に述べたところである。第3図A～A'は調査区を西～東へ横断する土層断面であるが、19I19、18区では帯曲輪が整地盛土により平坦面を作りだしていること、さらにそれに伴う溝が2回以上作り替えられ

ていることがわかる。B～B'ではA～A'同様帯曲輪の整地が厚いが、調査区西端へ行くに従い整地盛土は薄くなる傾向を示す。また19J3～5区付近23～25号建物跡付近では整地盛土層は小礫が含有した砂状の土壌であり、厚い堆積はみられない。第4図F～F'は調査区を南～北へ縦断する土層断面である。18J20～25区以降北ではIII層の堆積は見られずV層のみであり整地のための盛土は行なわれていない。むしろ削平している感がある。第4図G～G'では19J23～18J23区にかけてIII層の堆積は8～12cm程であるが、それより北18J18、13区付近では殆ど無い。これらを見ると調査区を南～北へ縦断する土層断面G～G'、F～F'では北へ行くに従いIII層の堆積はなくなりV層のみとなる。また調査区を東西に横断するB～B' A～A'では西へ行くほど整地盛土層は薄くなる傾向を示す。従って整地盛土層は調査区内東側及び南側が厚く西、北へ行くほど薄くなる傾向を示す。調査区西端部、館中央通路付近ではローム面からの中世遺構の確認も多い。このように本年度調査の区画内でもかなり大規模な整地、削平、盛土が行なわれていたと考えられる。（齊藤）

#### (3) 掘立柱建物跡・曲輪跡・通路跡等

**第1号建物跡**（第6図）：18K5、18K10、18J1、18J6区に位置する。前年度の調査で、桁行5間、梁間3間と想定された建物跡であるが、今年度の調査により新たにP1299、P1399が検出された為、溝との関連も含めて再検討を行った結果、建物の軸方向が前年度より若干北に傾き、柱列の柱穴としていたP1271、P1280、P1375、P1380まで桁がのびる3間×6間の南北棟が想定された。建物は'94年溝26（以下概報XVI-溝26と記す）の西側を走る溝で区画される。この建物はP1299、P1348、1356、P1407で、北側3間×3間と南側3間×3間の2室に仕切られる。なお、P1348の南西に焼土があるが、これは作図上の誤りで、焼土ではなく堅穴59Aより新しい柱穴の範囲である。

**第2号建物跡**（第7図）：18K5、18K10、18J1、18J5区に位置する。前年度2間×5間の建物と想定されていたもの。概報XVI-溝26、84、64とで区画される。今年度再調査した際、P1405の新旧関係











表1 18 | 19.18.17.16.19 J 20.19.18.17.16南北セクション東壁土層 <A~A'>

1	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	砂利	焼土粒		炭化物		
II-1	10YR3/3	暗褐	礫粒	火山灰				炭化物		
2	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒			ソフト	炭化物		
3	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤礫	礫粒	焼土粒	炭化物		
4	10YR3/3	暗褐	火山灰	ローム粒	基盤礫	焼土粒	火	炭化物		
5	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	火山灰		ややソフト	炭化物		
6	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒			ややソフト	炭化物		
7	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	焼土粒		<II-6>よりやや暗くソフト	炭化物		
8	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	焼土粒	火山灰	ややハード	炭化物		
9	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒			ハード	炭化物		
10	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒			ソフト	炭化物		
11										
12	10YR3/4	暗褐	ローム粒	ロームブロック	火山灰		粘性なし	ソフト	炭化物少量	
III-1	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	焼土粒	ややソフト					
2	10YR3/3	暗褐	礫粒	焼土微量					炭化物	
3	10YR3/3	暗褐	全面	ローム	礫粒		ソフト	炭化物少量		
4	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒			混じり少ない	炭化物微量		
5	10YR3/2	黒褐	礫粒	ローム粒			ソフト	炭化物少量		
6	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒			ソフト			
7	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	多量		ややハード	貼り土	炭化物少量	
8	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒			ややソフト			
9	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	砂混じり		ソフト		炭化物少量	
10	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒			ハード	貼り土	炭化物少量	
11	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒			ソフト		炭化物多量	
12	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒			ソフト	10YR2/3より赤みあり	炭化物少量	
13	10YR4/4	褐	全面	ローム			ややソフト		土器	
14										
15	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	砂混じり		ソフト		炭化物少量	
16	10YR4/4	褐	全面	ローム	礫粒		ややソフト		炭化物少量	
17	7.5YR2/3	極暗褐	礫粒	焼土粒	微量		ややソフト		炭化物少量	
18	10YR4/4	褐					やや粗		炭化物微量	
19	7.5YR2/3	極暗褐	礫粒				極めてソフト	粗	炭化物少量	
20	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	焼土粒		ソフト			
21	10YR3/4	暗褐					混じり少ない		炭化物微量	
22	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	焼土粒	砂利混じり	ややハード		炭化物少量	
23	10YR3/3	暗褐	礫粒	焼土粒	微量		ハード	しまりあり	炭化物微量	
24	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ハードロームブロック	多量	焼土粒	やや密	しまりあり	炭化物少量
25	7.5YR2/3	極暗褐	ローム粒				極めてソフト	粗	炭化物少量	
26	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒			ややソフト		炭化物微量	
27	10YR2/3、3/3	黒褐	暗褐	礫粒	ローム粒	焼土粒		ソフト	炭化物少量	
28	10YR3/3、3/4	暗褐	礫粒	小礫	焼土粒	火山灰		ソフト	炭化物	
29	10YR3/3、3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	焼土粒			ソフト	炭化物	
30	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒			ややソフト		炭化物	
31	10YR3/4	暗褐	ローム粒				ややソフト		炭化物	
32	10YR3/4	暗褐	礫粒	焼土粒	微量		ハード			
33	10YR2/3、3/3	黒褐	暗褐	礫粒	ローム粒	焼土粒		ソフト	炭化物	
34	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒			ソフト		炭化物	
35	10YR3/3	暗褐	褐	基盤礫			ややソフト			
36	10YR2/3	黒褐	礫粒	焼土粒			ソフト		炭化物	
37	10YR2/3	黒褐	ローム粒	焼土粒			ソフト	<焼土9・イ>よりやや暗い	炭化物	
38	10YR2/2、2/3	黒褐	ローム粒				ソフト			
39	10YR3/3、3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	焼土粒			ややハード		
40	10YR4/4	褐	礫粒	焼土粒				ややハード		
41	10YR4/4	褐	礫粒	焼土粒				ややハード		
42	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	基盤礫	少量	焼土粒		ややハード	
43	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	焼土粒					
44	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒						
45	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒						
46	10YR2/3	黒褐	にぶい	礫粒	ローム粒			ハード	炭化物	
47	10YR3/3	暗褐	黄褐	礫粒	ローム粒			ソフト	炭化物	
48	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	微量			ローム粒			
49	10YR3/4、4/4	暗褐	礫粒				ローム粒			
50	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒				ややハード	炭化物	
51	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒				ハード		
52	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒				ハード		
53	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	焼土粒				炭化物	
54	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	焼土粒				炭化物	
55	7.5YR4/6	褐	全面	ローム	礫粒	3%		粘性あまりなし	ハード	炭化物3%
56	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	少量				土器	
57	10YR3/4	暗褐	礫粒	ロームブロック	70%			ハード	炭化物	
58	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	少量				炭化物	
59	10YR3/3、3/4	暗褐	礫粒	ロームブロック	多量			ソフト	炭化物	
60	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	少量				炭化物微量	
61	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック				炭化物	

62	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒多量			炭化物
63	10YR4/2	灰黄褐	全面	ローム 礫粒	ハード		炭化物
64	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト		炭化物
65	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややしまりあり		炭化物
66	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒			炭化物
67	10YR3/4 ~4/4	暗褐~褐	礫粒微量	ローム粒	粘土質		炭化物
68	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒 基盤礫 焼土粒			炭化物
69	10YR4/2	灰黄褐	礫粒	ローム粒	ややハード		炭化物
70	10YR4/4	褐	ローム粒	ロームブロック	粘性ややあり	ソフト	炭化物微量
71	10YR4/4	褐	ローム粒	ロームブロック	粘性ややあり	ソフト	炭化物少量
72	10YR2/3	黒褐			ソフト		炭化物 土器
73	10YR2/3	黒褐	ローム粒		混じり少ない		炭化物多量
IV-1	7.5YR4/6	褐	全面	ローム 礫粒1% 焼土粒	粘性あり	ややハード <III-55>より	炭化物3% 土器
2	7.5YR5/8	明褐	全面	ローム 礫粒3% 焼土粒	やや暗		炭化物5% 土器
3	7.5YR4/6	褐	全面	ローム 礫粒3% 焼土粒	粘性なし	ハード	炭化物1%
土壌60イ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 火山灰微量	ソフト		炭化物
ロ	10YR4/2	灰黄褐	礫粒	ローム粒 ロームブロック 火山灰	ソフト		
ハ	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒多量	焼土粒	ややハード		炭化物少量
土壌?イ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 焼土粒			炭化物少量 土器
ロ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	<イ>よりやや暗い		炭化物少量
溝2 あ	10YR2/3、 3/3	黒褐暗褐	礫粒	ローム粒 焼土粒	ややソフト	溝28より粘性なく暗い	炭化物少量
い	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒			炭化物多量 土器
溝9 あ	10YR3/3	暗褐	ローム粒	焼土粒	ソフト	<い>より暗い	炭化物
い	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 焼土粒 火山灰	ソフト		
う	10YR3/3	暗褐	ローム粒	焼土粒	ソフト		炭化物
溝89イ	7.5YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 焼土粒 基盤礫少量	ソフト		炭化物
溝27 あ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ロームブロック 焼土粒	ややソフト		炭化物少量
い	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト		
う	10YR2/3	黒褐	礫粒		ソフト	混じり少ない	
え	10YR2/3、 3/2	黒褐	礫粒	焼土粒微量			炭化物微量
おか	10YR3/3	暗褐	礫粒	焼土粒微量	ハード	しまりあり	炭化物少量
ろ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	焼土粒微量	ハード	しまりあり	炭化物微量
溝28 あ	10YR2/3、 3/3	黒褐 暗褐	全面	ローム 礫粒 焼土粒	ややハード		炭化物少量
溝61 あ	10YR4/4	褐	ローム粒	ロームブロック	ソフト		炭化物微量
い	10YR4/4	褐	ローム粒		粘性なし	ソフト	炭化物
う	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒	焼土粒微量	粘性ややあり		炭化物少量
え	10YR3/3	暗褐	ローム粒	ロームブロック30%	粘性なし	ソフト	炭化物
おか	10YR6/3	にぶい黄褐	ローム粒	ロームブロック	粘性あり	しまりあり	炭化物
か	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	粘性なし	しまりあり	炭化物
かき	10YR4/6	褐~にぶい黄褐	ローム粒	ロームブロック5%	粘性ややあり	ややソフト	炭化物微量
く	10YR5/3	にぶい黄褐	ローム粒	火山灰5%	粘性なし	ソフト	炭化物微量
け	10YR3/3	暗褐~褐	礫粒	ローム粒 火山灰5%	ややソフト		炭化物
こ	10YR5/6	黄褐	全面	ローム 礫粒	粘性あり	ハード	炭化物微量
さ	10YR5/4	にぶい黄褐	ローム粒	ロームブロック10%	粘性ややあり	ややソフト	
し	10YR4/6	褐	ローム粒	ロームブロック	粘性なし	ソフト	炭化物
す	10YR3/4	暗褐	ローム粒	ロームブロック	粘性なし	ソフト	炭化物
せ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 ロームブロック	粘性なし	ソフト	
そ	10YR4/6	褐	ローム粒	ロームブロック 火山灰10%	粘性なし	ソフト	炭化物5%
たち	10YR5/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	粘性ややあり	ソフト	炭化物微量
ち	10YR5/6	黄褐	全面	ローム 礫粒	粘性あり	ハード	炭化物少量
つ	10YR4/6	褐	ローム粒	火山灰 焼土粒	粘性なし	ソフト	炭化物
て	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒微量	ローム粒 ロームブロック	粘性なし	ソフト	炭化物微量
溝66 a	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 焼土粒	ハード		
b	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ソフト		
c	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒			
d	10YR4/6	褐	ローム粒	ロームブロック少量	粘性なし	しまりややあり	炭化物微量
e	10YR4/6	褐~にぶい黄褐	ローム粒	ロームブロック 火山灰微量	粘性ややあり	ソフト	しまりややあり
溝73 あ	7.5YR2/3、 3/3~10YR3/3	極褐~暗褐	礫粒	ローム粒 焼土粒微量	ソフト		炭化物微量
い	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード		炭化物少量
う	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト		炭化物少量
え	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒		ハード	全面粘質	炭化物少量
お	10YR4/3	にぶい黄褐	ハード	ロームブロック			炭化物3%
溝74 あ	7.5YR2/3	極褐	ローム粒	ロームブロック	ソフト	粗	炭化物少量 土器
い	7.5YR2/3	極褐	ローム粒		ソフト		炭化物少量
う	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒 焼土粒	ややハード	しまりあり	炭化物少量 土器
溝76 あ	7.5YR3/3	暗褐			粗	ソフト	混じりなし
い	7.5YR2/3	極暗褐	ローム粒		粗	ソフト	混じりややあり
う	10YR4/4	褐			やや粗		
え	10YR4/3	にぶい黄褐			粗	ソフト	混じりなし
おか	7.5YR2/3	極暗褐	ロームブロック		粗	ソフト	
か	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 焼土粒	ソフト		炭化物少量
き	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒 ロームブロック 多量焼土粒	やや密	しまりあり	
溝79 あ	10YR3/3	暗褐	礫粒		ローム粒少量		火山灰少量
い	10YR4/6	褐	全面	ローム			
う	10YR3/3	暗褐	礫粒	焼土粒 火山灰	ややソフト		炭化物
え	10YR3/3	暗褐	礫粒	焼土粒			炭化物
お	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒多量	粘土質		炭化物

かきく	10YR3/3 10YR3/2 10YR3/3	暗褐 黒褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒	焼土粒 ローム粒 焼土粒		炭化物 炭化物 炭化物		
焼土9イ	10YR2/3	黒褐	ローム粒	焼土粒多量	ソフト			
P822イロ	10YR2/3 10YR4/4	黒褐 褐	礫粒 礫粒	ローム粒 焼土粒	火山灰少量 ソフト	炭化物 炭化物		
P824あい	10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4	暗褐 暗褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒	ややハード ソフト	炭化物		
P839イロ	10YR3/3 3/4	暗褐	礫粒微量	ローム粒	ロームブロック	ソフト	炭化物少量	
ロハ	10YR3/4 10YR4/4	暗褐 褐	ローム粒少量	ロームブロック微量	ソフト	炭化物少量		
P840イロ	10YR4/4 10YR5/4 10YR5/4 10YR4/4	褐 黄褐 黄褐 褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒	基盤礫	ハード ハード ややソフト	炭化物少量 炭化物 炭化物微量 炭化物少量	
P841イロ	10YR4/6 10YR4/6	褐 褐	礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒	焼土粒少量	<III-45>よりやや暗い <イ>より明るい	炭化物少量 炭化物微量	
P884イロ	10YR3/3 10YR3/3 10YR3/3 10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4 10YR4/3	暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 にぶい黄褐	礫粒 礫粒 礫粒 ローム粒 ローム粒多量 ローム粒 ローム粒	ローム粒 焼土粒 焼土粒	ソフト	炭化物 炭化物 炭化物 炭化物 炭化物 炭化物		
P888イロ	10YR2/3 10YR3/3 10YR3/2 10YR3/3	黒褐 暗褐 黒褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒		ローム粒 <イ>より粘性なく粗	炭化物 炭化物	
P898イロ	10YR3/4 10YR4/3 10YR3/4	暗褐 にぶい黄褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 焼土粒		ローム粒 焼土粒		
P899イロ	10YR3/3 10YR3/4 10YR3/3 10YR3/3 10YR3/3 10YR3/3 10YR3/3	暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 ローム粒 ローム粒 礫粒	ローム粒 焼土粒 焼土粒 焼土粒 ローム粒 ローム粒 焼土粒	ソフト	ソフト <イ>より粘性なく粗 ソフト		
P900あい	10YR3/3 10YR3/4	暗褐 暗褐	ローム粒 礫粒	ローム粒 焼土粒	ソフト	炭化物		
P1740イロ	7.5YR5/6 10YR5/8 10YR5/4 10YR5/6 7.5YR5/6明褐60%+10YR5/6黄褐40% 10YR5/4	明褐 黄褐 にぶい黄褐 黄褐 黄褐 にぶい黄褐	全面ローム 全面ローム ローム粒 全面ローム 全面ローム ローム粒	礫粒 礫粒 ロームブロック5% ローム ローム ロームブロック	火山灰 火山灰	粘性ややあり 粘性あり 粘性なし 粘性あり 粘性あり 粘性なし	ややハード ややソフト ハード ハード ソフト	炭化物 炭化物 炭化物15%
ビットA	10YR3/3	暗褐	ローム粒	火山灰	ソフト			
ビットB	10YR4/4	褐	ローム粒	ロームブロック	火山灰	粘性ややあり ややソフト		
ビットC	10YR3/4暗褐30%+2.5YR7/1灰白70%		礫粒	ローム粒	火山灰多量	粘性なし ややソフト		
ビットD	10YR4/4	褐	礫粒微量	ローム粒	ソフト	炭化物		
ビットEあい	10YR3/3 10YR3/3	暗褐 暗褐	ローム粒 ローム粒		ソフト	粗 砂質 炭化物		
					ソフト	炭化物		

表2 19K10.19J6.7.8.9.10.19I6.7.8.9.10南北セクション東壁土層<B~B'>

I-1	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒微量	しまりなし	焼土粒 C
II-1						
III-1	10YR3/3	暗褐	礫粒		ハード	焼土粒 C微量
2	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C少量 土器1コ
3	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C
4	10YR2/3	黒褐	礫粒		ややソフト	焼土粒微量 C微量
5	10YR3/3	暗褐	礫粒	基盤粒	ガラガラ ソフト	焼土粒 土器
6	10YR2/3	黒褐	礫粒		ややハード	焼土粒微量 C微量
7	10YR3/33/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C微量
8	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	サラサラ ソフト まじり少量	焼土粒微量
9	10YR3/32/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 土器鉄滓少量
10	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒火山灰微量	焼土粒 C少量
11	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード	焼土粒 C
12	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C 炭化物
13	10YR2/3	黒褐	礫粒		ポロポロ ソフト	
14	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C多量 炭化物
15	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ややハード	焼土粒 C少量 炭化物
16	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C微量 土器
17	10YR2/2	黒褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック 基盤粒	砂利混り
18	10YR2/32/2	黒褐	礫粒	ローム粒	ややハード	焼土粒 C少量 炭化物
19	10YR2/3	黒褐	礫粒	基盤粒	ややポロポロ ソフト	
20	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	ややハード
21	10YR2/2	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C微量 砂利混り
22	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ガラガラ ハード 焼土粒	C微量 砂利混り
23	10YR2/22/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C多量 炭化物
24	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	焼土粒 C少量
25	10YR3/3	暗褐	礫粒	火山灰少量	ややハード	焼土粒 C微量
26	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	サラサラ ソフト	しまりなし

27	10YR3/3	暗褐	礫粒		ソフト	C微量
28	10YR2/33/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	C微量 土器
29	10YR2/2	黒褐	礫粒		ソフト	焼土粒 全面C多量
30	10YR3/3	暗褐	礫粒	ロームブロック	ややハード	炭化物
31	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード	
32	10YR3/43/3	暗褐	礫粒	ローム粒 火山灰少量	ややハード	焼土粒少量
33	10YR3/33/4	暗褐	礫粒	ロームブロック 火山灰	ややハード	焼土粒少量
34	10YR3/43/暗褐 34/3		礫粒	ローム粒 ロームブロック 火山灰	ハード	焼土粒 C
35	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ハード	焼土粒
36	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒		ややソフト	焼土粒 C
37	10YR5/6	黄褐	礫粒	ローム粒	ハード	
38	10YR3/33/4	暗褐	礫粒		ややソフト	焼土粒 C
39	10YR3/43/3	暗褐	礫粒	ローム粒		焼土粒 C微量 土器
40	10YR3/43/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ハード 密	焼土粒 C
41	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		焼土粒 C微量 粘土質
42	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ハード 密	焼土粒 C
43	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ハード 密	焼土粒 C
44	10YR3/45/暗褐 63/3		礫粒	ローム粒	ハード	焼土粒 C 土器
45	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒 火山灰		焼土粒 C
46	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		焼土粒 C少量
47	10YR4/44/3	褐	礫粒	ローム粒	ハード	焼土粒 C 粘土質
48	10YR4/43/4	褐	礫粒	ローム粒 基盤礫	ハード ねばり有る	焼土粒 C
49	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		
50	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		C微量
51	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ローム粒	
52	10YR4/4	褐 ~4/6	礫粒	ローム粒	ハード	焼土粒 C
53	10YR3/4	暗褐	礫粒		ローム粒	
54	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		焼土粒多量 C
V-1	10YR4/4	褐	礫粒	少量 全面ローム	ハード	
2	10YR4/4	褐	礫粒			焼土粒 全面粘土質
3	10YR3/44/3	暗褐	礫粒		ガラガラ	C多量 粘土質
4	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ガラガラ	C 粘質
5	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		焼土粒多量 C
6	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒			C
7	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		C <III'4>より粘質
8	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	<III'6>よりガラガラ 密	C 全面粘土質
9	10YR4/4	褐 ~4/6	礫粒		ガラガラ (III'6)と同じ様な土	焼土粒 土器
10	10YR4/4	褐 ~4/6	礫粒	ローム粒		焼土粒 土器
溝1	あい い	10YR2/3 10YR4/3	黒褐 にぶい黄褐	ローム粒 ローム粒		
溝2	あ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ガラガラ少量
溝14	あ い	10YR3/3 10YR3/2	暗褐 黒褐	礫粒少量 礫粒少量	ローム粒 ローム粒	ややソフト <あ>よりソフト
溝41	イ ロ ハ ニ	10YR3/3 10YR2/2 10YR3/43/3 10YR3/4	暗褐 黒褐 暗褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒少量 ローム粒少量	ややハード ややハード ややハード ややソフト
溝42	あ い う え お	10YR3/4 10YR3/4 10YR3/3 10YR3/3 10YR3/3	暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ロームブロック ローム粒 ローム粒 ローム粒	ソフト ロームブロック ややソフト ソフト ややソフト
溝47	あ	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト
溝27	あ い う え お か き	10YR3/3 10YR3/3 10YR2/3 10YR2/3 10YR2/2 10YR2/2 10YR2/2 10YR3/4	暗褐 暗褐 黒褐 黒褐 黒褐 黒褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 基盤粒 基盤粒 基盤粒 基盤粒 基盤粒	ソフト サラサラ ソフト ソフト ややハード ソフト ハード ソフト ガラガラ
溝76	あ	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	しまりなし ガラガラ ソフト
P1639	イ ロ	10YR3/3 10YR4/3	暗褐 にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	
P1642	イ ロ ハ	10YR3/3 10YR3/4 10YR2/3	暗褐 暗褐 黒褐	礫粒 ローム粒 火山灰 ローム粒少量 火山灰多量		ローム粒少量 火山灰 <イ>よりハード ソフト
P1657	イ ロ ハ ニ	10YR3/4 10YR4/4 10YR3/4 10YR3/3	暗褐 褐 暗褐 暗褐	礫粒 ロームブロック 基盤礫 ローム粒 砂利少量 ローム粒		焼土粒 C 焼土粒 C 焼土粒 C
P1658	イ ロ ハ ニ ホ ヘ ト	10YR2/3 10YR3/3 10YR4/4 10YR4/3 10YR4/3 10YR4/4 10YR4/3	黒褐 暗褐 褐 にぶい黄褐 にぶい黄褐 褐 にぶい黄褐	礫粒 礫粒 礫粒 ローム粒 ロームブロック ロームブロック		ソフト ローム粒 ローム粒 ハード
P1660	イ ロ	10YR3/2 10YR4/3	黒褐 にぶい黄褐	礫粒 ローム粒		焼土粒 C C微量 C微量
					ローム粒	<イ>よりローム多い

P1664	あいうえおかきく	~4/4 10YR3/3 10YR3/2 10YR4/4 ~4/6 10YR3/3 10YR4/6 10YR3/3 10YR4/3 10YR4/3	~褐 暗褐 黒褐 褐 暗褐 褐 暗褐 暗褐 にぶい黄褐 にぶい黄褐	礫粒 礫粒 火山灰少量 礫粒 ローム粒 礫粒少量 ローム粒 礫粒少量 ローム粒 礫粒少量 ローム粒多量 礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒	ハード  〈お〉よりソフト  ソフト 〈か〉よりソフト	焼土粒微量 C 焼土粒 C C 粘土質 C 粘土質 C 焼土粒 焼土粒 C
P1665	イロハニホヘ	10YR3/3 10YR4/4 ~3/3 10YR3/4 10YR3/2 10YR4/4 10YR4/4 ~4/6	暗褐 褐 暗褐 黒褐 褐 褐 褐	礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒 礫粒少量 ローム粒 礫粒少量 ローム粒 礫粒少量	やや粗  ソフト ややボロボロ 粘性あり	C C C 砂利 焼土粒 C 焼土粒 C 焼土粒 C 粘土混り
P1018	イ	10YR3/3	暗褐	礫粒 ローム粒		焼土粒
P1027	イロハニ	10YR3/4 10YR3/3 10YR3/3 10YR3/2	暗褐 暗褐 暗褐 黒褐	ローム粒 ローム粒 火山灰 ローム粒 火山灰 礫粒少量 ローム粒	ソフト	焼土粒 C 焼土粒 焼土粒 焼土粒
P730	イロハニ	10YR4/4 10YR3/4 10YR4/4 10YR3/4	褐 暗褐 褐 暗褐	礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒	ソフト  〈ハ〉より少しソフト	C 焼土粒微量 C 焼土粒 C C 土器片
P276	イロハ	10YR3/43/3 10YR3/3 10YR3/3 10YR3/43/3	暗褐 暗褐 暗褐 暗褐	礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒	ソフト  〈イ〉よりややハード ややハード	焼土粒微量 炭化した植物混り
P267	イロハニ	10YR2/3 10YR3/3 10YR3/3 10YR2/3	黒褐 暗褐 暗褐 黒褐	礫粒 礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒 礫粒 ローム粒	ソフト ソフト ソフト ソフト	焼土粒 C微量 C微量 焼土粒 C微量 C微量 土器
P268	あ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ややハード	混りなし
小P	a b c d e f g h	10YR3/4 10YR4/3 10YR3/4 10YR2/2 10YR2/3 10YR3/3 10YR3/3 10YR3/3	暗褐 にぶい黄褐 暗褐 黒褐 黒褐 暗褐 暗褐 暗褐	礫粒 ローム粒 火山灰少量 礫粒 ローム粒 礫粒 火山灰多量 ローム粒 火山灰 ローム粒 ローム粒 ローム粒	ソフト  ローム粒 ソフト ソフト ソフト	C C微量 火山灰微量 C 焼土粒 焼土粒 C 焼土粒 C
P265	イ	10YR3/3	暗褐	礫粒 基盤粒	ガラガラ ソフト	焼土粒 〈III-5〉よりやや明るい

表3 18J6.7.8.9.10.18 | 6.7.8 東西セクション北壁土層〈C~C'〉

I-1 2 3	10YR4/4 10YR4/3 10YR3/4~4/4	褐 鈍い黄褐 暗褐~褐	砂利・礫粒 礫粒微量・中礫 ロームブロック・基盤礫	粗 粗・ややソフト	木混 木混多し 草根多量（近世の耕作による攪乱も含む）	
III-1 2	10YR4/4 10YR4/6	褐 褐	ローム粒 ローム粒50%・礫粒少量	密・ハード 密・粘性有り・ハード		
V-1 2 3 4 5 6 7 8	注記無し 10YR3/4 10YR3/4 7.5YR5/6 10YR3/4 10YR3/3 7.5YR4/4 7.5YR4/4	暗褐 暗褐 明褐 暗褐 暗褐 暗褐 褐	基盤礫・礫粒 礫粒微量 細粒砂（中粒砂僅かに混じる）・全面ローム 細粒砂・ローム 細粒砂・ローム 全面ローム・中粒砂混じりの細粒砂 細粒砂	ハード ハード 粘性無し・ハード 粘性有り・ハード 粘性ややあり・ハード 粘性無し・ハード 粘性有り	土器片	
P48 P418	イ~ハ 10YR3/4 10YR3/3 10YR4/4 10YR4/4 10YR3/4	暗褐 暗褐 褐 褐 暗褐	ローム粒微量・礫粒極少量 ロームブロック・ローム粒微量・礫粒 ローム80%・基盤礫・礫粒微量 ローム80%・礫粒極少量 礫粒微量・中礫1個	ややソフト ソフト ハード ややハード ややソフト	木根	
P429	イ ロ ハ ニ ホ	10YR3/4 暗褐 暗褐 褐 暗褐 暗褐	ローム粒極微量・礫粒 ローム粒極微量・礫粒・火山灰5% ローム90%・礫粒微量 礫粒 ローム粒90%・礫粒・中礫2個	ハード ややハード ハード ややハード ややハード	土器片極少量	
P430	イ ロ	10YR3/4 10YR3/4	暗褐+褐 暗褐	ロームブロック50%・基盤礫微量 ロームブロック20%・基盤礫微量	ややソフト ややソフト	
P431	い ろ は	10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4	暗褐 暗褐 暗褐	ローム粒・礫粒・基盤礫・火山灰各微量 ローム粒・礫粒微量 ローム粒極少量	ハード ややソフト ややハード	
P625	イ	7.5YR4/4 50%+7.5YR3/4 50%	褐+暗褐	細粒砂（粗砂僅かに混じる）・ローム	粘性無し・ハード	
P627	イ ロ ハ ニ	7.5YR80%+7.5YR4/420% 7.5YR4/4 7.5YR3/4 7.5YR5/6	暗褐+褐 褐 暗褐 明褐	細粒砂・ローム粒 細粒砂・ロームブロックわずか 細粒砂（粗砂僅かに混じる）・ローム粒わずか 細粒砂・ロームをやや多く含む	粘性ややあり・ソフト 粘性ややあり・ソフト 粘性ややあり・ソフト 粘性無し・ハード	炭・縄文土器片まばらに混じる 植物根をまばらに含む



ネ	10YR3/3・2/3・3/4	暗褐・黒褐	ロームブロック25%~40%・細粒砂(中粒砂・粗砂混入)	粘性ややあり・ソフト	縄文土器片
ナ	10YR2/3+10YR3/4	暗褐+黒褐	ローム・ロームブロック・細粒砂	粘性無し・ハード	炭骨かに混入
ラム	7.5YR4/4	褐	全面ローム・中粒砂混じりの細粒砂	粘性ややあり・ハード	炭まばらに混入
ウ	7.5YR4/4	褐	ローム混じり・細粒砂	粘性無し・ハード	上位に炭骨かに混入
エ	5YR3/6・2/4	暗赤褐・極暗赤褐	全面ローム・細粒砂(中粒砂僅かに混じる)	粘性無し・ハード	炭(細粒)まばら・上位に2cm大の礫
キ	7.5YR4/4	褐	ローム混じり・細粒砂	粘性ややあり・ハード	炭の混入まばら(1%未満)
ノ	7.5YR4/4	褐	ローム・細粒砂	粘性無し・ハード	炭の混入まばら(1%未満)
オ	7.5YR4/4	褐	ローム・細粒砂	粘性ややあり・ハード	炭の混入まばら(1%未満)
ク	10YR3/4	暗褐	ロームブロック・細粒砂	粘性無し・ハード	炭まばらに混入

表4 19 | 23.18.13. 8. 3. 18 | 23.18東西セクション北壁土層 <D~D'>

I-1	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		C	
II-1	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		C	
2	10YR2/3	黒褐	礫粒		ソフト	C 炭化物	
3	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒 osa	ソフト	焼土粒 C 骨粉	
4	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト <II-3>より赤味強い	C 骨粉	
5	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	ややハード	C 土器	
6	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	玉砂利少量	焼土粒 C 土器、炭少量	
7	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード <II-5>より暗い	C 土器	
8	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒	
9	10YR2/3	黒褐	osa少量	シルト	サラサラ ソフト	C	
10	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	osa多量	焼土粒	
11	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C	
12	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C少量 土器	
III-1	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C	
2	10YR3/32/3	暗褐黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C 炭化物有り	
3	10YR3/3	暗褐	礫粒	ロームブロック	ハード	焼土粒 C 土器	
4	10YR3/3	暗褐	礫粒	ロームブロック	ソフト	焼土粒 C 骨粉、釘、炭化物	
5	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	全粘質	焼土粒 C 土器、骨粉、炭化物	
6	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	全粘質	焼土粒 C 土器、骨粉	
7	10YR3/4	暗褐	礫粒	全粘質	ハード	焼土粒 C	
8	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ややハード <III-9>よりやや暗い	C	
9	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード	焼土粒 C	
10	10YR3/43/3	暗褐	礫粒	ローム粒	火山灰	焼土粒 C	
11	10YR3/4	暗褐	礫粒	ロームブロック		焼土粒 C	
12	10YR3/4	暗褐	ローム粒	<III-13>よりローム粒多量	しまりあり ややソフト	C	
13	10YR3/43/3	暗褐	全ローム粒		サラサラ ソフト	C	
14	10YR3/43/3	暗褐	礫粒	ローム粒	砂利混り	ザラザラ やや赤味あり	焼土粒 C
15	10YR2/3	黒褐	ローム粒		サラサラ ソフト	C	
16	10YR2/3	黒褐	ローム粒		サラサラ ソフト	C	
17	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		焼土粒 C 土器	
18	10YR2/3	黒褐	ローム粒	やや砂ばい	サラサラ ソフト	C	
19	10YR2/3	黒褐	ローム粒	やや砂ばい	ややしまりあり ややソフト	C	
20	10YR4/4	褐	礫粒	全ロームブロック	<III-11>よりロームブロック少ない	焼土粒 C	
21	10YR3/4	暗褐	礫粒	全ロームブロック多量	ハード	焼土粒 C 土器	
22	10YR2/3	黒褐	ローム粒	砂ばい	サラサラ ソフト	C	
23	10YR2/3	黒褐	ローム粒多量		ややソフト <III-28>より明るい	焼土粒 C	
24	10YR2/2	黒褐	砂ばい		ややしまりあり <III-25>より暗い	焼土粒 <III-25>よりC多量	
25	10YR2/3	黒褐	砂ばい		ややしまりあり ソフト	焼土質 C	
26	10YR3/32/3	暗褐黒褐	ローム粒	砂ばい	サラサラ ソフト	C	
27	10YR2/32/2	黒褐	ローム粒		サラサラ ソフト	焼土粒 C 土器	
28	10YR2/3	黒褐	ローム粒		サラサラ ソフト	C 土器	
29	10YR2/3	黒褐	ローム粒多量		サラサラ ソフト	焼土粒 C	
30	10YR2/12/3	黒褐	ローム粒		しまりあり ややハード	C 土器	
31	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	しまりあり ややハード	C 土器	
32	10YR3/3	暗褐	ローム粒		しまりあり ややハード	焼土粒 C 土器	
33	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード	焼土粒 C 土器	
34	10YR4/34/4	にぶい・黄褐、褐	礫粒	全粘質	ハード	焼土粒 C 土器	
35	10YR3/33/4	暗褐	礫粒		ややハード	焼土粒 C	
36	10YR3/32/3	暗褐黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト 明るい	焼土粒 C少量 土器	
37	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	しまりなし ソフト	焼土粒 C微量	
38	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C少量	
39	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	焼土粒	
40	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	焼土粒	
41	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	焼土粒 C微量	
42	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C微量	
43	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード	C微量	
44	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	ややハード	焼土粒 C少量	
45	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	焼土粒 C少量	
46	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	焼土粒	
47	10YR3/43/3	暗褐	礫粒	ローム粒	しまりあり ソフト	焼土粒 土器	
48	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒	
49	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ややソフト		
50	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	焼土粒 C微量	
51	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	ハード	焼土粒	
52	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	焼土粒	
53	10YR3/3、7.5YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	焼土粒多量	
54	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C微量	
55	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	土器	
56	10YR3/33/4	暗褐	礫粒	ローム粒	火山灰多量 基盤粒	C微量	
57	10YR3/3	暗褐	ローム粒	火山灰	ソフト	焼土粒 C微量	
58	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	焼土粒 C少量	
59	10YR4/3	にぶい・黄褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	焼土粒 C少量	



60	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ハード	やや明るい	焼土粒	C微量	
61	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ハード	ハード	C微量		
62	10YR3/3	暗褐	礫粒	小礫 火山灰少量	しまりあり	ハード	焼土粒	C少量	
63	7.5YR3/3	暗褐	ローム粒	基盤粒	ソフト	<VII-1>より暗い	湿性	焼土粒	
64	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト	ソフト	土器		
65	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	ややハード	焼土粒		
66	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ハード	ハード	焼土粒	土器	
67	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	やや明るい	焼土粒	粘土多量	
68	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード	ややハード	焼土粒	C少量	
69	10YR3/3	暗褐			ソフト	ソフト	C少量	土器	
70	10YR3/3	暗褐	ローム粒		サラサラ	ソフト	全C多量		
V-1	10YR4/4	褐	礫粒2-3cm	礫3コ全粘質	基盤粒	ハード	青みあり	焼土粒	C微量
VII-1	7.5YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	全基盤粒	ソフト	湿性	焼土粒	
2	7.5YR4/4	褐	礫粒	基盤粒		ハード		焼土粒	
3	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	ややハード		焼土粒	
4	7.5YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		ハード		焼土粒	C微量
5	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	粘質	ややハード	やや明るい	焼土粒	
6	10YR4/43/4	褐、暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック粘質	ハード		焼土粒	
通路A溝	10YR2/3	黒褐	シルト	火山灰微量		ソフト		焼土粒	C粉
あい	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ややソフト		焼土粒	
い	10YR2/3	黒褐	ローム粒			ソフト		焼土粒	C
土塙63	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ややソフト		焼土粒	炭化物
あい	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	<あ>よりローム多量	ややソフト		焼土粒	<あ>より焼土多量
う	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒		ソフト		焼土粒	C多量 炭化物
通路A	10YR3/3	暗褐	ローム粒	火山灰微量混り少ない		ソフト		焼土粒	C 土器
アイ	10YR3/3	暗褐	礫粒			ハード		焼土粒	C 炭化物
ロ	10YR3/3	暗褐	礫粒			ローム粒		ソフト	
ハ	10YR2/2	黒褐	ローム粒	混り少ない		ソフト		焼土粒	C
ニ	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	火山灰微量混りあり	ソフト		焼土粒	C
ホ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ややハード		焼土粒	
ヘ	10YR4/4	褐	礫粒	全粘質		ハード		焼土粒	C
チ	10YR3/33/4	暗褐	礫粒	ローム粒		しまりあり	ややハード	焼土粒	C 骨
リ	10YR3/3	暗褐	礫粒多量	ローム粒	ロームブロック	ややソフト		焼土粒	土器
ヌ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ややハード		焼土粒	C 土器
通路B	10YR2/3	黒褐	シルト	火山灰微量		ソフト		焼土粒	C粉
あい	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ややソフト		焼土粒	
い	10YR2/3	黒褐	ローム粒			ソフト		焼土粒	C
う	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック基盤粒	ハード		焼土粒	C微量
え			粒	基盤粒					
お	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック基盤粒			焼土粒	微量 土器
か	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック基盤粒	ハード		焼土粒	C少量
き	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック基盤粒	ハード		焼土粒	微量 C
く	10YR3/4	暗褐	粒	基盤粒					
	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック基盤粒	ややハード		焼土粒	C少量
通路B溝	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	ソフト		焼土粒	少量 C
1									
イ	7.5YR4/4	褐	全粘質	基盤粒	<ピンク系>	ソフト			
通路B溝	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	ややハード		焼土粒	微量 C微量
2									
A	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック基盤粒	ややソフト		焼土粒	微量
B									
C	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	ハード		C	
D	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	ソフト		C	
通路B溝	10YR3/3	暗褐	礫粒			ややしまりあり	ややソフト	焼土粒	C少量 土器
64									
イ	10YR2/3	黒褐	礫粒	火山灰多量		ソフト		焼土粒	C少量
ロ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ソフト		焼土粒	微量
ハ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ポロポロ	しまりなし	ソフト	湿性
ニ	7.5YR3/3								
ホ	10YR2/3	黒褐	シルト			ソフト	湿性	焼土粒	C微量
ヘ	10YR3/3	暗褐黒褐	火山灰少量	シルト		ソフト	湿性	焼土粒	微量
ト									
チ	10YR3/3	暗褐	礫粒	基盤粒		ソフト	湿性	土器	
	10YR4/4	褐	礫粒	基盤粒		ハード			
溝47	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒		ソフト		焼土粒	C微量
あい	10YR3/3	暗褐	礫粒			<溝47-あ>よりやや明るい		焼土粒	微量 C微量 土器
溝39	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ややソフト		焼土粒	土器
イ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ソフト		焼土粒	C微量 土器
ロ									
P180	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ソフト		焼土粒	C
イ									
P184	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	ややソフト		C	
イ									
ロ	10YR2/3	黒褐	黒褐	礫粒	ローム粒	ややハード		C	
ハ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		ややハード		C	
ニ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒多量		ややハード		C多量	
小P	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ポロポロ		焼土粒	微量
イ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ソフト			
P259	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ややハード		焼土粒	C
イ									
ロ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	ややハード		焼土粒	C

ハニホ	10YR3/3 10YR3/3 10YR3/3 10YR4/3	暗褐 暗褐 暗褐 にぶい黄褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒	基盤粒 基盤粒	ハード しまりなし ハード ソフト	ボソボソ	焼土粒 C 焼土粒 C 焼土粒 土器 焼土粒 土器
P 275	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ソフト		焼土粒微量 C微量
イロハニホ	10YR3/3 10YR3/3 10YR3/3 10YR4/3 10YR4/3	暗褐 暗褐 暗褐 にぶい黄褐 にぶい黄褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒多量 ローム粒		ややハード ややハード ソフト ややハード ソフト	<イ>よりやや明るい	焼土粒 焼土粒 C微量 C微量 焼土粒 焼土粒 C少量
P 298	10YR5/4	にぶい黄褐	全基盤礫			ガラガラ		焼土粒 C少量 土器
P 336	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	ソフト		C微量
イロ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ややハード		C微量
P 379	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		ややソフト		
イロハニホ	10YR3/3 10YR3/3 10YR4/4 10YR4/4	暗褐 暗褐 褐 褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒	基盤礫	ややハード ややソフト ハード ややハード		焼土粒 焼土粒 C少量 焼土粒
P 487	10YR4/43/4	褐暗褐	礫粒	ローム粒		ハード		焼土粒
イロ	10YR4/4 3/4	褐暗褐 3/4	礫粒	礫粒	基盤粒基盤礫	ハード		焼土粒 C微量
P 415	10YR4/4	褐	礫粒	基盤粒		ソフト		焼土粒 C微量 土器
イロハニ	10YR4/4 10YR3/4 10YR4/4 4/63/4	褐 暗褐 暗褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒			ややハード ソフト ソフト		焼土粒 C微量 焼土粒 C微量 焼土粒 C微量 土器

表5 19 | 21.16.19 | 11.6 東西セクション北壁土層 <E~E'>

I-1	10YR3/4	暗褐	礫粒少量	ローム粒少量				焼土粒少量 C少量
2	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒				焼土粒 C 草根多量
II-1	10YR3/3	暗褐	osa多量	シルト		ソフト		
2	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	osa少量	ややソフト		焼土粒 C
3	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	osa	ソフト 暗い 湿性		焼土粒 C
4	10YR3/33/4	暗褐	礫粒			ハード		焼土粒 焼骨片微量木炭
5	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒			ややハード		
6	10YR3/4	暗褐	ローム粒			ややソフト		炭
III-1	10YR3/33/暗褐		礫粒	小礫		ハード		焼土粒 焼骨片木炭
2	47.5YR3/4							
3	10YR3/4	暗褐	礫粒			ボロボロ		焼土粒微量 木炭
4	7.5YR4/4	褐	ローム粒			ややハード		焼土粒 木炭
5	7.5YR3/4	暗褐	ローム粒			ややソフト		焼土粒 焼骨片木炭
6	10YR3/4							
7	7.5YR4/4	褐	礫粒			ややハード		焼土粒 焼骨片木炭
8	10YR3/4	暗褐	礫粒			ややソフト	ボロボロ	焼土粒 木炭
9	7.5YR4/4	褐	小礫			ややソフト		焼土粒 焼骨片木炭
10	7.5YR4/4	褐	礫粒			ややハード		
11	7.5YR3/2	黒褐暗褐	火山灰多量			サラサラ ソフト		焼土粒少量 C少量
12	3/3							
13	7.5YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		ソフト	ボロボロ 湿性	焼土粒 土器
14	3/3							
15	7.5YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	火山灰	ややソフト		C
16	7.5YR4/6	褐	礫粒	ローム粒		ハード		C 土器
17	10YR3/4	暗褐	火山灰少量			ソフト	しまりなし	焼土粒少量 C少量
18	7.5YR3/3	暗褐	ローム粒	火山灰微量		ややソフト		
19	10YR3/3							
20	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		ややハード		C
21	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	火山灰少量	ややハード		C
22	7.5YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		ハード		焼土粒少量 C少量
23	7.5YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		ハード		C
24	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		ややハード		C 土器1コ
25	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		ソフト <III-24>より暗い		C
26	7.5YR3/3	暗褐	ローム粒	火山灰		ややハード		焼土粒 C
27	7.5YR3/3	暗褐	ローム粒	火山灰		ソフト	ボロボロ	焼土粒 C
28	7.5YR3/4	暗褐	ローム粒	火山灰		ややソフト		焼土粒 C
29	7.5YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		ハード		C
30	7.5YR4/3	褐	礫粒	ローム粒	基盤粒	ソフト	ボロボロ	C
31	10YR2/3	黒褐	ローム粒			ソフト		
32	10YR3/3	暗褐	ローム粒			ソフト		
33	10YR3/4	暗褐	礫粒			ソフト		焼土粒 C 木炭微量
34	10YR3/33/4	暗褐	礫粒	ローム粒		ソフト		
35	10YR4/6	褐	礫粒	ローム粒		ハード		焼土粒 C
36	10YR5/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		ややソフト		C
37	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒			ソフト	しまり有り	焼土粒 C 粘土
38	10YR4/4	褐	礫粒			ソフト		焼土粒 C 粘土
39	10YR4/4	褐	礫粒			ハード		焼土粒 C 粘土

40	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ロームブロック		焼土粒	C			
V-1	7.5YR4/4	褐	礫粒		ハード	焼土粒	C			
2	10YR4/4	褐	礫粒		ハード	焼土粒	C			
3	7.5YR3/3	暗褐			ソフト	焼土粒	C			
4	7.5YR3/3	暗褐			ややソフト	焼土粒	C			
5	7.5YR3/3	暗褐	礫粒		ハード	焼土粒	C			
6	7.5YR4/4	褐	礫粒		ハード	焼土粒	C 骨			
7	7.5YR4/4	褐	礫礫粒		ハード 暗い	焼土粒少量	木炭			
8	7.5YR3/4	暗褐	礫粒		ややソフト	焼土粒	骨片微量 木炭			
	10YR3/43/3									
9	7.5YR4/6	褐			ハード	径1cm程の焼土塊	木炭			
10	7.5YR4/6	褐	礫粒		ハード	焼土粒微量	木炭			
	4/4									
溝81	あ	7.5YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒 火山灰微量	ソフト	やや湿性	焼土粒	C	
溝90	イ	7.5YR3/2	黒褐	ローム粒		ソフト	湿性	C		
	ロ	10YR3/3	暗褐	ローム粒	玉砂利2~3コ	ややソフト		焼土粒	C	
	ハ	10YR3/3	暗褐			ややソフト		焼土粒微量	C微量	
	ニ	7.5YR3/3								
溝91	い	7.5YR3/2	黒褐	ローム粒		ソフト	湿性	焼土粒	炭化物	
	ろ	10YR3/3	暗褐	礫粒	火山灰	ソフト		C		
	は	7.5YR3/3								
	は	10YR3/3	暗褐	ローム粒		ややソフト		焼土粒		
溝9	あ	7.5YR3/2	黒褐	礫粒		ソフト	湿性	焼土粒	炭化物	
	い	7.5YR3/2	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト	(あ)よりやや明るい	C		
	う	7.5YR3/2	黒褐	ローム粒		ややソフト	(あ)より明るい	炭化物		
	え	10YR2/3	黒褐	礫粒		ハード		焼土粒	C	
	お	7.5YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ハード		焼土粒	C	
	か	10YR3/3	暗褐	礫粒		ハード		焼土粒	C	
	き	7.5YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ハード		焼土粒	C	
溝22	あ	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ハード	ややボロボロ	C		
	い	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ややソフト		C		
	う	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒		ややソフト		C		
	え	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ややソフト		焼土粒	C 粘土質	
	え	~4/6								
土 壤	62	あ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ハード			
焼 土	38	イ	7.5YR3/4	暗褐	ローム粒		ややハード	暗い	全焼土粒	C 骨
	ロ	7.5YR4/4	褐	ローム粒		ハード			全焼土粒	C 骨
P 8 3 4	イ	7.5YR4/4	褐	ローム粒	火山灰	ソフト			C	
	ロ	7.5YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 火山灰	ソフト			C	
	ハ	7.5YR4/3	褐	礫粒	ローム粒 基盤粒	(ニ)よりややハード			C	
	ニ	7.5YR4/3	褐	礫粒	ローム粒 基盤粒	ハード			C	
	ホ	7.5YR4/3	褐	礫粒	ローム粒 基盤粒	ボロボロ	ソフト		C	
P 8 3 3	イ	7.5YR3/2	黒褐	火山灰微量		ボロボロ	ソフト		C	
	ロ	7.5YR4/3	褐	礫粒	ローム粒	ややハード			C	
	ハ	7.5YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ボロボロ	ソフト		C	
	ニ	7.5YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ボロボロ	ソフト		C	
	ホ	7.5YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ボロボロ	ソフト		C	
	ヘ	7.5YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード			焼土粒	C
	ト	7.5YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト			C	
	チ	7.5YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒				焼土粒	C 土器
	リ	7.5YR3/4	暗褐	礫粒		ハード	混り少ない		C	
	ス	7.5YR4/4	褐	礫粒	ローム粒 基盤粒	ボロボロ	ソフト		C	
P 7 9 3	イ									
	ロ									
	ハ									
P 7 9 2	イ									
P 7 7 3	イ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ハード			焼土粒	
	ロ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード				
	ハ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	小礫 中礫	ハード				
P 7 6 1	イ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒		ややソフト			焼土粒	C
	ロ	10YR3/43/3	暗褐	礫粒少量	ローム粒	ボロボロ	ソフト	粗	粘土質	
	ハ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	(ロ)より少しハード				

表6 19J 25.20.15.10. 5 .18J 25.20.15東西セクション北壁土層〈F~F'〉

1-1	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	砂利			焼土粒	
2	10YR3/3	暗褐	ローム粒			ソフト		C少量	草根多量
3	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒				焼土粒	C
4	10YR3/4	暗褐	ローム粒塊	砂		ソフト	粗	土器片草根	(耕作による攪乱有)
II-1	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒	osa多量				焼土粒	C少量
III-1	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒				C	
2	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒				C	
3	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		やや密		焼土粒	C
4	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		ソフト		C微量	
5	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒				焼土粒少量	
6	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒				焼土粒微量	
7	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		<III-11>よりソフト		焼土粒	
8	10YR4/6	褐	礫粒	ローム粒		密	ハード	C	
9	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		密	ハード	C	やや粘土質
10	10YR4/4	褐	礫粒	ロームブロック				焼土粒	C

	4/6							
11	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード	焼土粒	C少量	
12	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	<III-14>よりややソフト	C少量		
13	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ハード	C微量		
	~3/4							
14	10YR6/8	明黄褐	礫粒	ローム粒	しまりあり	ハード	C微量	
15	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	密	ハード	焼土粒 C少量 粘土質	
16	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	<III-30>よりややソフト	焼土粒	C	
	3/4							
17	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	しまりあり	ややハード	C少量 粘土質	
18	7.5YR5/6	明褐	礫粒	ローム粒	暗褐土混ざる	やや明るい	C少量	
19	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	少量	ややしまりあり	焼土粒微量	
20	10YR4/6	褐	礫粒	ローム粒	少量		C微量 土器少量	
21	10YR4/44/6	褐	礫粒	ローム粒	少量	ロームブロック	焼土粒微量 C少量	
22	10YR5/6	黄褐	ローム粒	少量	ややしまりあり	<III-24>よりソフト	C少量	
23	10YR5/4	にぶい黄褐	ローム粒	ロームブロック	ややしまりあり	明るい		
24	10YR5/4	にぶい黄褐	ローム粒	少量	ロームブロック	ややしまりあり	C微量	
25	10YR5/4	にぶい黄褐	ローム粒	少量	ロームブロック	少量	しまりなし ソフト <III-27>よりやや暗い	
							焼土粒微量	
26	10YR5/8	黄褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	しまりあり	ややハード	C少量
27	10YR4/4	褐	礫粒			ハード	焼土粒 C 粘土混り	
28	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ソフト	焼土粒 C	
	~3/4							
29	10YR4/4	褐	礫粒	ロームブロック			C	
30	10YR4/6	褐	礫粒			ハード	焼土粒 C 粘土混り	
31	10YR4/4	褐にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	火山灰	密	ハード	焼土粒 C少量 粘土混り
	~4/3							
32	10YR4/4	褐	礫粒			ハード	焼土粒 C 粘土混り	
	~4/6							
33	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒				焼土粒 粘土混り	
V-1	10YR4/4	褐	小礫粒	ローム粒	ややハード	土器片	粘性有り	
溝60	イ	10YR3/43/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ややハード	C	
	ロ							
溝52	あ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	少量	焼土粒 C	
	い	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	少量	焼土粒 C	
	う	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	少量		
	え	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	少量	<あ>よりソフト ソフト ソフト	
溝50	あ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		C	
溝51	イ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	少量	C	
	ロ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		焼土粒 C	
	ハ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		焼土粒 C	
	ニ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒			
	ホ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ローム粒	
	ヘ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		<ロ>よりややソフト	
	ト	10YR4/4	褐	礫粒	ロームブロック		<ハ>よりソフト	
	チ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒			
	リ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		焼土粒 C	
	ス	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		<イ>より焼土粒多量 C	
	ル	10YR4/4	褐	礫粒	ロームブロック		C やや粘土質	
溝12	あ	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	少量	C微量 土器	
	い	10YR5/4	にぶい黄褐	ローム粒	少量	ロームブロック	少量	
	う	10YR6/8	明黄褐				しまりなし ソフト ややしまり有り しまり有り <III-14>に近いがよりハード	
溝	あ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		ややソフト	
	~3/4						焼土粒 C	
溝82	あ	10YR3/4	暗褐	ローム粒	少量	砂	やや密 ソフト	
土	あ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		<I-3>よりソフト	
壕	あ	~3/4					焼土粒 C	
P8	イ	10YR4/4	褐	礫粒	ロームブロック		C	
	ロ	10YR4/4	褐	礫粒	ロームブロック		C	
	ハ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒		C	
	ニ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ロームブロック		焼土粒少量 C	
	ホ	10YR4/4	褐	礫粒	ロームブロック		C	
	ヘ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		<ニ>よりソフト	
	ト	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		C	
	チ	10YR4/4	褐	礫粒	ロームブロック		C	
P5	イ	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		ハード	
	ロ	~4/6					焼土粒 やや粘土質	
	ハ	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		焼土粒	
	ニ	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		焼土粒	
	ニ	10YR4/46/4	褐	礫粒	ローム粒		ソフト	
P 1 4 1	イ	10YR5/6	黄褐	<ローム粒	ロームブロック	やや多量	ややしまり有り	
	ロ	10YR4/6	褐	ローム粒	ロームブロック	少量	ややしまり有り 暗い	
	ハ	10YR4/4	褐	ローム粒	少量		ややソフト	
P2	イ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	火山灰	少量	
	ロ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ロームブロック		<イ>よりハード	
P2	ハ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	火山灰	少量	
	ニ	10YR4/4	褐	礫粒				
	ホ	10YR3/3	暗褐	礫粒				
P3	イ	10YR4/4	褐	小礫粒	ローム粒	少量	砂	
	ロ	10YR4/3	にぶい黄褐	小礫粒	ローム粒	微量	砂	
	ハ	10YR4/4	褐	小礫粒	少量	ローム粒	微量	
	ニ	10YR4/3	にぶい黄褐	小礫粒	ローム粒	微量	砂	
小Pit	あ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒			ソフト	
段	あ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム		<溝51-ニ>よりややソフト	

表7 19J23.18.13.8.3.18J23.18.13東西セクション北壁土層〈G~G'〉

I-1	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ソフト	C	
2	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒		焼土粒 C	
3	10YR3/3	暗褐	礫粒	ロームブロック 砂粒		草根多量	
4	10YR2/2	黒褐	礫粒		ソフト	C微量 草根	
5	10YR3/3	暗褐	礫粒	ロームブロック 砂粒		C微量 草根	
6	10YR2/3	黒褐	礫粒	ロームブロック	ソフト		
7	10YR2/3	黒褐			ロームブロック微量	砂粒微量	
II-1	10YR3/3	暗褐90%褐10%	礫粒	ローム粒	ソフト	C	
2	10YR4/4						
3	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒少量	Os-a固まって入る	ソフト	C	
4	10YR3/4	暗褐	礫粒少量	ローム粒 ロームブロック	ややソフト		
5	10YR2/3	黒褐	礫粒微量	ローム粒		焼土粒 C	
6	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	C	
III-1	10YR5/6	黄褐	礫粒	ロームブロック50%	ハード	C 粘性	
2	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	C やや粘性	
3	10YR6/6	明黄褐	礫粒 (3%)	全面ローム	ハード	C	
4	10YR4/4、 4/6	褐	礫粒	ローム粒 ロームブロック	ソフト ややしまりあり やや明るい やや粘性	焼土粒 C	
5	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒 (5%)	ややしまりあり	焼土粒少量 C少量	
6	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒		焼土粒微量 C	
7	10YR5/63/4	黄褐~暗褐明	礫粒	ローム粒 全面ローム	ハード やや明るい やや粘性	C	
8	10YR3/3	暗褐	ローム粒	火山灰多量	ソフト	焼土粒 C	
9	10YR4/4	褐にぶい黄褐	礫粒	ローム	ハード	焼土粒	
10	10YR3/2	黒褐	礫粒	ローム粒 基盤礫砂利混り	少しザラザラ	焼土粒 C	
11	10YR4/4	褐	礫粒	ローム	ハード	焼土粒 C少量	
12	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒 ローム質	砂粒		
13	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト	C微量 草根多量	
14	10YR3/3	暗褐	礫粒極小	ローム粒	ややハード		
15	10YR3/3	暗褐	礫粒極小	ローム粒	〈III-14〉より軟		
16	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒 砂粒			
17	10YR3/4	暗褐	礫粒微量	ロームブロック	ソフト 暗い しまりあり	C	
18	10YR1.7/1	黒褐+褐			ハード	炭化層	
19	7.5YR4/4						
20	5YR3/6	暗赤褐80%			ハード		
21	7.5YR4/4	褐20%					
22	10YR3/4	暗褐	礫粒微量	ほぼローム質	ハード		
堅穴67	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒 ロームブロック (40%)	ややハード 粘性	C	
1	10YR5/6	黄褐60%	礫粒	ローム粒 火山灰少量	ややハード 粘性	C	
2	10YR4/4	褐 40%					
3	10YR4/6	褐	礫粒	ローム粒 ロームブロック (10%) 火山灰少量	ややソフト 粘性	C	
4	10YR4/6	褐	ローム粒	ロームブロック (10%)	ソフト 粘性	C	
5	10YR4/45/6	褐黄褐	礫粒	ローム粒少量 ロームブロック (50%) 粘性		C	
6	10YR4/6	褐	礫粒	ローム粒 ロームブロック (15%)	ややハード 粘性	C	
7	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒 (5%)		ソフト 粘性	C	
堅穴65	10YR2/3		ローム粒			焼土粒 C	
イ	10YR4/4	褐	ロームブロック			C	
ロ	10YR3/3	暗褐	ローム粒			焼土粒 C	
ハ	10YR3/4	暗褐				焼土粒 C	
ニ	10YR2/3	黒褐	ローム粒少量	火山灰		C	
ホ	10YR2/1	黒			ザラザラ	焼土粒少量 全面炭化物	
ヘ	10YR3/4	暗褐	ローム粒		サラサラ ソフト	C	
ト	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒 C	
チ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒		焼土粒 C	
リ	10YR4/4	褐	ロームブロック		ややハード	C	
ス	10YR4/4	褐					
溝イ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ややソフト		
ロ	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒(3%) ロームブロック	ややしまりあり	C	
ハ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒 (5%)	ややソフト	C微量	
ニ	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒少量	ローム粒 (3%) ロームブロック (10%)		C	
ホ	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	しまりあり やや粘性	焼土粒 C	
溝60	イ	10YR5/4	にぶい黄褐	ローム粒 ロームブロック (10%) 火山灰	ソフト やや粘性	C 土器	
溝52	あい	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト やや粘性	C
う	10YR2/3	黒褐	ローム粒	ロームブロック	ソフト 粘性なし	C	
溝53	イ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒 火山灰 (5%)	ソフト 粘性なし	C
ロ	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒 (20%)	ソフト やや粘性	C	
ハ	10YR4/6	褐	礫粒	ローム粒 (10%)	ソフト 粘性	C	
ニ	10YR4/6	褐	礫粒	ローム粒 (25%) 火山灰	ややしまりあり	C	
溝38	い	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒 (5%)	ソフト 粘性あまりなし	C少量
ろ	10YR4/4	褐	礫粒少量	ローム粒 火山灰	ソフト 粘性なし	C	
溝61	イ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 (10%)	ソフト	焼土粒 C
a	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒 ロームブロック (5%)	ソフト	焼土粒 C やや粘性	
b	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒 (10%) ロームブロック	ソフト 粗	焼土粒 C やや粘性	
溝66	イ	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒 ロームブロック (5%)	ややソフト	C やや粘性
溝1	イ	10YR2/3	黒褐	礫粒微量	ローム粒	ソフト	草根



溝74	イ ロ ハ ニ ホ ヘ	10YR3/3 10YR3/3 2/3 10YR3/3 10YR4/3 3/4 10YR3/3 10YR3/3	暗褐 暗褐黒褐 暗褐 にぶい黄褐、暗 褐 暗褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒		ソフト 湿性 ソフト 湿性 ソフト 湿性 ソフト 湿性 ややソフト 湿性 湿性	C微量 土器 C微量 焼土粒 焼土粒 土器
溝76	イ ロ	10YR4/3 10YR4/3	にぶい黄褐 にぶい黄褐	ローム粒 礫粒	ローム粒 ローム粒	ロームブロック	ソフト ハード	混りなし C少量 土器
溝73	イ ロ ハ ニ ホ ヘ	10YR3/3 10YR3/4 10YR3/4 10YR3/3 10YR4/3 3/4 10YR3/4	暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 にぶい黄褐暗 褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒	ローム多量	ソフト ソフト ソフト ハード ソフト サラサラ ソフト	C微量 C微量 土器 C微量 C微量 C微量 C微量 焼土粒 C少量
溝27	イ ロ ハ ニ ホ ヘ ト チ リ	10YR3/3 10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4	暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 暗褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒	火山灰 玉石	ソフト ソフト ややソフト <イ>より混り多い ソフト <ロ>より暗い ソフト やや暗い ややハード ややハード ソフト	C微量 C少量 C少量 焼土粒 C少量 C微量 焼土粒 C少量 C微量
溝a	イ ロ ハ ニ ホ	10YR3/3 10YR3/3 10YR2/3 10YR3/3 10YR3/3	暗褐 暗褐 黒褐 暗褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒	基盤粒少量	ややソフト ややソフト <イ>より暗い ソフト ややソフト ややソフト	C C 焼土粒微量 C C微量 焼土 C微量
溝	イ ロ ハ ニ ホ ヘ	10YR4/3 10YR3/3 10YR3/4 10YR4/3 10YR3/4 10YR3/4	にぶい黄褐 暗褐 暗褐 にぶい黄褐 暗褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒	ロームブロック <イ>よりロームブ ロック少ない火山灰少量玉石 火山灰微量	ハード ソフト ややソフト ややハード ややソフト	C少量 土器 C少量 炭化物 C微量 C微量 土器 C少量
溝	イ ロ ハ ニ ホ	10YR3/4 10YR3/4 10YR2/3 10YR4/3 10YR3/4	暗褐 暗褐 黒褐 にぶい黄褐 暗褐	礫粒 礫粒 礫粒 礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒 ローム粒	火山灰少量 火山灰	ややハード ソフト	焼土粒 C微量 焼土粒 C微量 焼土粒 C少量 焼けた土 焼土粒 C少量 炭化物土器焼けた土 C微量
溝 あい	10YR3/3 10YR3/4	暗褐 暗褐	礫粒 礫粒	ローム粒 ローム粒			ややソフト ややハード	焼土粒 焼土粒 C微量
溝(新)イ	10YR3/4 4/4	暗褐褐	礫粒	ローム粒			ソフト 湿性	C微量 粘質 土器
溝(旧)あ	10YR4/4 3/4	褐暗褐	礫粒	ローム粒			ハード	焼土粒

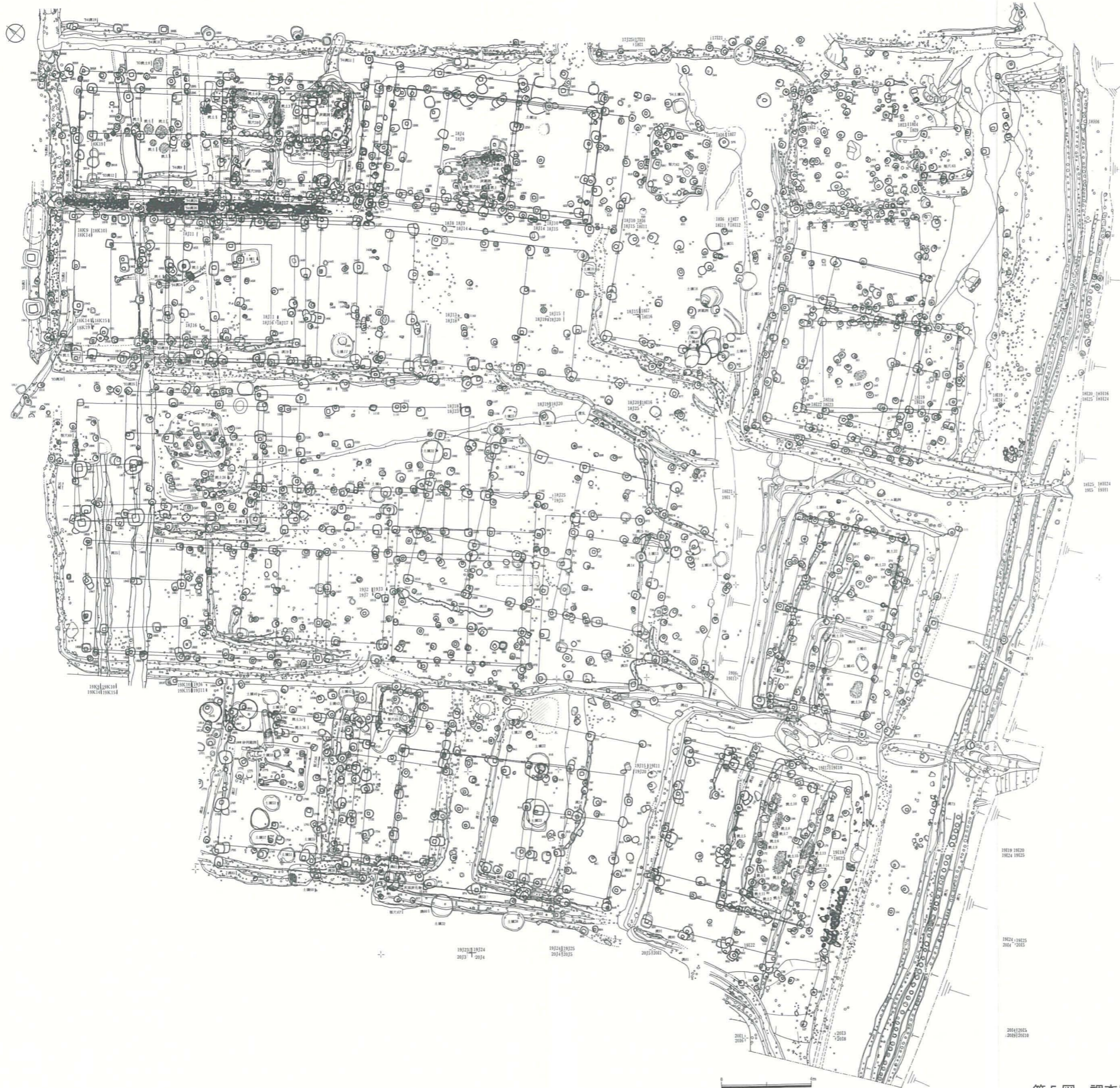
が逆になる事が確認された。この結果を踏まえて再検討した結果、P1992、P2017、P2021で北側2間×2間、南側2間×3間の2室に仕切られる建物跡であることが想定された。P2017とP2018は、柱のやり換えがなされたための切り合いと推される。

**第3号建物跡**(第8図)：18K5、10、18J1、2、6、7区に位置する。昨年度の調査で3間×5間と想定された建物。今年度の調査で、前年度はこの建物につながるとしていたP1412、P1428は第12号建物跡に使用されるものであると判明した。前年度は1つと見ていたP1362が4回の切り合いを持つ穴であったため、これを踏まえて再検討した結果、2間×5間の総柱の建物跡であると想定された。この建物は、概報XVI-溝25、64、86で区画され、その時期には概報XVI-溝26は使用されず、石で埋められていたようである。第2号建物跡は前述の通り概報XVII-溝26を伴う建物であるから、第3号建物跡は第2号建物跡より新しいものである

と推される。

**第4号建物跡**(第9図)：18J3、5、8、9区に位置する。前年度の調査ではL字になる柱列が想定されていたが、今年度の調査でP627が検出されたため、やや長軸が北に傾く3間×4間の建物跡であると想定した。P1198、P1208もしくはP1209、P1251で北側に3間×3間、南側に1間×3間の2室に仕切られると推される。P627とP1198、P563とP1261の柱間が12.0尺と他の桁行の柱間より2倍近く長いと、この間に柱穴があるものとして精査を繰り返したが、柱穴は検出されなかった。P1208とP1209に関しては、柱のやり換えが一度あったのではないかと推される。P1188、P1190、P1191の柱穴の切り合いから第6号建物跡よりは古いものであると推される。

**第5号建物跡**(第10図)：18J3、4、5、8、9、10区に位置する。前年度、建物の南西隅の部分が調査区外に広がると推されたもの。今年度この建物に関して再調査、再検討を行った結果、前年度1



第5図 調査区遺構配置図



つと思われた柱穴がP1201とP1202の2つになることが判明し、P625、P629が検出されたことからP625とP1201の柱間が4.3尺とやや狭いが、3間×5間の建物跡が想定された。P1186、P1236、P1247、P1263で北側1間×3間と4間×3間の2室に仕切られると推される。

**第6号建物跡**(第11図)：18J3、4、8、9区に位置し、当地区の地割りよりやや北に傾く建物跡。前年度調査では3間×5間で、P1197、P1219、P1249、P1253で北側に3間×3間と南側に3間×2間に仕切られる建物が想定されたが、今年度再検討した結果、昨年度柱列の柱穴としたP1173、P1241、P1273、P1376まで桁行がのびる建物であると想定された。

**第7号建物跡**(第12図)：18J3、4、8、9区に位置する。昨年度調査の際、3間×4間の建物跡であり、P567、P1204、P1207で北側3間×3間、南側1間×3間に仕切られると想定されたものである。今年度の調査では柱穴の変更はなかったが、建物跡北西側にL字の塀らしきものが付随すると想定した。塀のP1243と母屋のP564、P567、P1256の切り合いから、第5号より新しいものと推される。(第1～7号建物跡：柳沼)

**第8号建物跡**(第13図)：調査区内北東部分18J11、12、16、17、18K14、15、19、20区の地割面内に位置し、18J11、12、16、17、区内にある。9号建物跡の南側に位置し、2/3が重複する。梁間3間、桁行4間の南北棟を想定した。建物軸線はN38°Wである。梁間は6.6尺等間で全長19.8尺、桁行は北から3間は6.6尺等間、残り1間は7.3尺、全長27.1尺である。北から桁行3間にP1432-P1447-P1463-P1483で東西に間仕切りを有する。東側端部の柱穴は削平されたのか欠失している。建物面積は49.26㎡である。梁間北側柱穴列3基、西側桁行柱穴列3基が11号建物跡を構成する柱穴に切られている。尚西側端部柱穴P1920等は11号建物跡を構成するP1921と切り合い関係が逆転しているが、掘り間違いである。

**第9号建物跡**(第14図)：調査区内北東部分18J11、12、16、17、18K14、15、19、20区の地割面内に位置し、18K15、20、18J11、16区内にある。第10号建物跡の北側に位置し、4/5が重複する。梁間2間、桁行4間の南北棟を想定した。建物軸線はN40.5°W。梁間は6.9尺等間で全長13.8尺、桁

行は北から5.9尺、4.6尺、南側は6.3尺等間で全長23.1尺である。梁間西側中央部分柱穴が欠失している。桁行は東端部が欠失、西側柱列は北から2基目のP1925のみ浅いが、他はほぼすべて深さが揃っている。建物面積は29.26㎡である。西側桁行柱穴列2基が10号建物跡を構成する柱穴に切られている。

**第10号建物跡**(第15図)：調査区内北東部分18J11、12、16、17、18K14、15、19、20区の地割面内に位置し、18K15、20、18J11、16区内にある。第9号建物跡の南側に位置し、4/5程重複する。梁間3間、桁行3間の南北棟を想定した。建物軸線はN39°W。梁間は6尺等間で全長18尺、桁行は北から2間は7.3尺等間、南側は7.9尺で全長22.5尺である。北から桁行2間目にP1425-P1449-P1495-P1498で東西に間仕切りを持つ。面積は33.75㎡である。西側桁行の柱穴2基が第9号建物跡を構成する柱穴2基を切っている。また東側桁行では第12号建物跡を構成する柱穴に切られている。また桁行柱筋に平行する溝25がこの建物敷地の境界を示すと考えられる。

**第11号建物跡**(第16図)：調査区内北東部分18J11、12、16、17、18K14、15、19、20区の地割面内に位置し、この地割面全体を使った建物跡である。梁間3間、桁行6間の南北棟を想定した。建物軸線はN41°Wである。梁間は7.3尺、残り2間は6.5尺等間で、全長20.3尺、桁行は北から4間が6.6尺、残り2間は7.3尺等間で、全長41.0尺である。北から桁行3間目及び2間目で東西に間仕切りを持つ。面積は76.38㎡である。北から桁行3間目で東西に間仕切りを持つ桁行西側柱穴列4基が第8号建物跡を構成する柱穴を切っている。また南端部柱穴P1479が第12号建物跡を構成する柱穴に切られている。また桁行柱筋に平行する溝24がこの建物敷地の境界を示すと考えられる。

尚この建物跡はP1963とP1916の間の柱穴が削平のため欠失し、本来存在したとすると、やはり平成6年度確認された第11号建物跡及び第3号建物跡に見られる桁行5間、梁間3間の建物跡に類似している。

**第12号建物跡**(第17図)：調査区内北東部分18J11、12、16、17、18K14、15、19、20区の地割面内に位置し、この地割面を使った建物跡ではもっとも新しい建物跡と考えられる。梁間3間、桁行5間

の建物跡を想定した。建物軸線はN38°W。梁間は6.8尺等間で全長20.4尺、桁行は6.6尺等間で全長は33.0尺である。桁行北から3間目に東西に間仕切りを持つ。尚、桁行西部分に北に6.6尺等間の2間のこの建物跡に取り付く塀があると考えられる。建物面積は86.52㎡である。西側桁行柱穴列P1481、P1487がいずれも第11号建物跡を構成する柱穴を切っている。また北東端部柱穴が10号建物跡を構成する柱穴を切っている。

柱穴列(付図)溝24はこの地割面北側を東西に、西部分は南北にのびるが、溝24の北部分及びこの地割整形区画面東側端部に直角に折れ曲がる柱穴列が想定された。溝24北部分の柱穴列はP1939-1969-1975である。そのうちP1939、1969は溝24との切り合いは不明であるが、P1975は溝24を切る形で検出された。いずれも6.3尺等間の2間で全長13.2尺。またこれらに直交してこの地割整形区画面東側端部で南北にのびる柱穴列P1975-P1977-P1982-P1411-P1417-P1426-P1433-P1436が想定された。柱間は北から6.3、5.7、6.3、6.3、5.0、7.9、6.3尺の7間で全長43.8尺であり、やや不揃いである。このうちP1411、1417はそれぞれ11号建物跡を構成するP1412、P1422を切っている。また、P1426、及びP1436はそれぞれ12号建物跡を構成するP1427、P1437に切られている。これらの切り合い関係からみると11号建物跡と12号建物跡の中間の時期にこれらの柵のようなものが作られたかあるいは11号建物跡と12号建物跡の中間の時期にこの柵で囲まれた別の建物跡があったことが考えられる。

**第13号建物跡(第18図)：**調査区内北東部分18J13-15、18-20区、8-12号建物跡の南東側に位置する。梁間3間、桁行4間の南北棟を想定した。建物軸線はN35°Wである。梁間は西から6.6尺、5.9尺、5.9尺で全長18.4尺、桁行は北から3間は6.6尺等間、残り1間は7.9尺、全長42.9尺である。建物面積は約72.48㎡である。桁行北から3間目に東西に間仕切りを持つ。また桁行西部分に南へ7.6尺等間のこの建物跡に取り付く2間の塀があると考えられる。桁行西側柱穴列に平行する溝82がこの建物跡敷地の境界を示すと考えられる。土壌27を切っているが、その他建物跡との柱穴間どうしの重複はない。

**第14号建物跡(第19図)：**調査区内北西側8-12

号建物跡の南側、18K19、20、25、18J16、17、21、22区の地割面上に位置し、ここでは第14-17号建物跡が確認されている。梁間3間、桁行4間の南北棟を想定した。建物軸線はN38.5°W。梁間は5.9尺等間で全長17.7尺、桁行は6.3尺等間で、全長25.2尺である。桁行北から1間目および3間目に東西に間仕切りを持つ、また東桁行柱穴列P1855、P1518は柱痕下部に石を据えている。建物面積は41.268㎡。北東端部P1862が第17号建物跡を構成する大型柱穴に切られており、桁行1間目の間仕切りのP1563は竪穴69を切っている。また桁行西側柱穴列に平行する溝2がこの建物跡敷地の境界を示すと考えられる。

**第15号建物跡(第20図)：**調査区内北西側8-12号建物跡の南側、18K19、20、25、18J16、17、21、22区の地割面上に位置する。梁間3間、桁行4間の南北棟を想定した。建物軸線はN36.5°W。梁間は5.8尺等間で、全長17.4尺、桁行は6.8尺等間、全長27.2尺である。14号建物跡と建物空間が2/3程重複する。北西端部柱穴P1862が第17号建物跡の柱穴に切られている。また西側桁行柱穴列P1865、P1630、P1629が14号建物跡を囲む溝2を切っており14号建物跡より新しい。西側桁行柱穴列外側に平行する溝3、北側梁間柱穴列外側に平行する溝26がこの建物跡敷地の境界を示すと考えられる。

**第16号建物跡(第21図)：**調査区内北西側8-12号建物跡の南側、18J16-18、18J21-23、19J1-4区の地割面上に位置する。梁間3間、桁行4間の南北棟を想定した。建物軸線はN38°W。梁間は6尺等間、全長18尺、桁行は6.7尺等間、全長26.8尺。面積は約44.3㎡。北西端部柱穴P1628が溝3を切っていることから、溝3に伴う15号建物跡より新しい。尚この建物跡を区画する溝は検出されなかった。(第8-16号建物跡：斎藤邦典)

**第18号建物跡(第22図)：**調査区北西隅19K10区周辺に位置する。溝2および溝83によって区画される。溝83は19K9区で東に折れた先は後世の削平のためか検出できなかったが、溝7と並行に走っていたものと推される。建物の規模は桁行4間×梁行3間の南北棟を想定したが、北側2間と北東1間分の柱穴は検出できなかった。19J5・10区周辺は、一様に柱穴の深さが浅いことから、削平されたものと思われる。桁行は6.6尺、梁間は5.2尺

と間隔は一定している。この建物を構成するP1648・P1653・P1685・P1820がそれぞれ第19号建物跡を構成するP1647・P1652・P1686・P1819に切られていることから第19号建物跡より古い。

**第19号建物跡**（第23図）：調査区北西隅19K9区周辺、第18号建物跡とほぼ同じ場所に位置する。溝3・溝7によって区画され、溝7は19K9区で東に折れ、中央通路の北側側溝となる。溝3は溝73以北で検出されなかったが、小柱穴の観察から溝7まで延びていると推定される。これら溝は溝2・87を切っている。また、柱穴は第18号建物跡とほぼ同じ位置に掘られ、先に述べたような柱穴の切り合いから、第18号建物跡を建て替えたものと考えられる。建物は第18号建物跡より一周り大きい桁行5間×梁行3間で、桁行を南に1間延ばした格好になる。内部をP1819・P1832・P1840で仕切り、さらに北側をP1843で仕切っている。

**第20号建物跡**（第24図）：調査区北西19J2区周辺に位置する。北及び西を溝4によって区画されるが、南と東の区画は不明である。建物は3間×3間の建物を想定し、更に南あるいは東に延びる可能性があると考え精査を行ったが該当する柱穴は検出できなかった。他の建物跡との関係は、溝4が第19号建物跡を区画する溝3に切られていることから、第19号建物跡より古いと考えられる。また、第18号建物跡と直接の切り合い関係はないものの、第18号建物跡のすぐ後に第19号建物跡を建て替えたものと考えられるから、第18号建物跡よりも古いと思われる。

**第21号建物跡**（第25図）：19J4区周辺に位置する。西を溝12によって区画されるが北・東・南を区画する溝は検出できなかった。建物は、桁行3間×梁行5間の東西棟を想定した。桁行が6.6尺間隔と梁間より長く、梁間は東側1間目が5.6尺、東側2間目が4.3尺と他の柱間(4.9尺)とは寸法が違い、柱間に統一性を欠く。内部はP1004・P1008およびP1031・P1047で3つに仕切り、さらに東側2間×3間をP1042とP1066が仕切る。新旧関係はP998が第22号建物跡のP997、P1094が第25号建物跡のP1093にそれぞれ切られていることから、第21号建物跡は第22号建物跡および第25号建物跡より古いと推される。

この第21号建物跡の西半3間とほぼ同じ場所に柱穴が方形に並んでいる(P1035-P725-P747-

P767-P994-P988-P985-P1016-P1050)。これら柱列は、柱筋が通っていないため、本報告では建物跡としなかったが、その可能性を考慮し、ここに記載しておく。

**第22号建物跡**（第26図）：19J8区周辺に位置する。区画する溝は検出されなかった。おそらく溝12と溝7・83のすぐ西側にある段によって区画されていると思われる。建物は桁行4間×梁行3間の南北棟を想定した。柱間は桁行6.9尺間隔、梁間5.3尺間隔に統一され、また柱穴の大きさも揃っていることから、小規模ながらしっかりした建物であったと思われる。内部は南側1間をP1005とP1027で仕切っている。他の建物跡との関係は、P1665が第19号建物跡のP1664を切っているため新しく、P1027とP1034が第25号建物跡のP1025、P1033にそれぞれ切られているため古い。第21号建物跡とは前述の通り第22号建物跡が新しい。

**第23号建物跡**（第27図）：19J10区周辺に位置する2間×2間の建物である。他の建物跡と切り合い関係がなく、時期が判然としないが、この建物跡単独であったとは考えにくく、周辺の建物、位置関係から恐らく第22号建物跡の付属の建物であったと思われる。しかし、第21号建物跡と建物の軸線がやや異なるので明言はできない。

**第24号建物跡**（第28図）：第23号建物跡とほぼ同じ19J10周辺に位置する。桁行4間×梁行2間の東西棟で北東隅の柱穴は検出できなかった。桁行4間の内、東3間は5.6尺と一定だが、西1間は7尺とやや広い。内部はP722で1間と3間に仕切られる。新旧関係は、P750が第25号建物跡のP749に切られ、第21号建物跡に伴うと考えられる溝12をP720が切っていることから、第22号建物跡と同時期かその前後の時期のものと考えられる。

**第25号建物跡**（第29図）：19J14区周辺に位置する桁行5間×梁行3間の南北棟である。桁行の北1間は8.3尺と他の桁よりやや広くとる。内部は桁行を北からP1093・P1044、P668・P724で1間・2間・2間に仕切り、さらに中央の2間×3間をP1033で梁間を2間・1間に仕切っている。柱穴はほぼ一様の規格で掘られており、覆土も掘り方が火山灰を多く含んだ褐色土で共通している。新旧関係については、前述の通り第21号建物跡・第22号建物跡・第24号建物跡建物の柱穴を切っており、この地割の中では最も新しい建物跡である。区画

する溝は溝18と溝82を想定したが、溝82は南隣の地割りから北方向へ向かう通路の西側側溝と考えられ、果たして通路の側溝が即この建物の区画溝となり得るのかどうか、溝18が途中で検出できなくなるほどはっきりしないものであったことなど、検討の余地がある。また、他の建物跡が殆ど同じ方向であるのに対し、この建物は著しく振れている。新しい段階の建物は、周りに建物が少なくなった分、地割に関係なく建てられた可能性があるとする鈴木亘先生のご教示もあることから、この建物を区画する溝は存在しなかったとも考えられる。

第18～25号建物跡があった地割りから溝7・83・12と高さ約20cmの段を隔てた西側は一段高く整地され、一つの大きな地割りが形成されている。この地割りが形成された時期は定かではないが、この2つの地割りを跨いで建てられた建物跡が想定されないことから、勝山館の早い時期のものではないかと考えられる。

**第26号建物跡**（第30図）：19J18区周辺に位置する。柱穴が不揃いな桁行3間×梁行2間の東西棟で、東1間をP931で仕切る。区画溝は溝38としたが、この溝を切るP887をP886が切っており、新旧関係についてなお検討の余地がある。

**第27号建物跡**（第31図）：19J17区周辺に位置する桁行4間×梁行3間の南北棟である。桁行南1間をP1719とP1729で仕切る構造になっている。建物の西を溝45、東を段あるいは溝7か溝83で区画されていると考えられるが、南北を区画する溝は検出できなかった。新旧関係では第26号建物跡の区画溝である溝38を切る溝61をP1740が切っているので第26号建物跡より新しいと思われる。この建物跡の南側に、柱列P953-P938-P912-P887がある。当初この柱列まで建物跡が延びると考えたが、建物跡の南北柱列P1809-P1719-P930およびP1767-P1729-P909に対応するP938とP912が柱筋にのらないこと、先述のようにこの建物跡より古いとした第26号建物跡の柱穴P886がP887を切っており、新旧関係が逆転してしまうことなど、現段階では可能性を示すに留めておく。

**第28号建物跡**（第32図）：19J16区周辺に位置する南北棟である。今年度の調査区内で北端が閉じなかったことから、更に北へ延びると考えられる。現段階では南側3間分、梁間も3間である。内

部は南端1間をP1764とP1760で仕切っている。北西端のP1752からは、柱材が完全な形で出土した（第58図-10）。

**第29号建物跡**（第33図）：19J20区周辺に位置する3間×3間の建物である。建物の北および西をL字型に掘られた溝37に、東は先述の段或いは溝12によって区画される。南は、溝9によって区画されると思われる。この区画の地形は、ほぼグリッドポイント19J20-19J25のラインから南に向かって下がっており、南端の柱列の柱穴は他の柱穴に比べて極めて浅い。しかし、柱穴の底のレベルは大差ないので、この建物を壊した後整地するために削られたと思われる。新旧関係は、後述の第30・31号建物跡の柱穴が土壇22を切っているのに対し、P920は逆に切られていることからこれら建物跡より古いと考えられる。

**第30号建物跡**（第34図）：19J19区周辺に位置する桁行4間×梁行3間の南北棟である。北と南を区画する溝は検出されなかったが、東は第29号建物跡と同様段か溝12に、西は溝60によって区画されると考えられる。内部はP914とP901に北3間南1間に仕切られる。

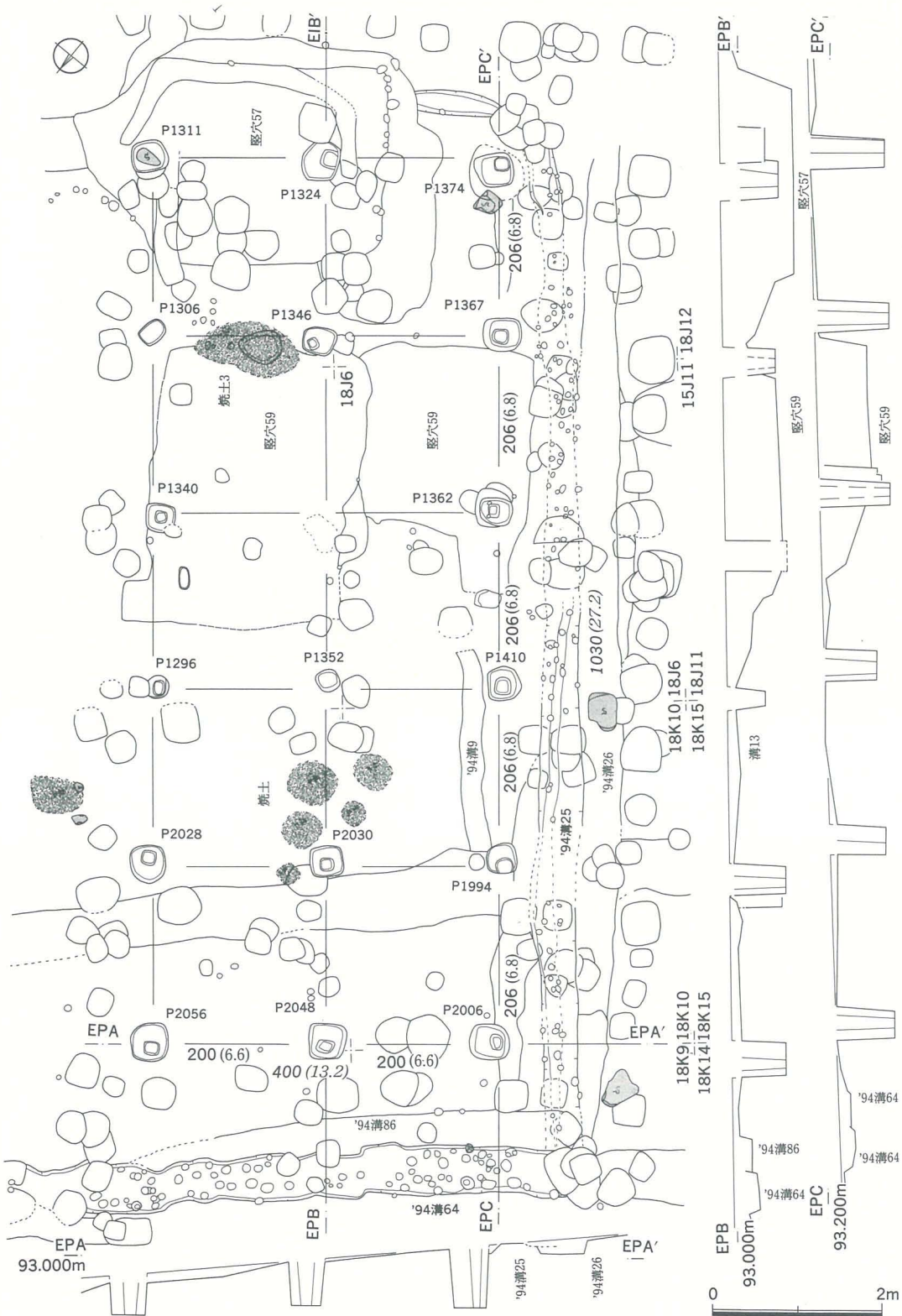
**第31号建物跡**（第35図）：19J19区周辺に位置する桁行5間×梁行3間の南北棟である。第30号建物跡と同じ箇所に建てられており、第30号建物跡を更に南に1間延ばして建て替えたものと考えられる。内部はP915とP899で北3間南2間に仕切り、更に南側をP912で東1間西2間に仕切っている。北東端のP932は第30号建物跡でも使ったが、第31号建物跡でも引き続きこの柱穴を使ったか或いは別の柱穴を見つけきれなかったためである。南端の柱列は第29号建物跡と同様、底のレベルは他の柱穴とほぼ同じであるが、上部が削られている。南東端の柱穴は検出できなかったが、すぐ東側にある石がその名残かも知れない。北端の柱列全てとP848・P918・P933には柱の沈みを抑ええるために置かれた石が出土した。地割は西を溝52、東を段或いは溝12で区画されている。

（第18～31号建物跡：佐藤）

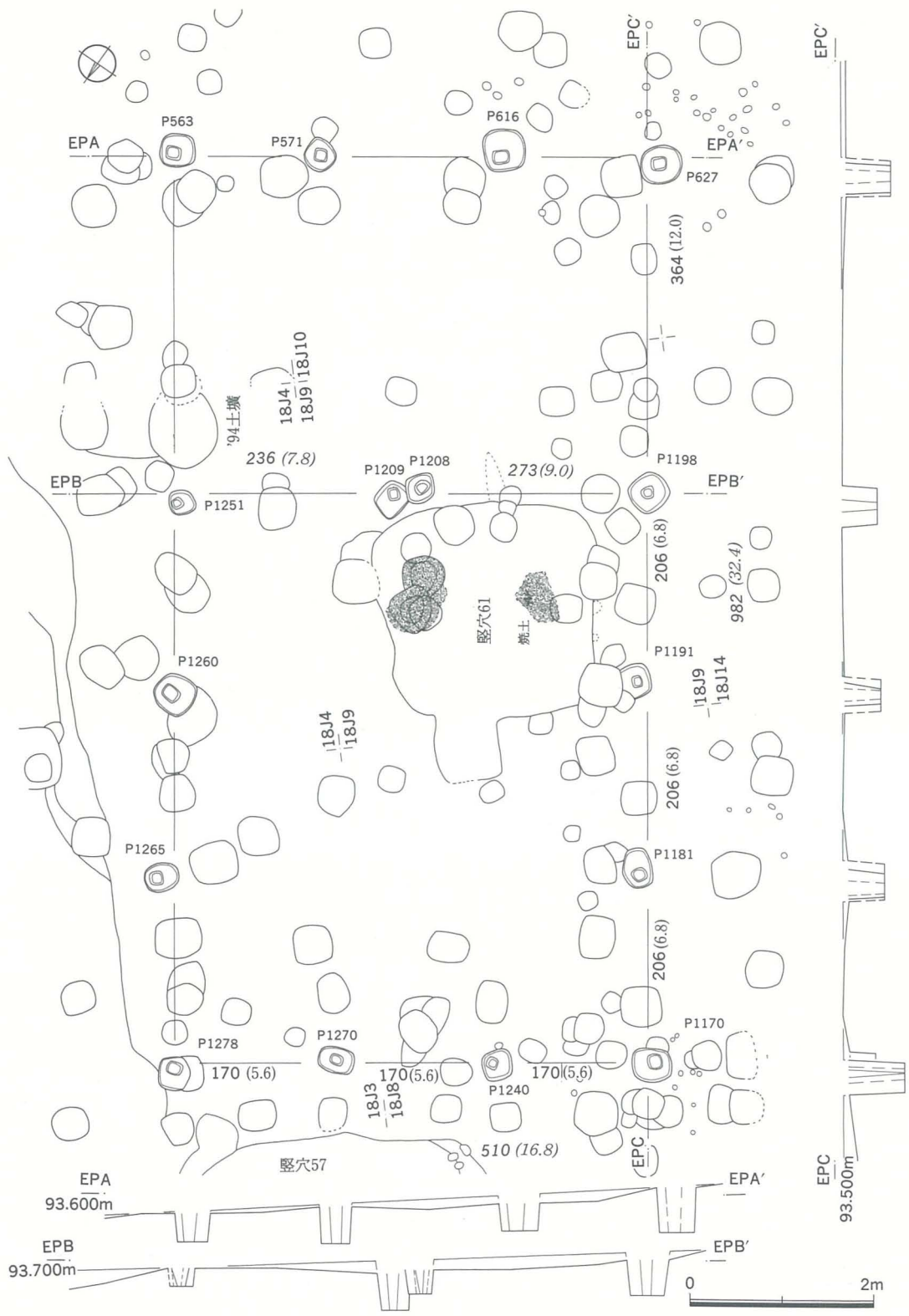
**第32号建物跡**（第36図）：調査区東、18 I 13区周辺に位置する。2間×2間の南北棟の建物跡を想定した。柱間寸法は梁間は東から6.0、6.6尺、桁行7.9尺等間、規模は3.82×4.78mである。柱穴同士の新旧関係により、第36号建物跡よりも古いも





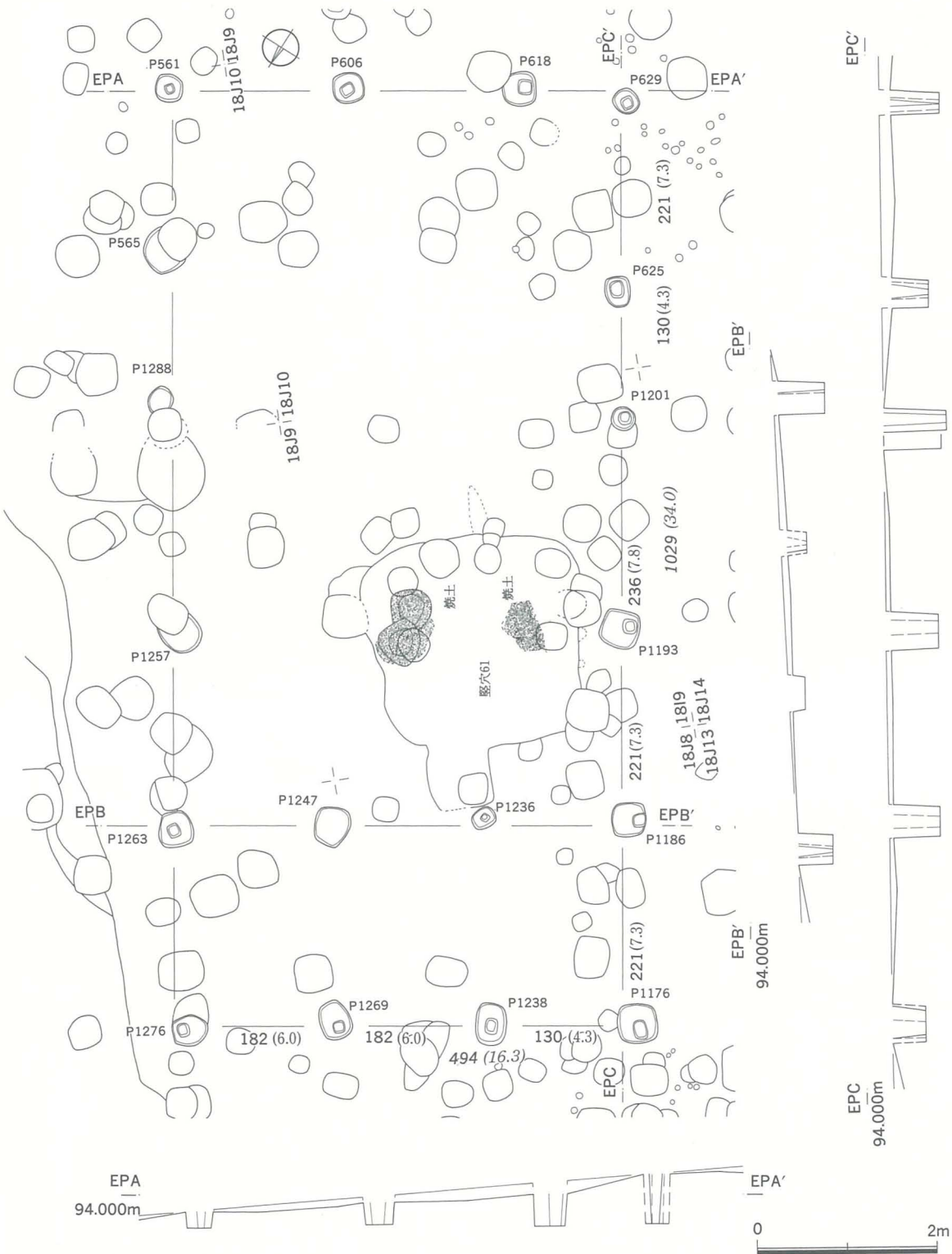


第8图 第3号建物跡想定图

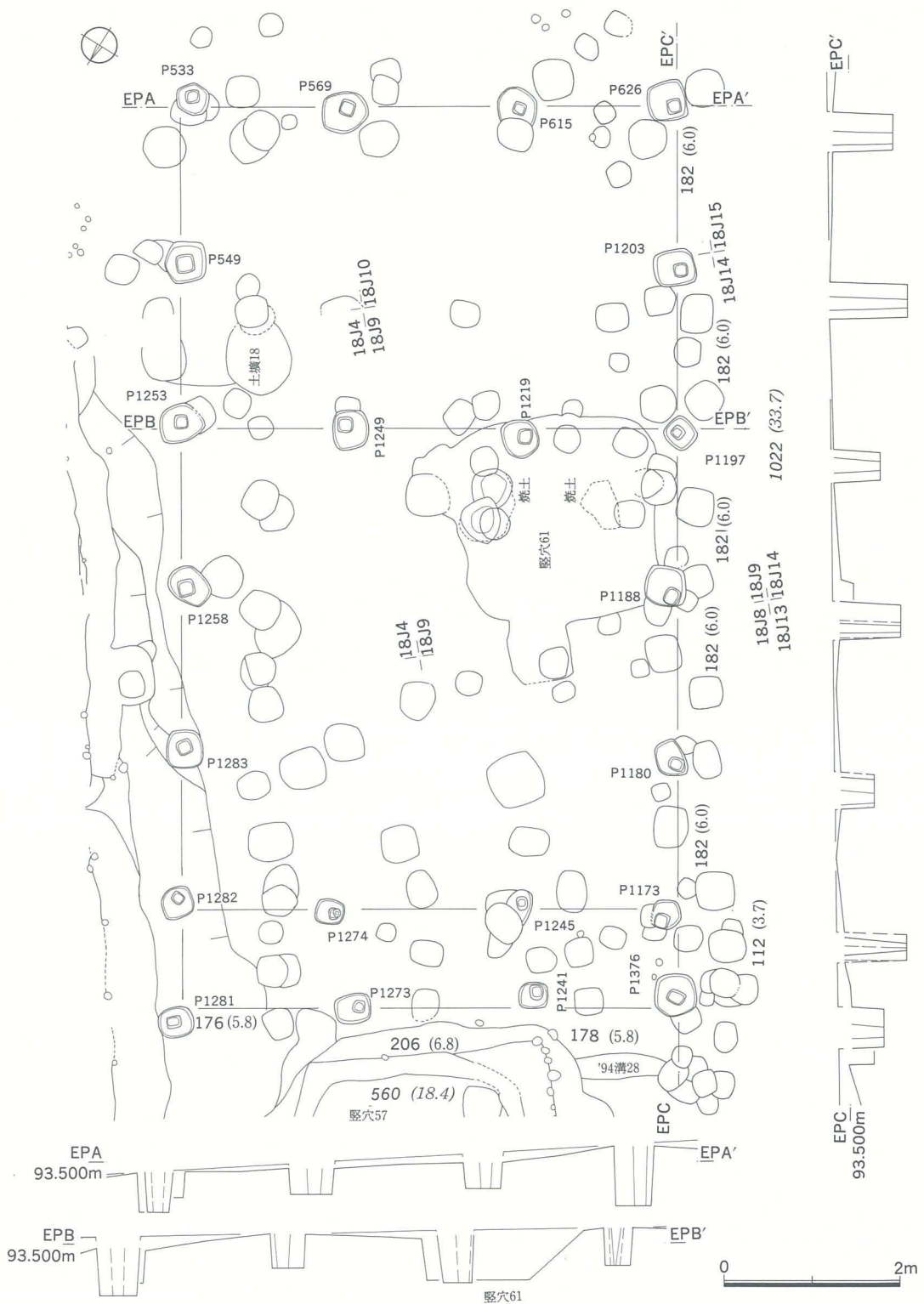


第9图 第4号建物迹想定图

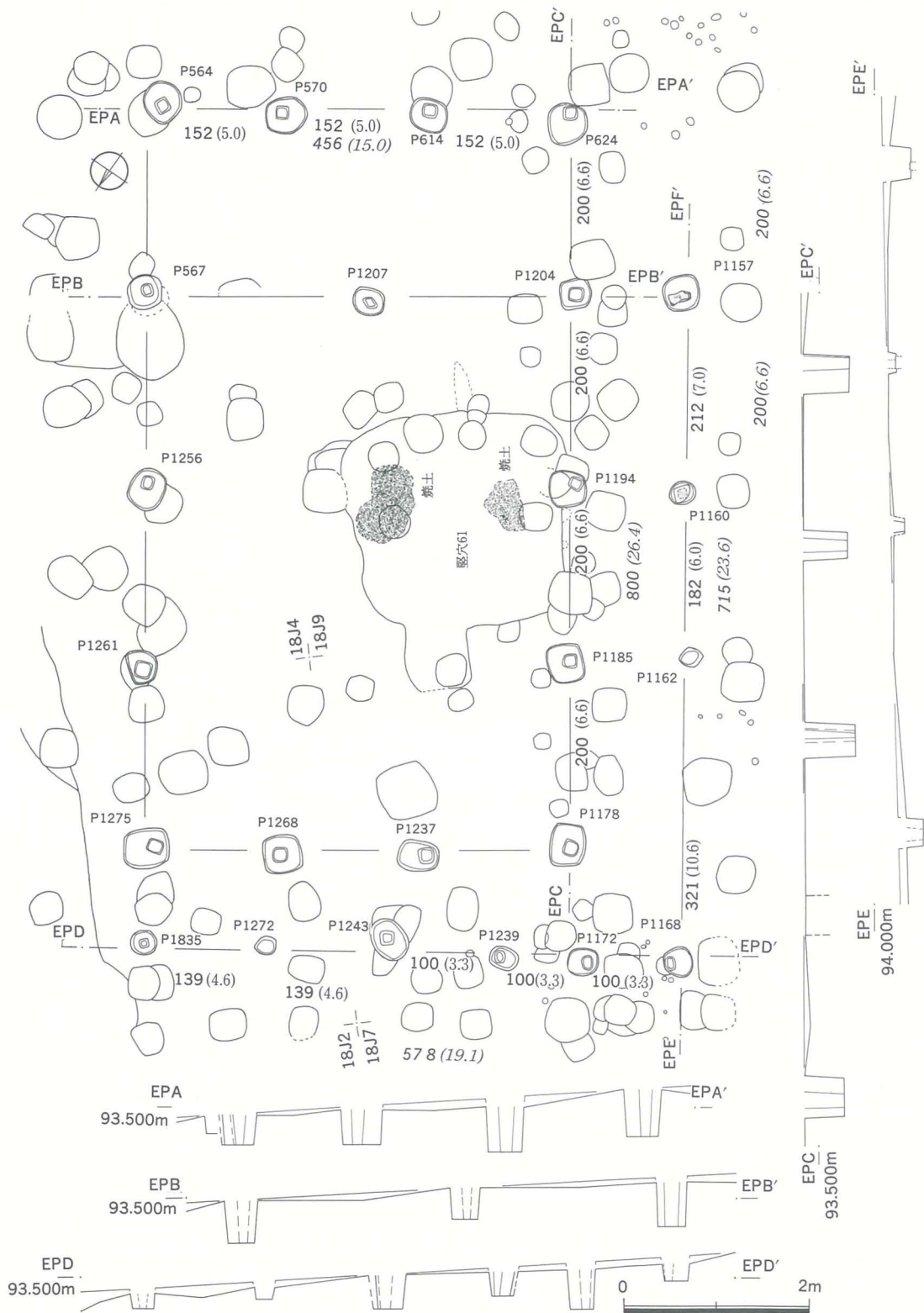




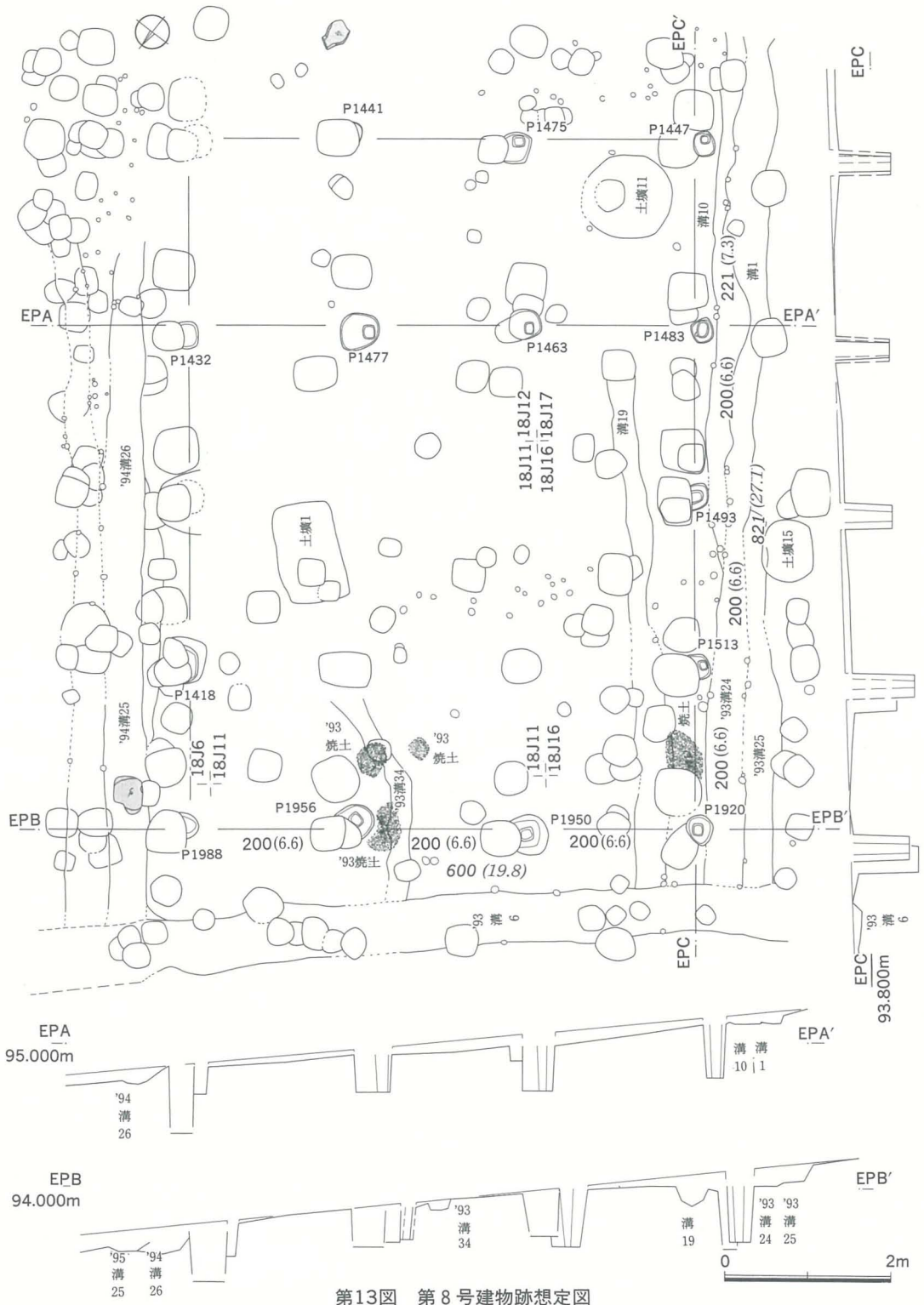
第10図 第5号建物跡想定図



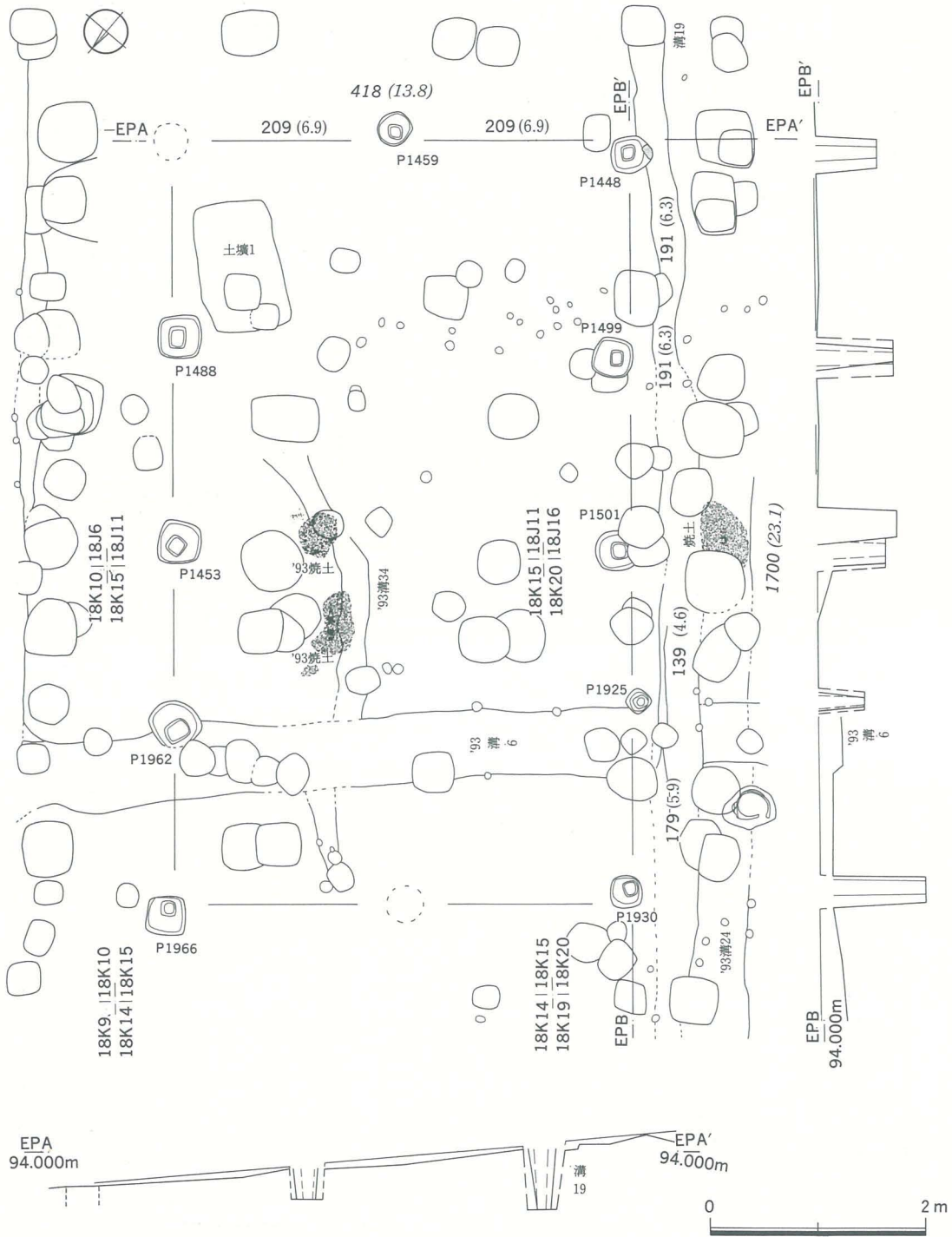
第11图 第6号建物跡想定図



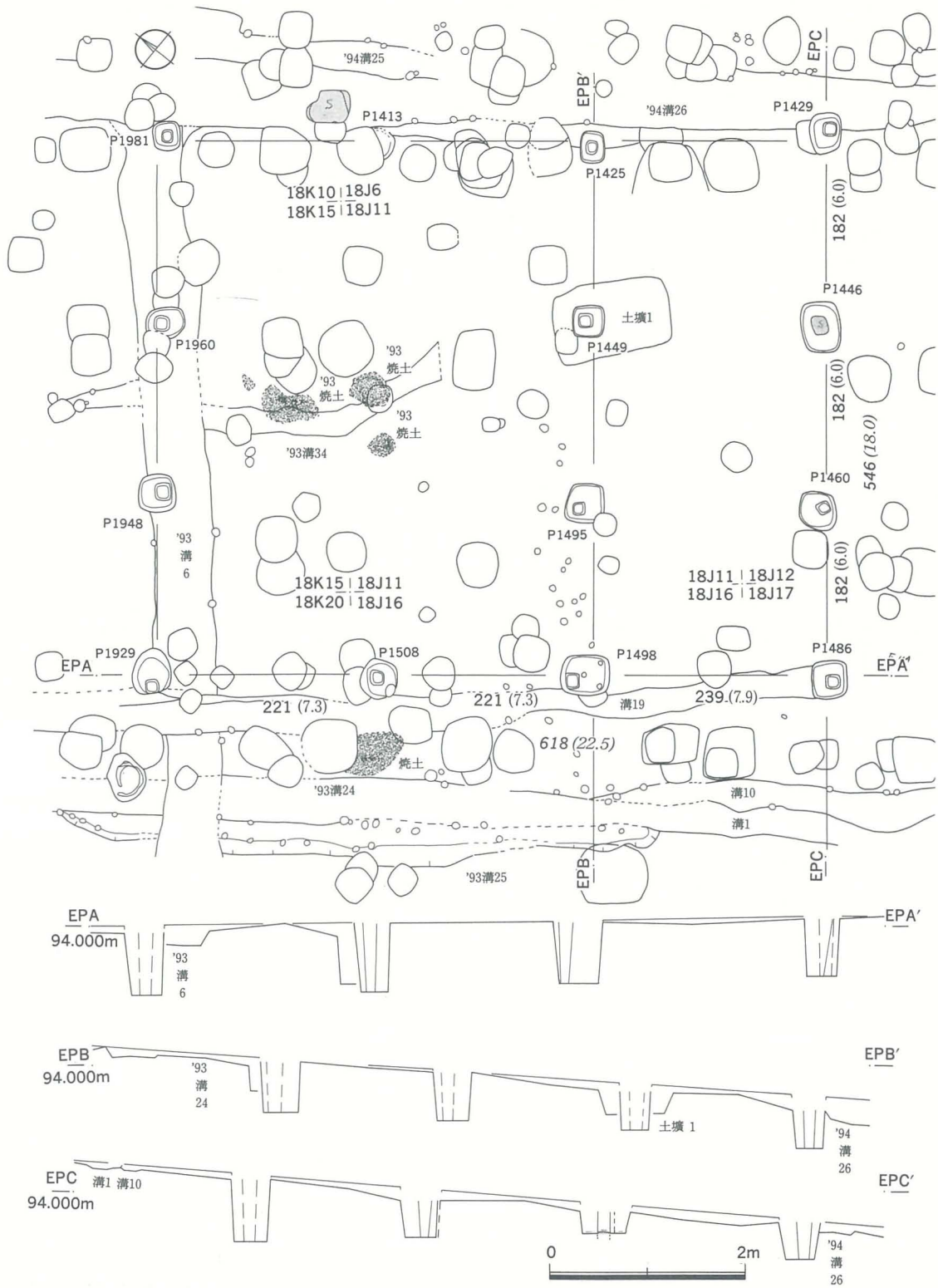
第12图 第7号建物迹想定图



第13図 第8号建物跡想定図

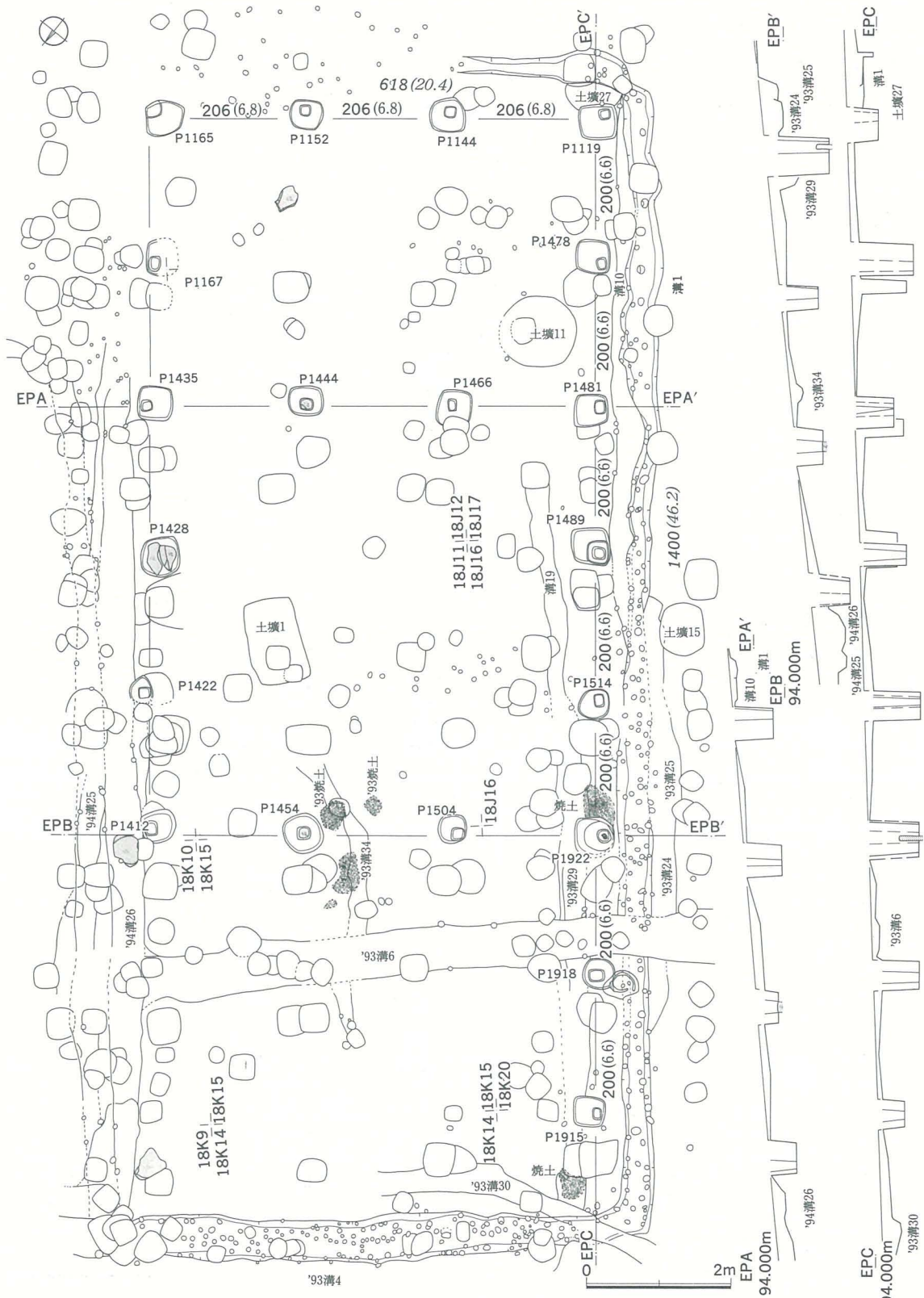


第14図 第9号建物跡想定図



第15图 第10号建物跡想定图

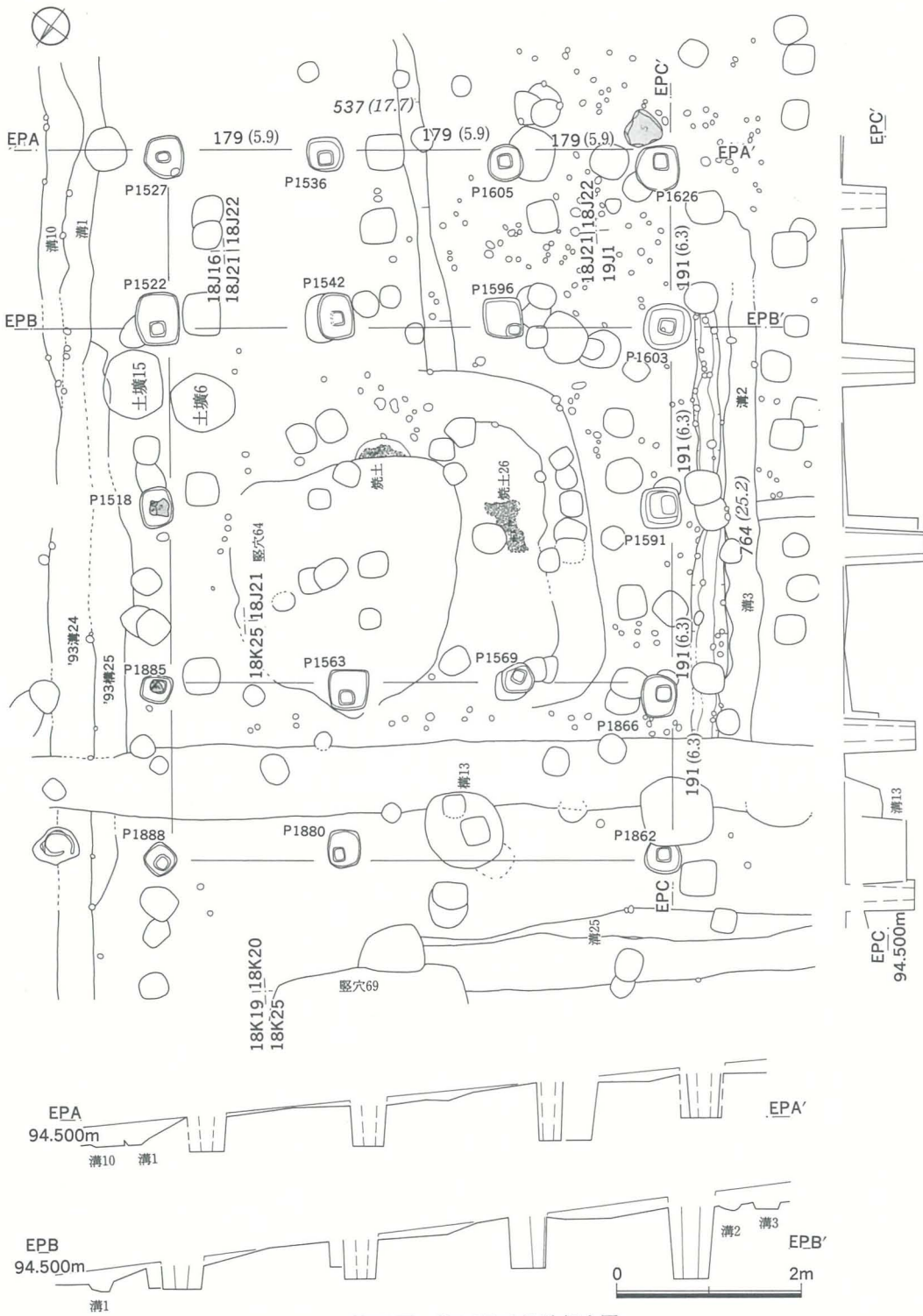




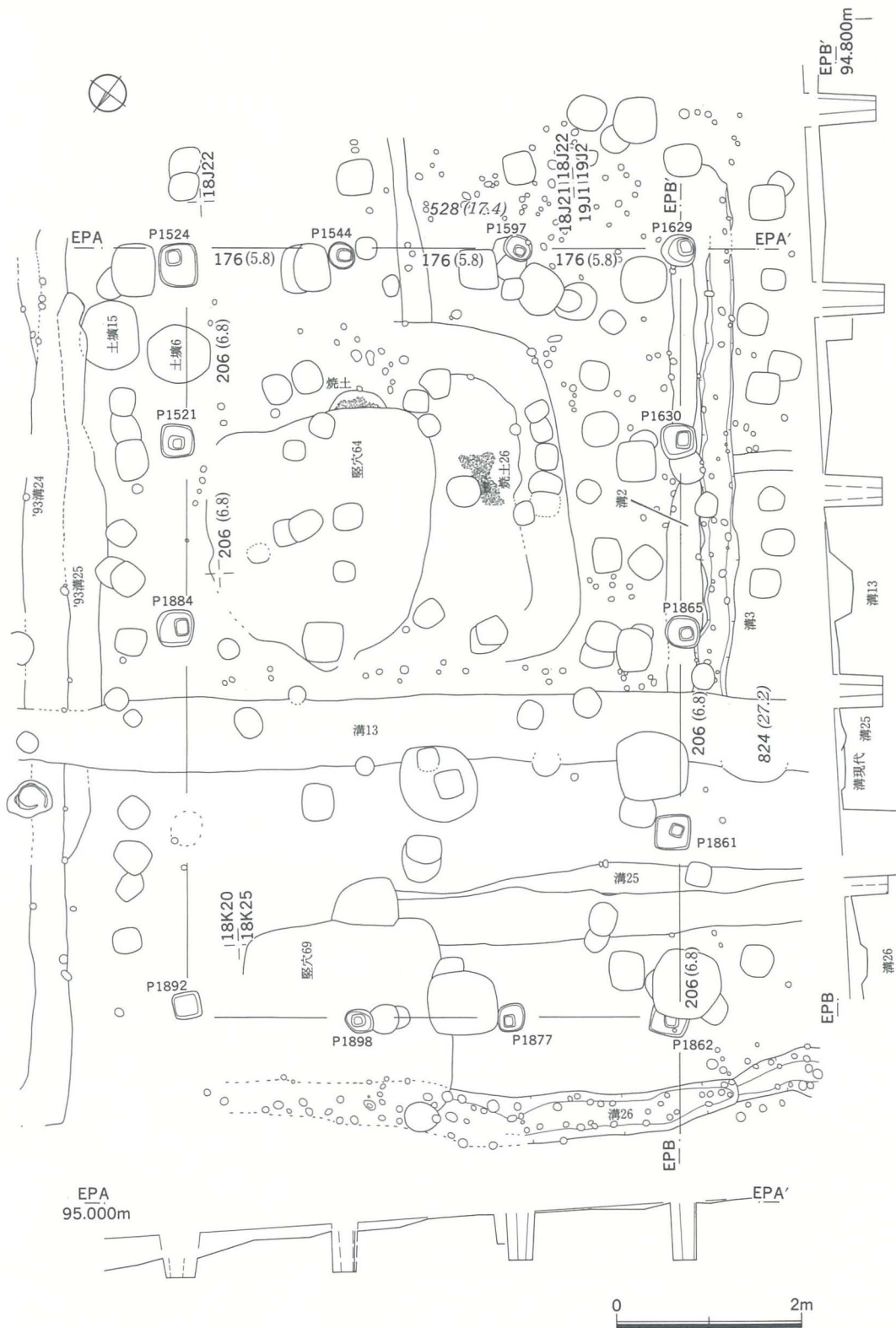
第17図 第12号建物跡想定図



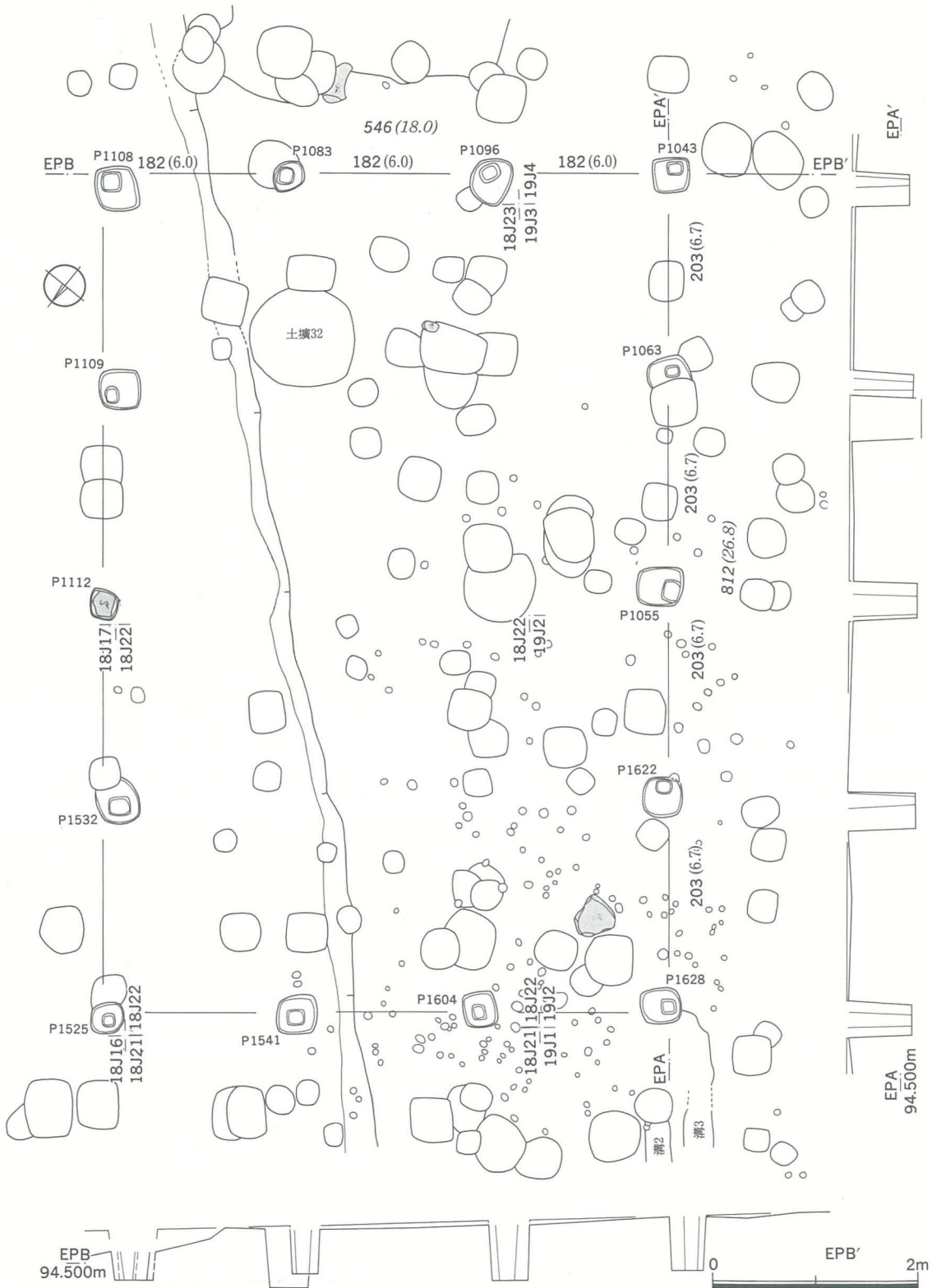




第19図 第14号建物跡想定図

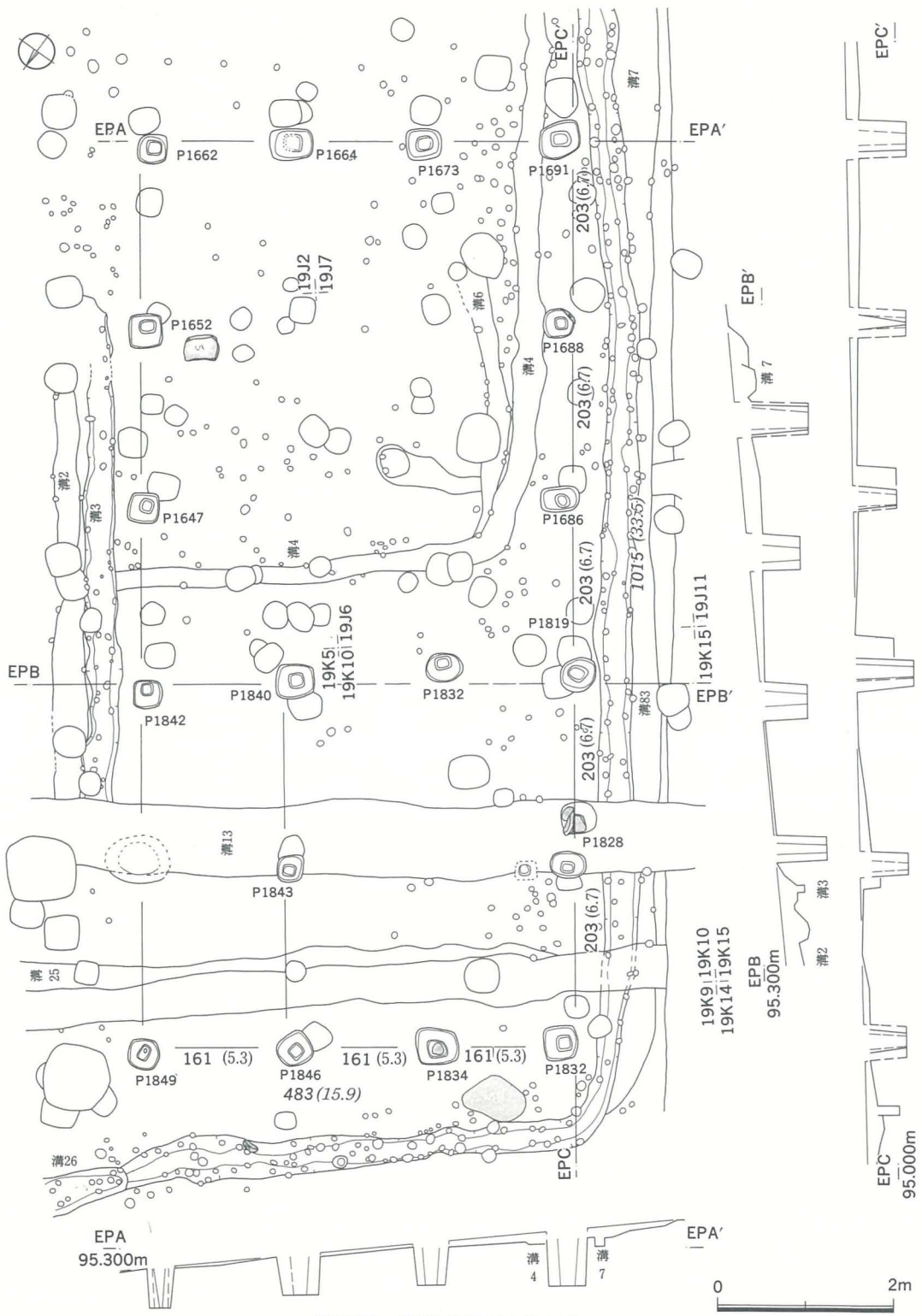


第20図 第15号建物跡想定図

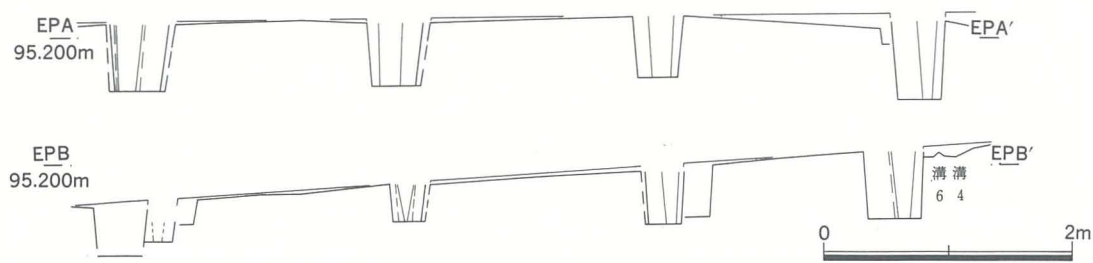
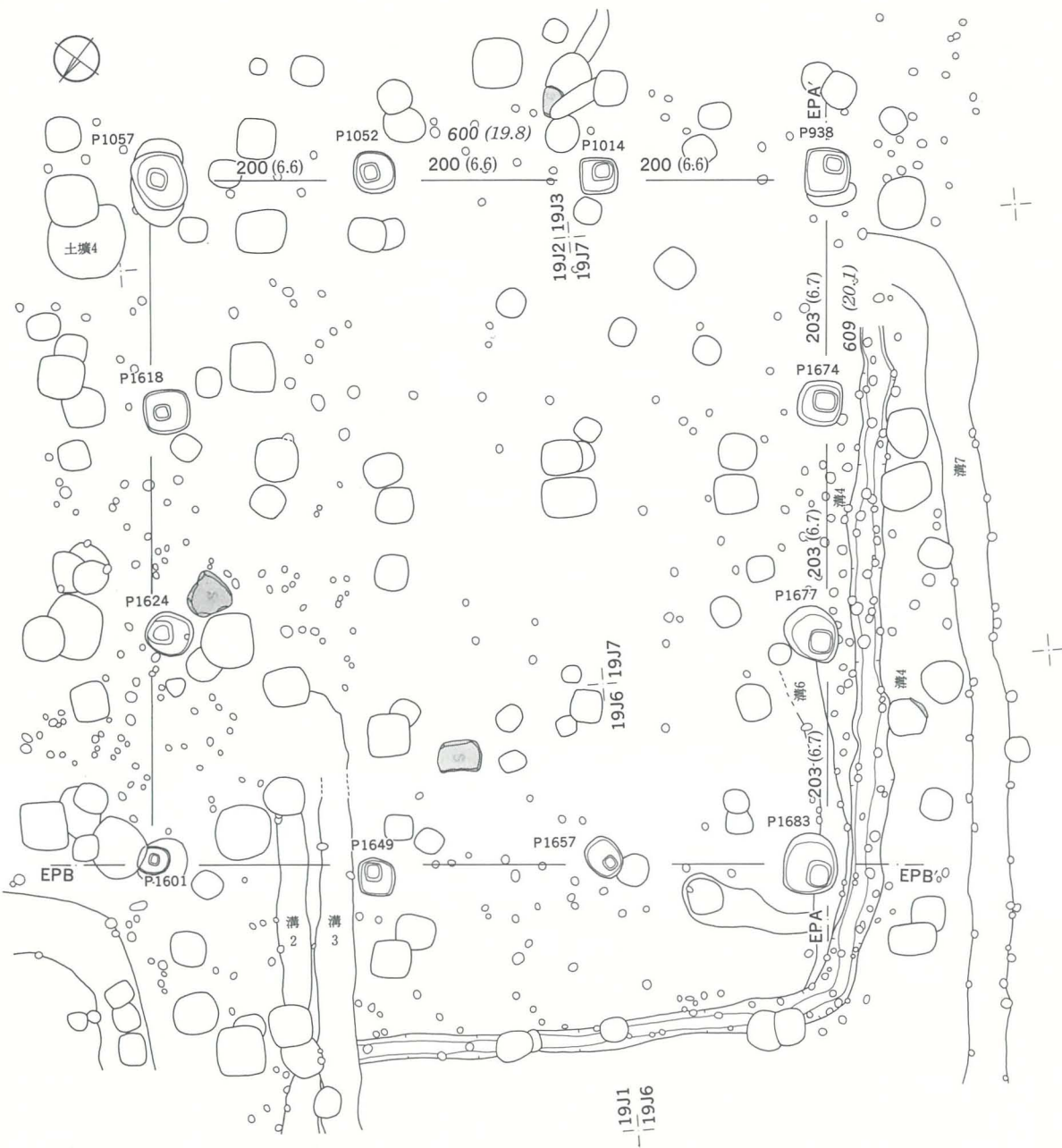


第21図 第16号建物跡想定図

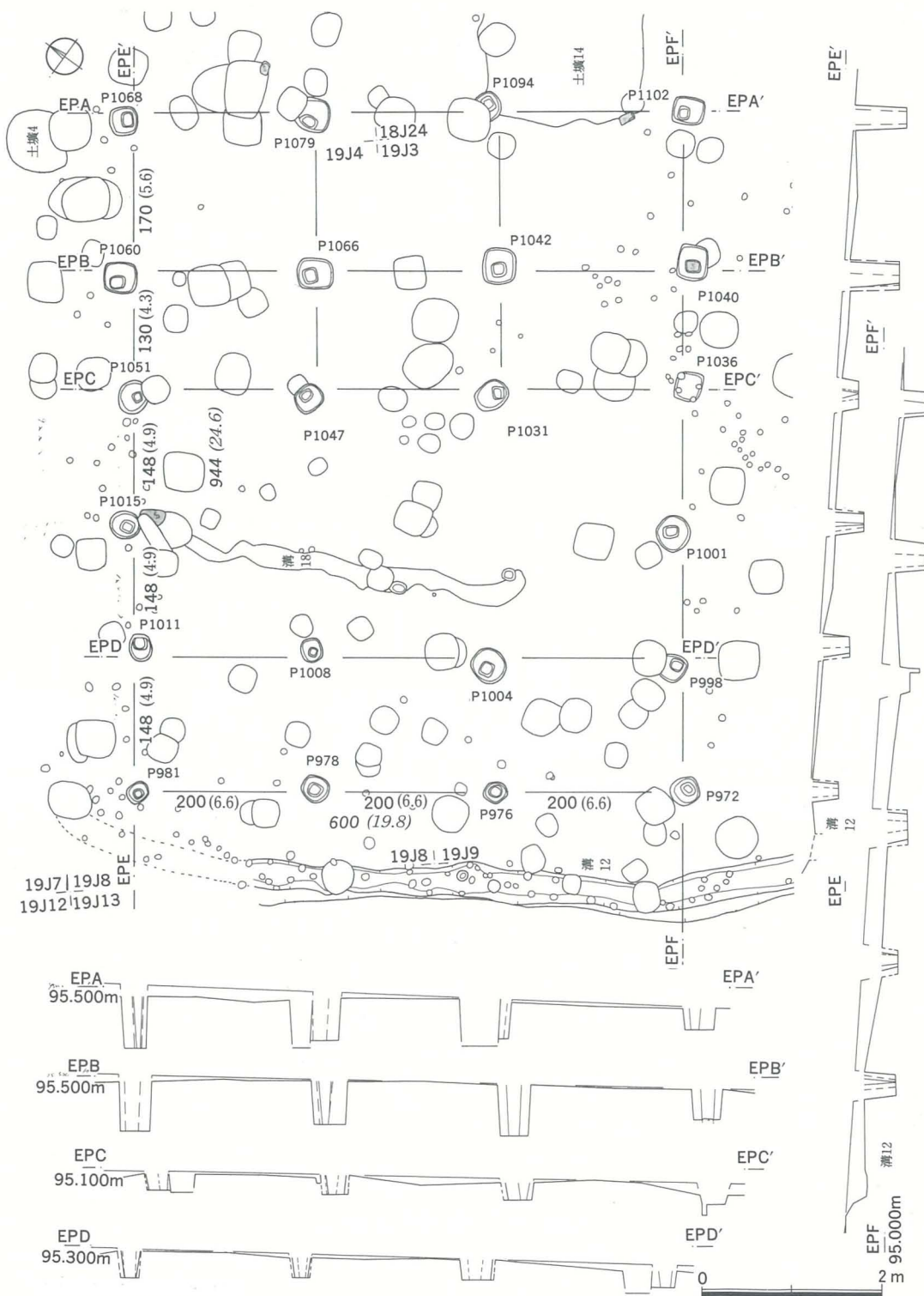




第23図 第19号建物跡想定図

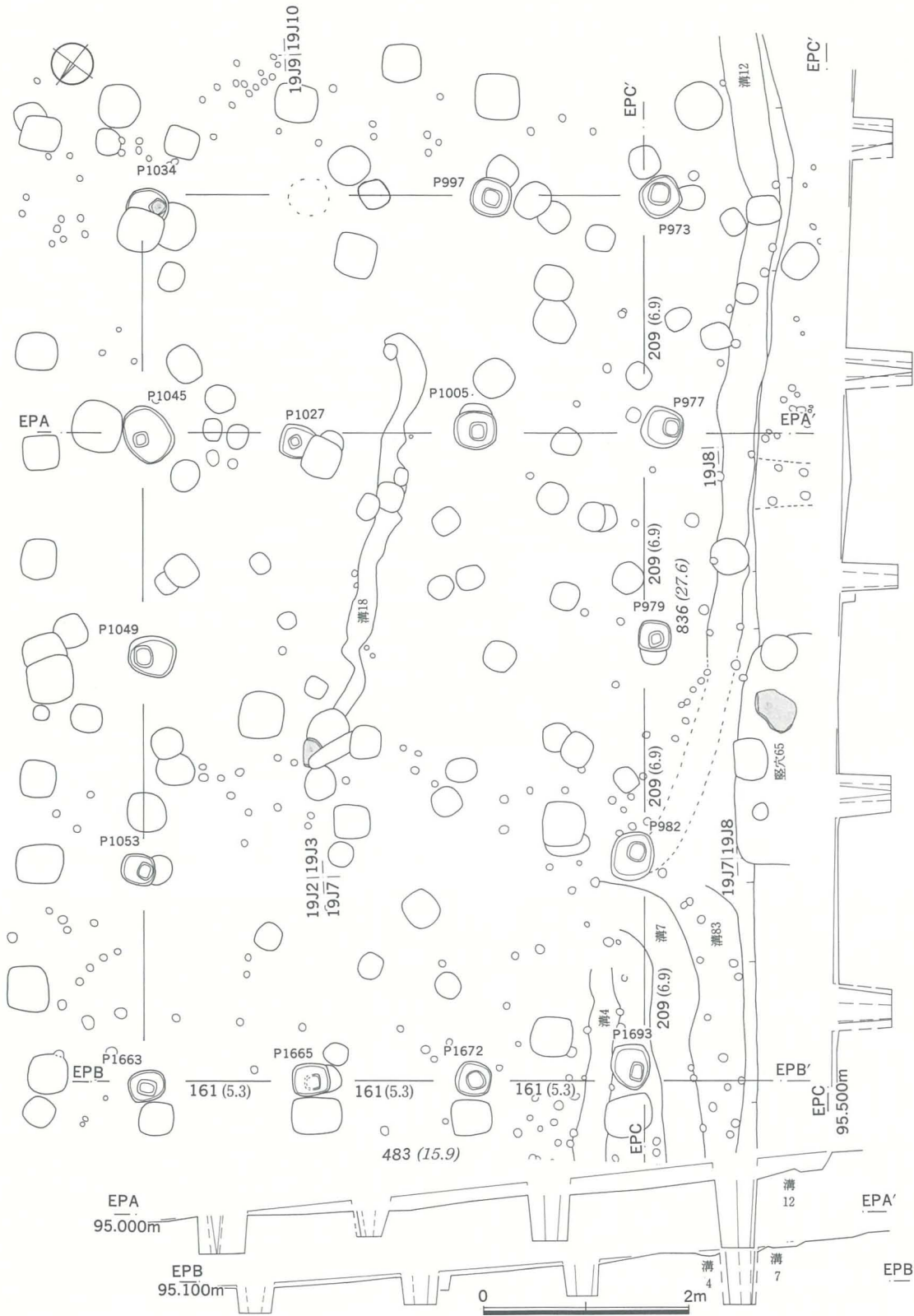


第24図 第20号建物跡想定図



第25図 第21号建物跡想定図





第26図 第22号建物跡想定図

のと考えられる。

**第33号建物跡**(第37図)：調査区東、18 I 17～19区周辺に位置する。2間×4間の南北棟の建物跡を想定した。柱間寸法は梁間6.3尺等間、桁行5.6尺等間、規模は3.32×6.80mである。柱穴同士の新旧関係から第34～37号建物跡よりも古いものと考えられる。

**第34号建物跡**(第36図)：調査区東、18 I 18区周辺に位置する。2間×2間の南北(?)棟の建物跡を想定した。柱間寸法は梁間6.6尺等間、桁行6.9尺等間、規模は4.00×4.18mで、ほぼ方形に近い平面プランの、小さな建物跡である。柱穴同士の新旧関係により、第33号建物跡よりも新しく、第37号建物跡よりも古いものと考えられる。

**第35号建物跡**(第38図)：調査区東、18 I 17～19区周辺に位置する。2間×2(?)間の東西棟の建物跡を想定した。柱間寸法は梁間は北から6.3、7.6尺、桁行は東から7.4、14.8尺である。規模は4.21×6.72mである。桁方向東1間目に、P372による間仕切りがある。P62とP416の間には柱穴は確認できなかった。P77とP324の柱間寸法が極端に広いことと、P62・P77間の柱間寸法がP77・P324間の柱間寸法の半分であるため、P324・P77、P390・P338の間に柱穴が存在し、桁行3間、柱間寸法が7.4尺等間であったことも考えられる。この地割内には塀と思われるL字状の柱列(P308・311・315・319・341・358・384・412)も検出した。溝の底で初めて存在を確認したため、溝64使用以前に存在していたと思われる。位置関係から見ると、この建物に付随するものと考えるのが妥当と思われる。柱穴同士の新旧関係により、第33・34号建物跡よりも新しく、第37号建物跡よりも古いと考えられるが、第36号建物跡に取り付く塀との新旧関係では、第35号建物跡に付随すると考えられる塀が新しいことから、第36号建物跡よりも新しいものと考えられる。

**第36号建物跡**(第39図)：調査区東、18 I 17～19区周辺に位置する。3間×3間の主屋に1間(6.3尺)×2間(6.6尺等間)の張り出しが付く東西棟(?)の建物跡を想定した。主屋の柱間寸法は、梁間は北から6.3、5.3、6.3尺、桁行は6.6尺等間である。規模は7.34(張り出し部1.91)×6.00mである。東側にはP411・417・63による柱列が見られ、この建物跡に伴う塀跡と考えられる。柱穴同

士の新旧関係により、第32・33号建物跡よりも新しいものと考えられる。

**第37号建物跡**(第43図)：調査区東、18 I 17・18・19区周辺に、溝64がL字状に囲い、南が帯曲輪との落差がある地割内に3間×3間の主屋に2間(6.0尺等間)×1間(4.8尺)の張り出しが付く南北棟の建物跡を想定した。柱間寸法は梁間6.0尺等間、桁行は北から6.4、6.4、6.6尺である。規模は7.33(張り出し部1.45)×5.46mである。柱穴同士の新旧関係により、第33・35号建物跡よりも新しいものと考えられる。

#### 帯曲輪隣接の地割面と掘立柱建物跡

今年度の調査では、帯曲輪・通路・比高差が大きい段で画された独立性の強い地業した削平地(地割)が二つ検出されている。二つとも建物が1棟建つほどの広さである。今年度検出した地割面の中では特徴的である為、仮に北から地割面A・Bと呼び、地割面の特徴と地割面毎に検出した建物跡を報告したい。

**地割面A**(P L. 8)：調査区南19 I 2・3・7・8区周辺に位置する。長軸9.6m、短軸5.5m、約53㎡の広さを持ち、帯曲輪との比高差は約1m、東を通路跡B、西を通路跡A、南を帯曲輪、北を比高差の大きな段で画する。通路跡Aを挟んで西に位置する地割面Bと比べると細長くやや狭い。地割面内の建物配置が西よりで、地割面北東部がやや張り出し、僅かながら空閑地が見られるので、この部分に地割面の出入口があったと考えられる。地割面内中央にはL字状の溝70等が地割面を東西に2分するように、また横断するようにある。地割面Bの場合と同様に、この地割面の古形態を示すものとも考えられる。

地割面内には焼土が5基検出されているが、未整理のため焼土個々の性格、建物跡との属性関係等は不明である。

19 I 8区からは口縁部の一部のみを欠いた六器碗が出土した(第59図37・P L. 14)。地割面A内19 I 17区からは台皿のような銅製品(第59図36・P L. 14)が出土したが、この碗と組になるものではなかった。

地割面内では少なくとも3期の建物変遷が確認でき、第38・39・40号建物跡が存在する。

**第38号建物跡**(第41図)：調査区南、地割面A内19 I 2・3・7・8区周辺に位置する。3間×4

間の東西棟の建物跡を想定した。柱間寸法は梁間5.2尺の等間、桁行は東から6.9、6.6、6.6、6.9尺、その規模は4.74×8.18mである。柱穴同士の新旧関係により第39・40号建物跡よりも古いものと考えられる。また、地割面A内にはP239・257・281・302による柱列が想定され、第38号建物跡よりも古いものと考えられるが、P239と240において新旧関係に齟齬が見られる。

**第39号建物跡(第42図)：**調査区南、地割面A内19I2・3・7・8区周辺に位置する。2間×5間の東西棟の建物跡を想定した。柱間寸法は梁間6.9尺の等間、桁行は東から4.2、5.3、6.6、6.6、5.3尺、その規模は4.18×8.49mである。桁行方向東第1間は庇と考えられ、第2間にP260による間仕切りが想定される。桁行側両端の柱間寸法が等しい形は同じ地割内の第38号建物跡にも見られるパターンである。柱穴同士の新旧関係により第40号建物跡よりも古く、第38号建物跡よりも新しいと考えられる。

**第40号建物跡(第43図)：**調査区南、地割面A内19I2・3・7・8区周辺に位置する。2間×4間の東西棟の建物跡を想定した。柱間寸法は梁間は北から6.9、7.1尺、桁行は東から6.6、6.6、7.6、5.6尺、その規模は4.24×8.00mである。桁方向西第1間、2間の柱間寸法の和と第3間、4間の和に等しいことから第1間、2間を等間ではなく変則的に分けたことが考えられる。桁行方向、東第2間にはP250による間仕切りがあり、2室になると考えられる。東第3間にも柱穴が検出されたが、こちらの方は間仕切りと言うよりは床束と考えるのがよいのかもしれない。柱穴同士の新旧関係により第39号建物跡よりも新しいと考えられる。

38号・39号は主屋両端の柱間寸法が同じであり、39号と40号は、梁間方向の柱間寸法が桁行方向の柱間寸法より長いという傾向がある。この地割面内に想定される建物跡は、あたかも、前代の建物の特徴の一部を受け継いでいるように見える。今後、同じ曲輪内・地割内にこのような傾向が認められるかどうか注意してみたい。

**地割面B (P.L. 9)：**調査区南19I16・17・21・22、20I1・2区に位置する。東を通路跡A、西を段(未調査区)、南を帯曲輪、北を段で画する。長軸9.6m、短軸7.9m、約73㎡の広さを持ち、帯

曲輪との比高差は約0.9mである。20I2区にはこの地割面の出入口と思われる緩やかな傾斜を持つ空闲地があり、帯曲輪と行き来できる。地割面内中央付近には溝や段が確認され、この地割面の古い時期の形態の痕跡とも考えられる。

19I23区周辺の地割面輪に面する部分で、約4m程に互り石列を検出した(P.L. 9)。地割面の縁の崩落を防ぐための土止めと思われる。残っていたのは最下部の一段が殆どであったが、最大三段まで石を積み上げていることを確認できた。また、痕跡は認められなかったが、それ以上高く石を積み上げていた可能性もある。

この地割面の南半部、19I17・22区には焼土が14基集中して検出されたが、未整理のため焼土個々の性格、建物跡との属性関係などは不明である。

地割面内には4期の建物変遷が確認でき、第41・42・43・44号建物跡が存在する。

**第41号建物跡(第44図)：**調査区南、地割面B内19I16・17区周辺に位置する。2間×3間の東西棟の建物跡を想定した。柱間寸法は、梁間は北から6.6、7.6尺、桁行6.6尺等間、その規模は4.30×6.00mである。柱穴同士の新旧関係により第43号建物跡よりも古いものと考えられる。

確認は出来なかったが、P850・851の位置に柱穴の存在を仮定し、P854・862の3つの柱穴で柱列を想定すると、桁行が4間になることも考えられる。その場合、P854が第42号建物跡の柱穴との新旧関係により、第42号建物跡よりも古いと考えられる。

**第42号建物跡(第45図)：**調査区南、地割面B内19I16・17・21・22区周辺に位置する。3間×4間の主屋に1間(5.2尺)×2間(柱間5.5尺等間)の張り出しが付く南北(?)棟の建物跡を想定した。主屋の柱間寸法は、梁間は6.6尺等間、桁行は北から5.5、5.5、5.2、5.2尺である。規模は7.58(張り出し部1.58)×6.50mである。柱穴同士の新旧関係により、第43号建物跡よりも古いものと考えられる。

**第43号建物跡(第46図)：**調査区南、地割面B内19I16・17・21・22区周辺に位置する。3間×4間の東西棟を想定した。柱間寸法は梁間6.5尺等間、桁行6.4尺等間、その規模は5.91×7.76mである。梁間南第1間分にP1785・1786による間仕切

りがある。P780、806、850、1786には根石が確認できた。また、南東隅の柱穴は確認できなかったが、根石に使われていたと思われる扁平な礫を確認した。位置関係から区画施設として溝9が同時期に存在していたと考えられる。この地割面内に存在する建物跡では一番新しく、建物の規格・構造が比較的良好とわかる一例である。

**第44号建物跡**(第47図)：調査区南、地割面B内南側19 I 17・22区周辺に位置する。2間×3間の東西棟の建物跡を想定した。柱間寸法は梁間は北から5.4、8.7尺、桁行7.1尺等間、その規模は4.28×6.45mである。地割面B内に存在した他の建物跡との時間的前後関係は不明である。

なお、地割面B内の南半部では塀と思われる東西方向の柱列(P188・175・161・150・135)とL字状の柱列(P127・128・142・144・856・855)も確認した。曲輪内における建物跡との位置関係から東西方向の柱列は第41号建物跡に、L字状の柱列は第44号建物跡に伴う可能性がある。

地割面A・B内で想定される建物跡は、棟方向が帯曲輪と平行する関係にある。地割面A・Bとは段で画される勝山館第二平坦中央南西地区(今年度調査区北地区)の多くの建物の棟方向とは異なる。このような現象は地割面が緑辺部を占める為、過年度に検出されている地割面の様に南北に長軸を持ってない為に起因すると考えられる。

**第45号建物跡**(第48図)：調査区南19 I 9区周辺に、帯曲輪を跨ぐようにして位置する。1間×1間の南北棟(?)の建物跡を想定した。柱間寸法は梁間8.0尺、桁行10.6尺で桁行方向の寸法が長い。規模は2.42×3.21mである。柱穴の深さは夷王山方向側では深く、宮ノ沢側では浅い。特にP227は1.2m以上の深さの柱穴である。溝74の調査終了後に柱穴の存在を確認したため、溝74使用以前に存在したと思われる。

建物の性格としては、通路として機能した帯曲輪上に設けられた門のような建物と推測される。

**溝77**(堅掘状遺構)(第48図)：調査区南、19 I 19・20区周辺、通路跡Aの延長上に位置し、宮ノ沢方向へ急傾斜で落ちる。長さ(検出部分)4.0m、上場幅約1.7m、下場幅24cm、深さ0.5m以上、高低差は約2.4m、斜度は約32°である。宮ノ沢側の未調査区へ延びる可能性もあるため全長は不明である。溝の両脇に柱穴(P123・125)を検出した。

溝77によって分断される柵列(溝76?)の端にあたるものと考えられる。

他の遺構との時間的前後関係は、溝27掘削以前に掘削されたと考えられる。

機能としては、後述の通路跡Aの延長上に位置するため、通路的なもののようにも考えられるが、傾斜が強く、昇降のための階段などの施設の痕跡も確認できなかったため、堅堀と推定した。現在勝山館跡では発掘や踏査により堅堀が4条(堀切が堅堀になるものを含めない)確認されているが、今回の事例も含めて宮ノ沢側に多く見られる。帯曲輪とともに勝山館南側の防御施設の一端を窺わせるものである。

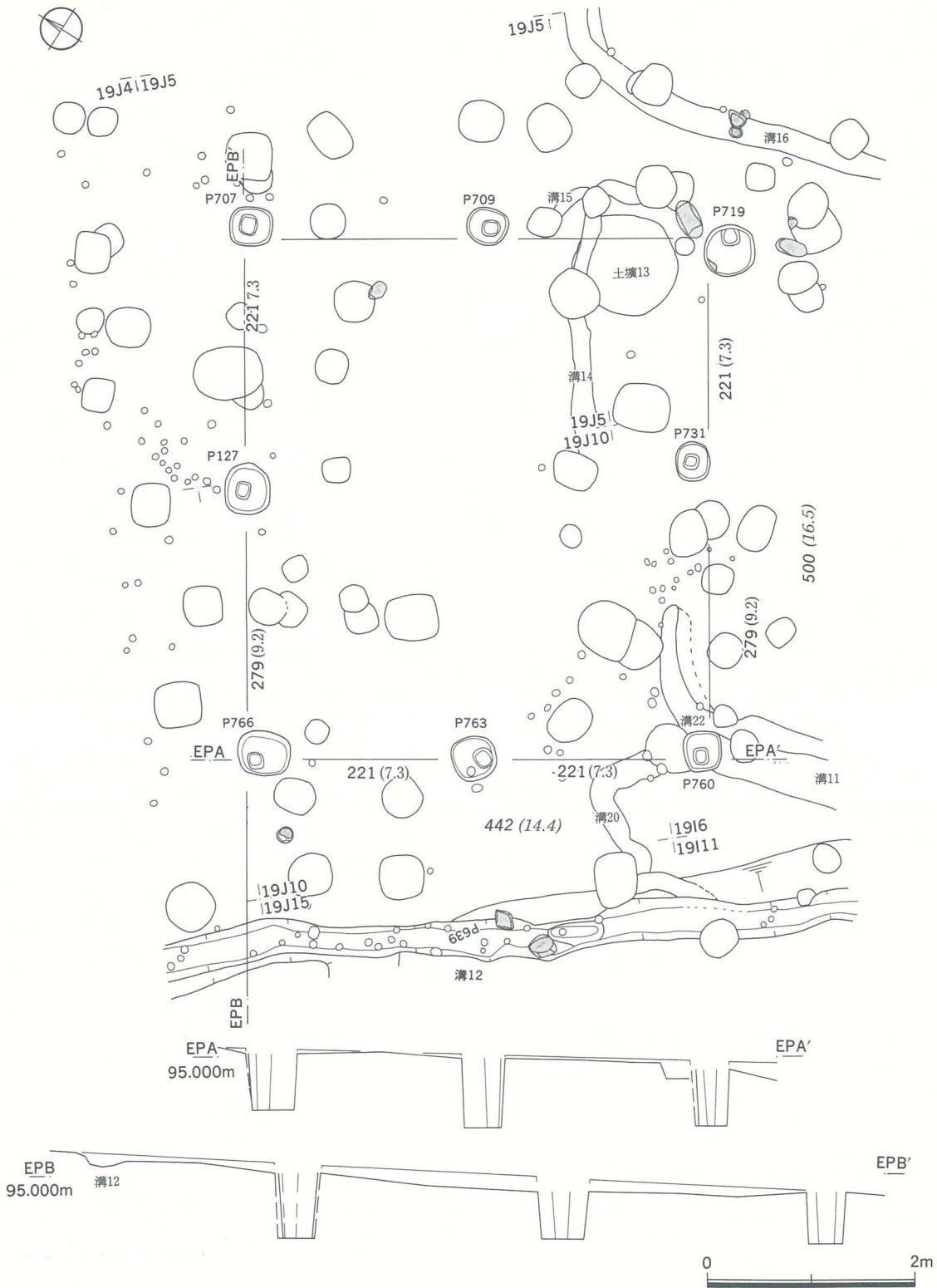
**通路跡A**(第48図)：調査区南19 J 14・15、19 I 11~13区周辺、溝77北方向延長上に位置する。地割面Aと地割面Bに挟まれていて、北が高く、南が低いスロープになっている。幅1.4m、高低差2.9m、斜度は最も傾斜がある19 I 11区で11°である。帯曲輪から北に隣接する地割面B、さらに北方向にある建物群に入るための通路と考えられる。

19 I 17区で、板のような炭化材と、小礫の集中箇所が見られたが、遺構の性格は不明である(P L. 10)。

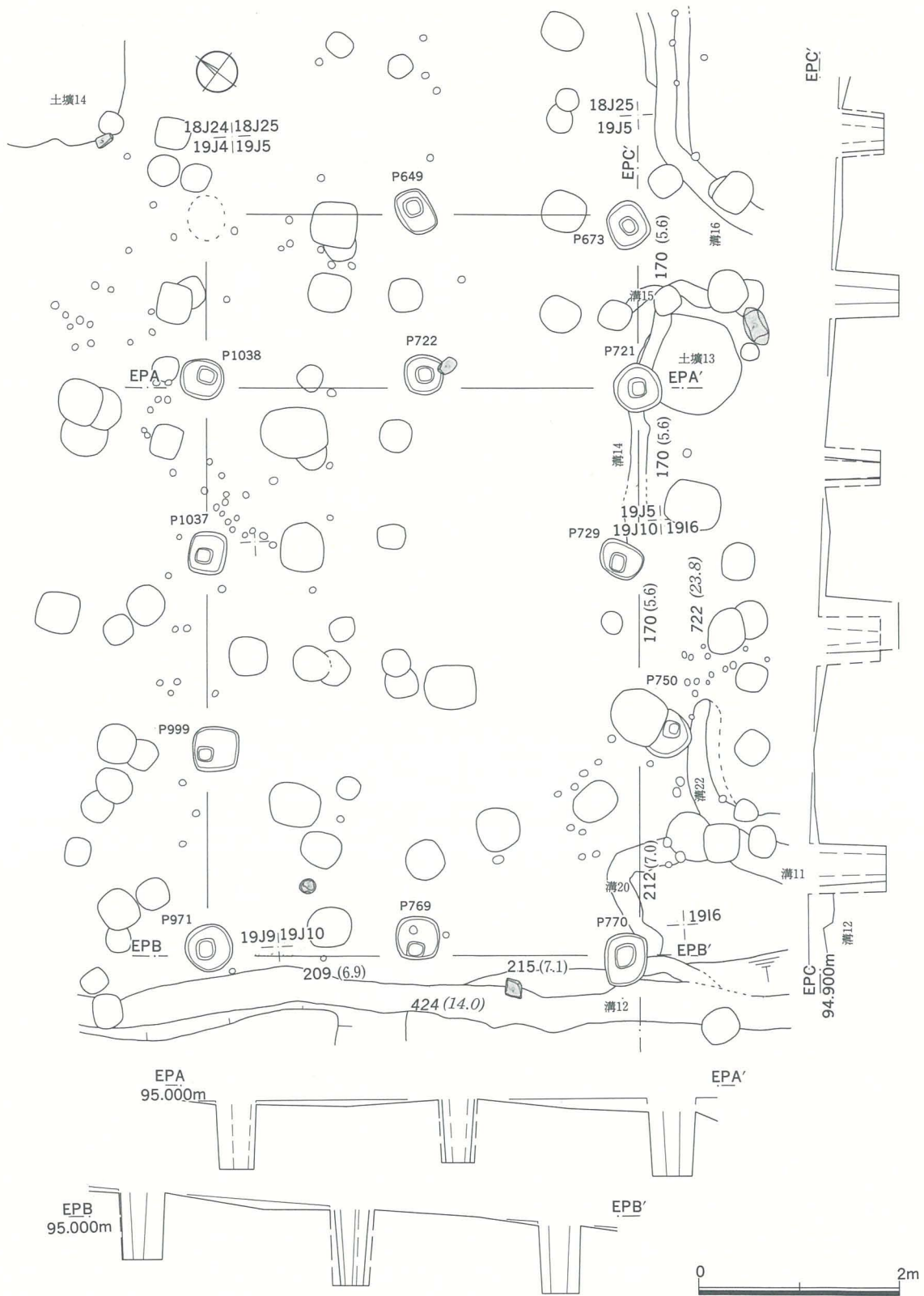
**通路跡B**(第49図)：調査区南、18 I 23・24、19 I 2・3区周辺に位置する。第38号建物跡等が存在する地割面Aと第32号建物跡等が存在する地割面を断ち切るように掘り込まれた大きな溝で、北が高く、南が低いスロープになっている。長さ8.6m、幅2.0m、高低差1.6m、斜度は16°である。部分的に階段のようなものが4段程認められた。西側には経8.0~12.0cm程の小柱穴列が列状に十数個見られる。通路が機能していた後半期に、東側には第39号建物跡を画する溝64が掘削され、側溝のようにになっている。溝64の覆土からは鉄砲玉(第59図23、P L. 14)が出土した。

帯曲輪から第32号建物跡等がある地割面、第38号建物跡等がある地割面Aへの通路と考えられる。

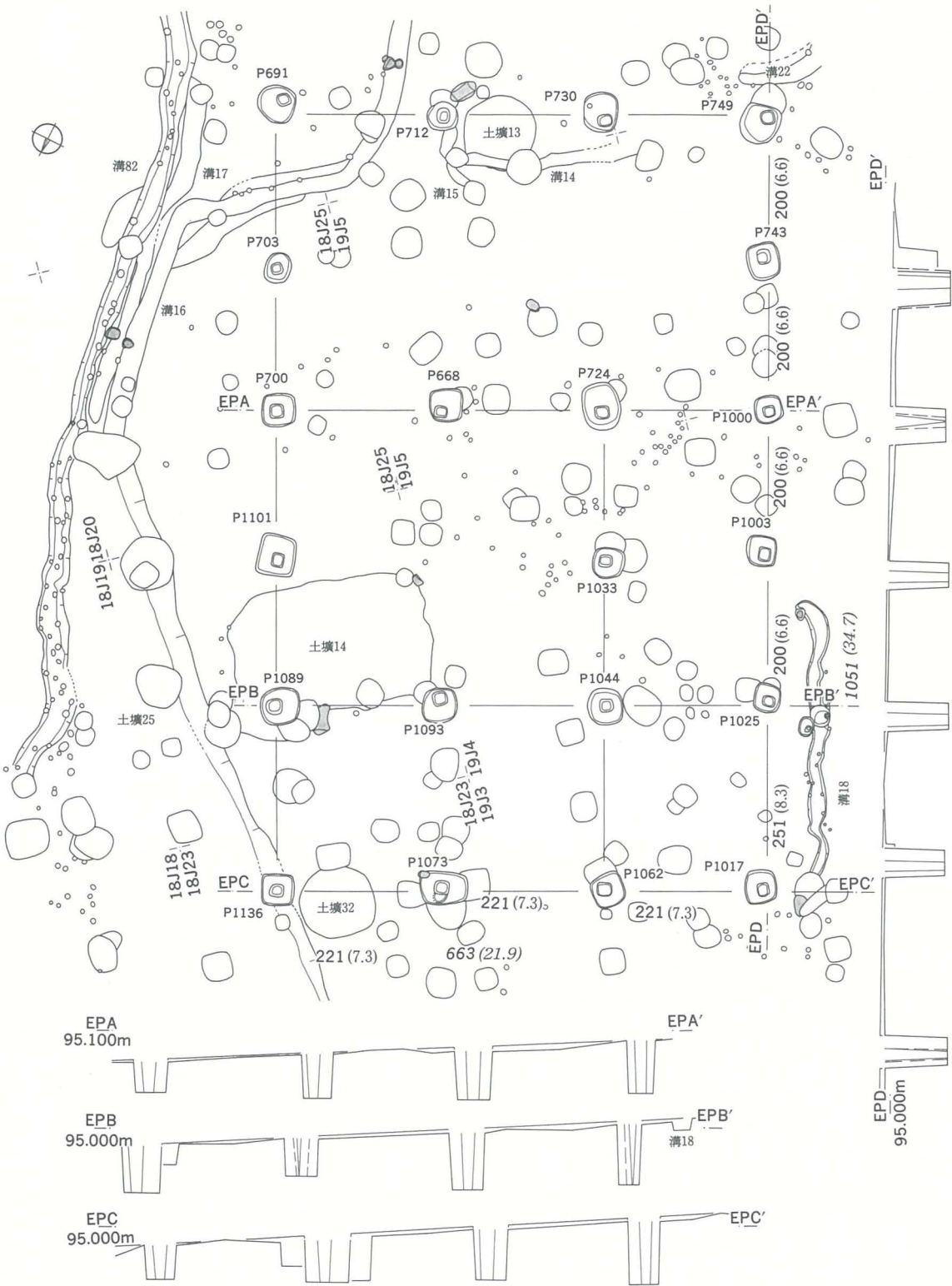
**帯曲輪**(附図)：調査区南、19 I 4・5区から20 I 8区周辺にかけて位置する。昨年度の調査でも18 I 5区から19 I 5区にかけて検出されており、2年間の調査で約44mの長さに亘っていて、さらに未調査区の西方向へと延びている。幅は約2.0m、高低差は19 I 4区から20 I 8区までで約2.3



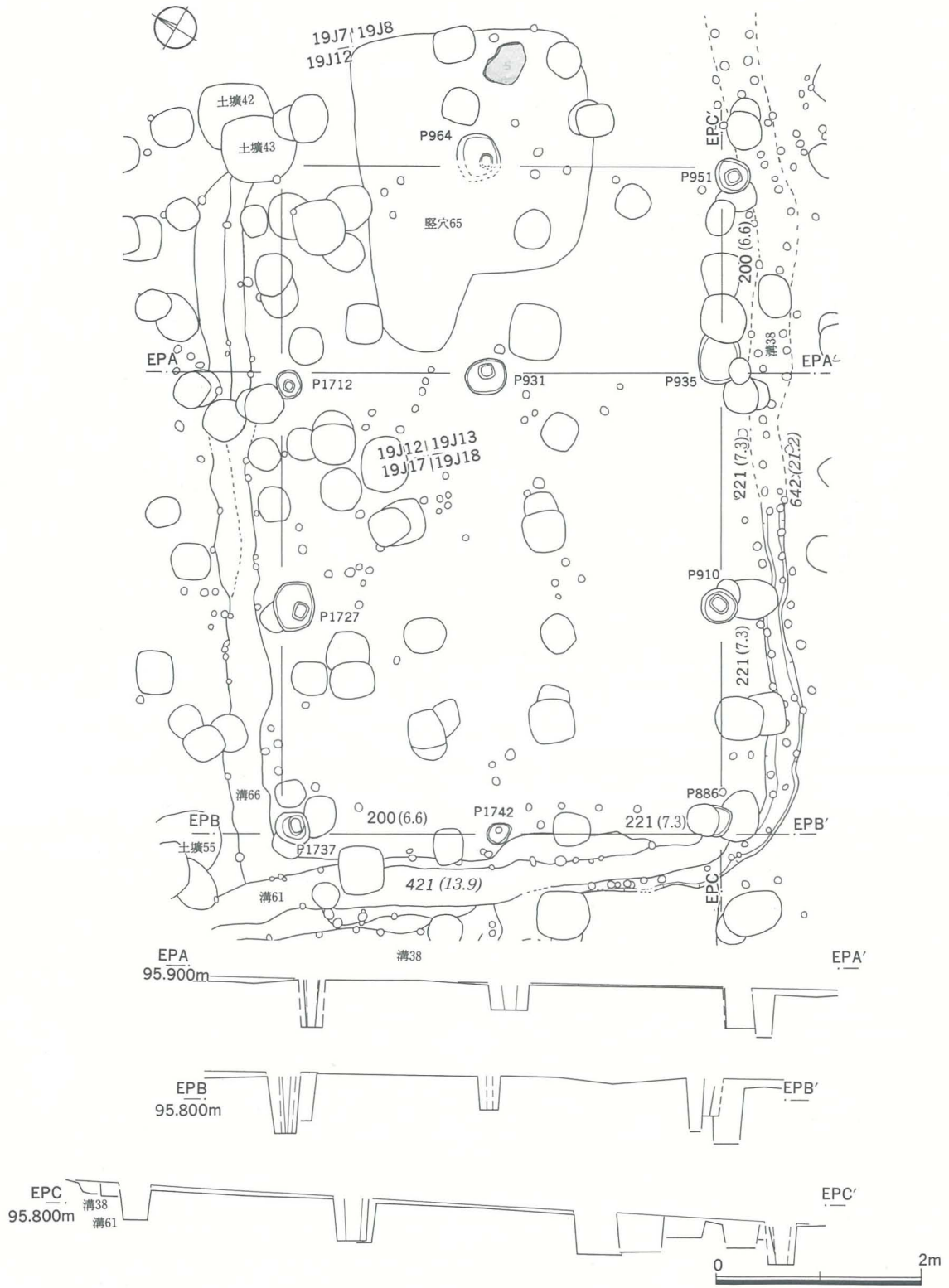
第27図 第23号建物跡想定図



第28図 第24号建物跡想定図

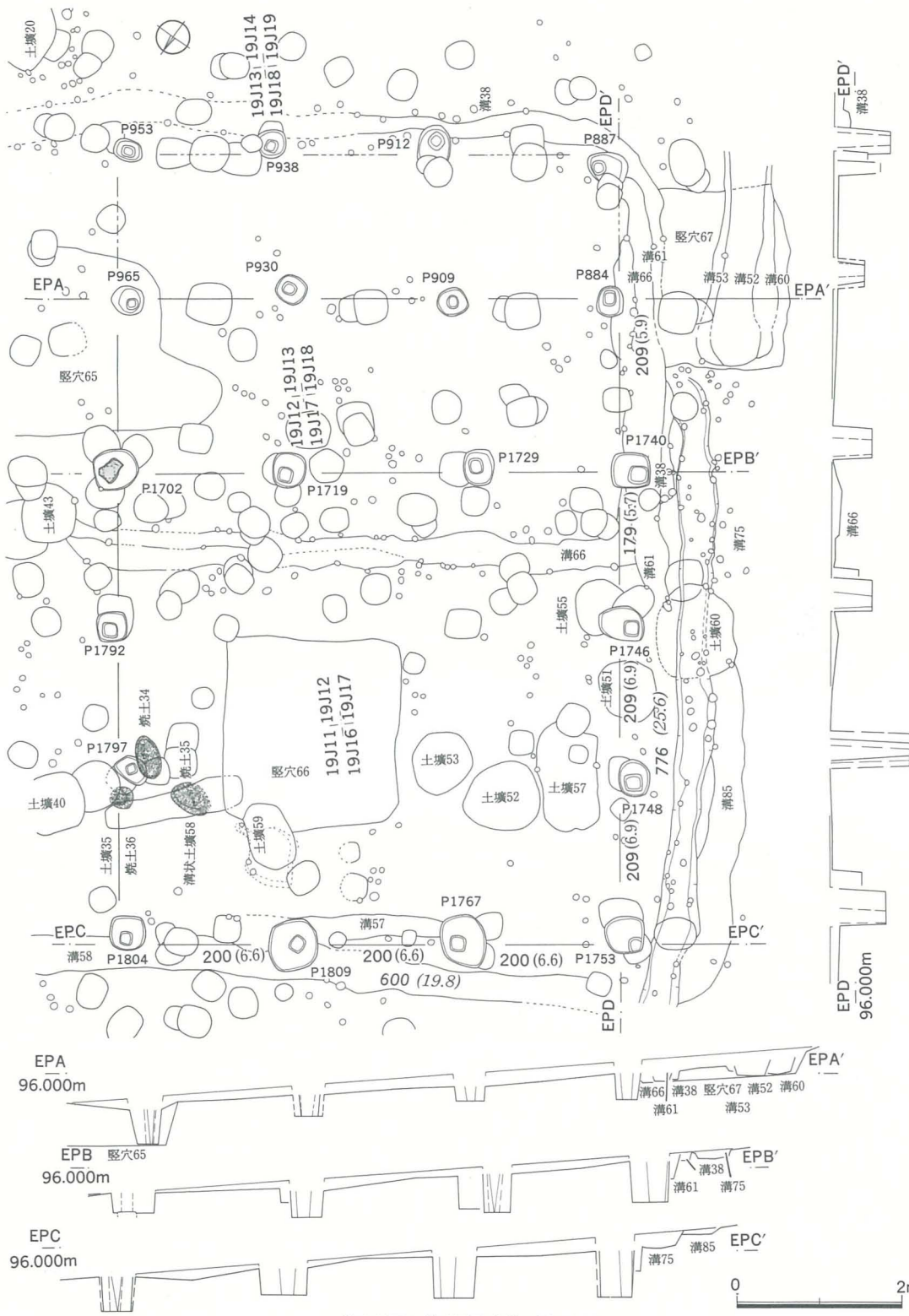


第29図 第25号建物跡想定図

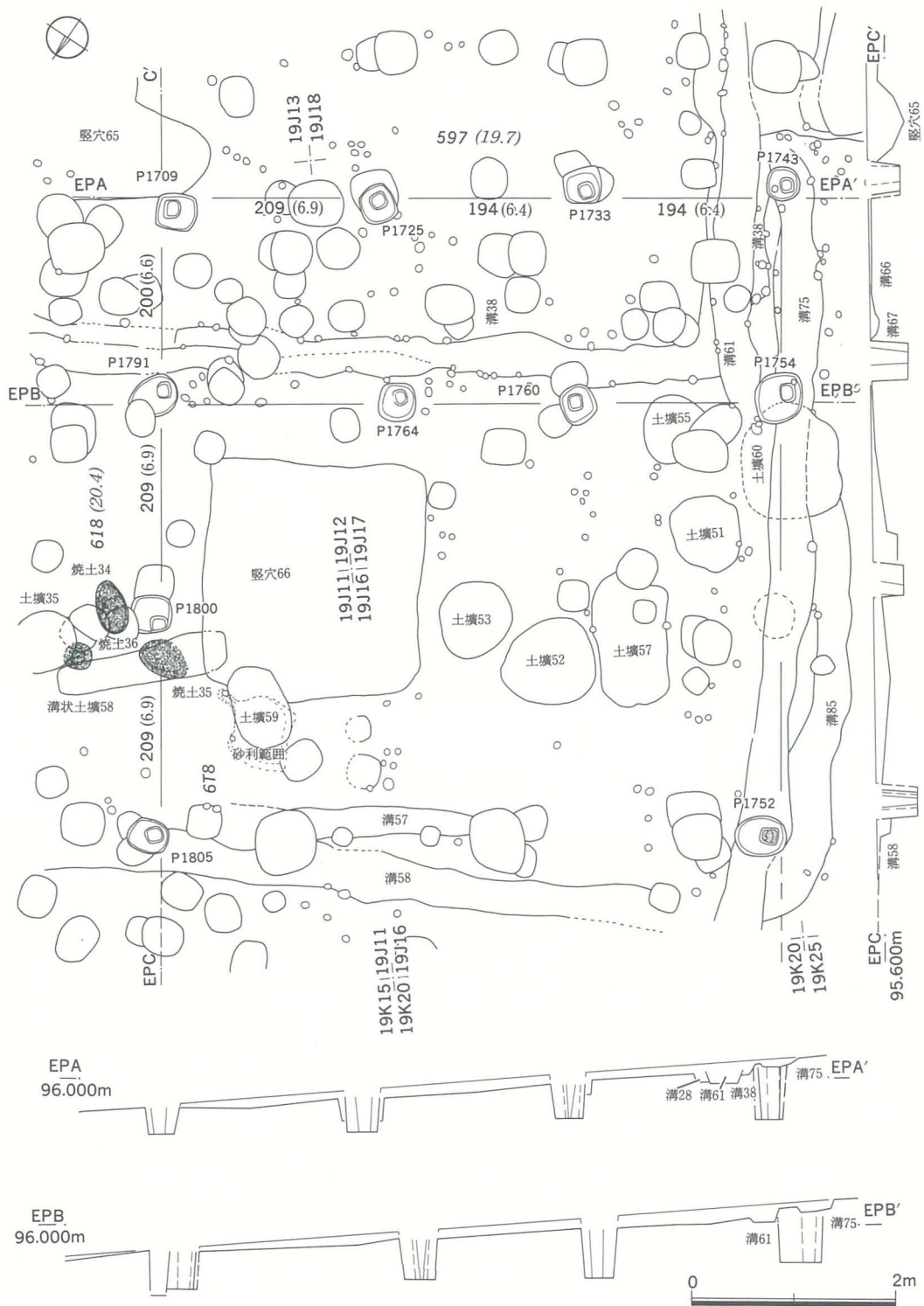


第30图 第26号建物跡想定図

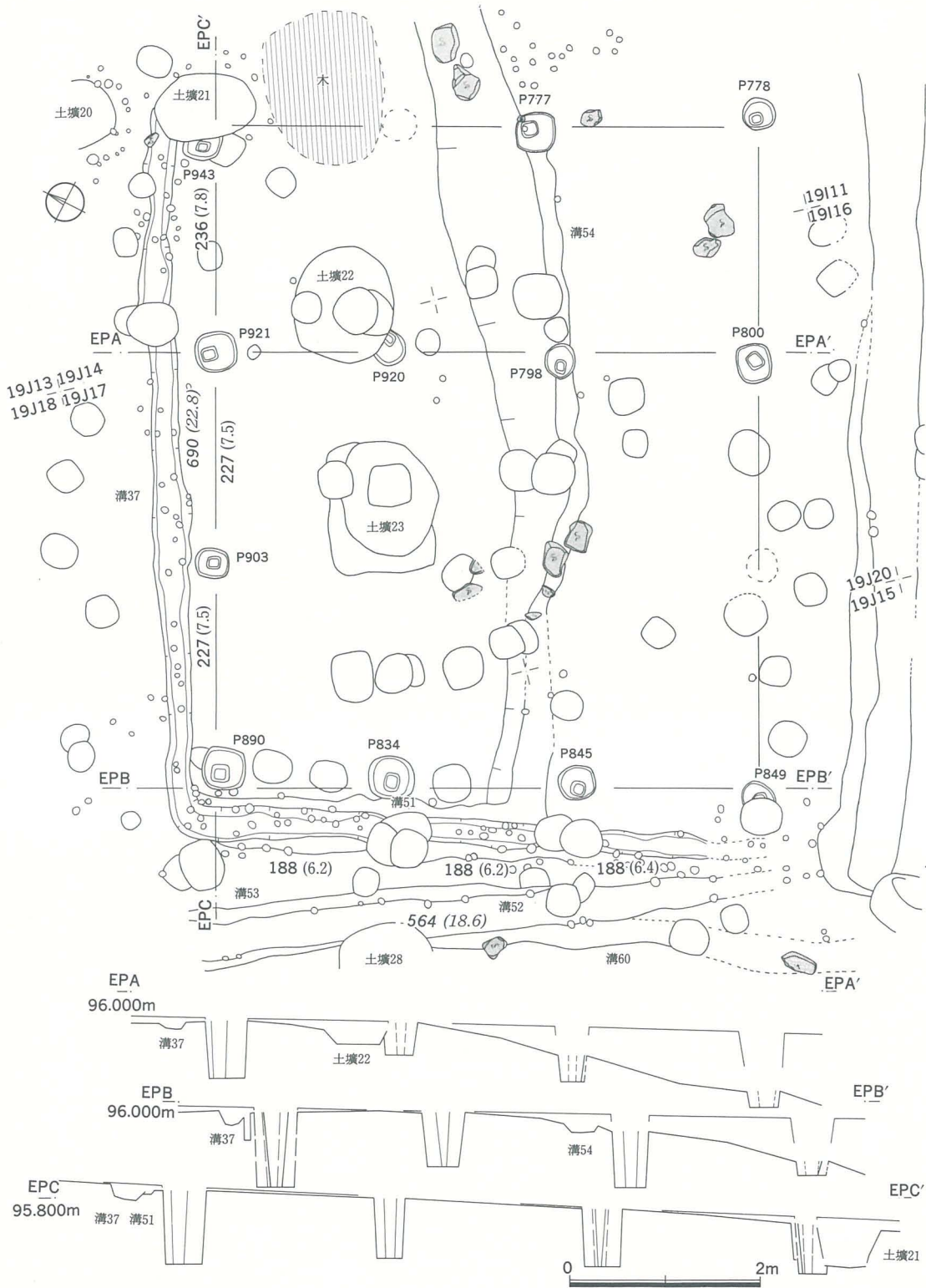




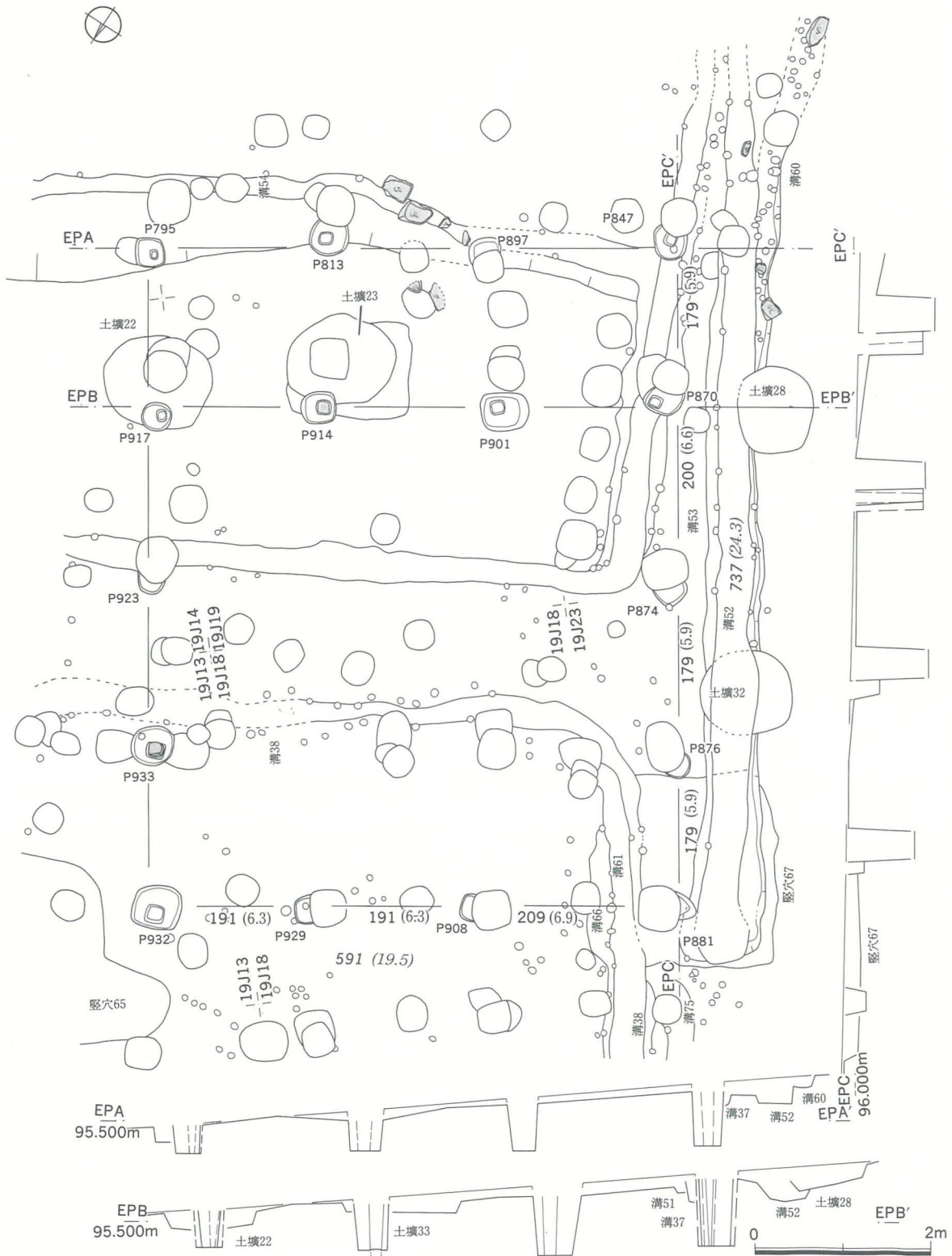
第31図 第27号建物跡想定図



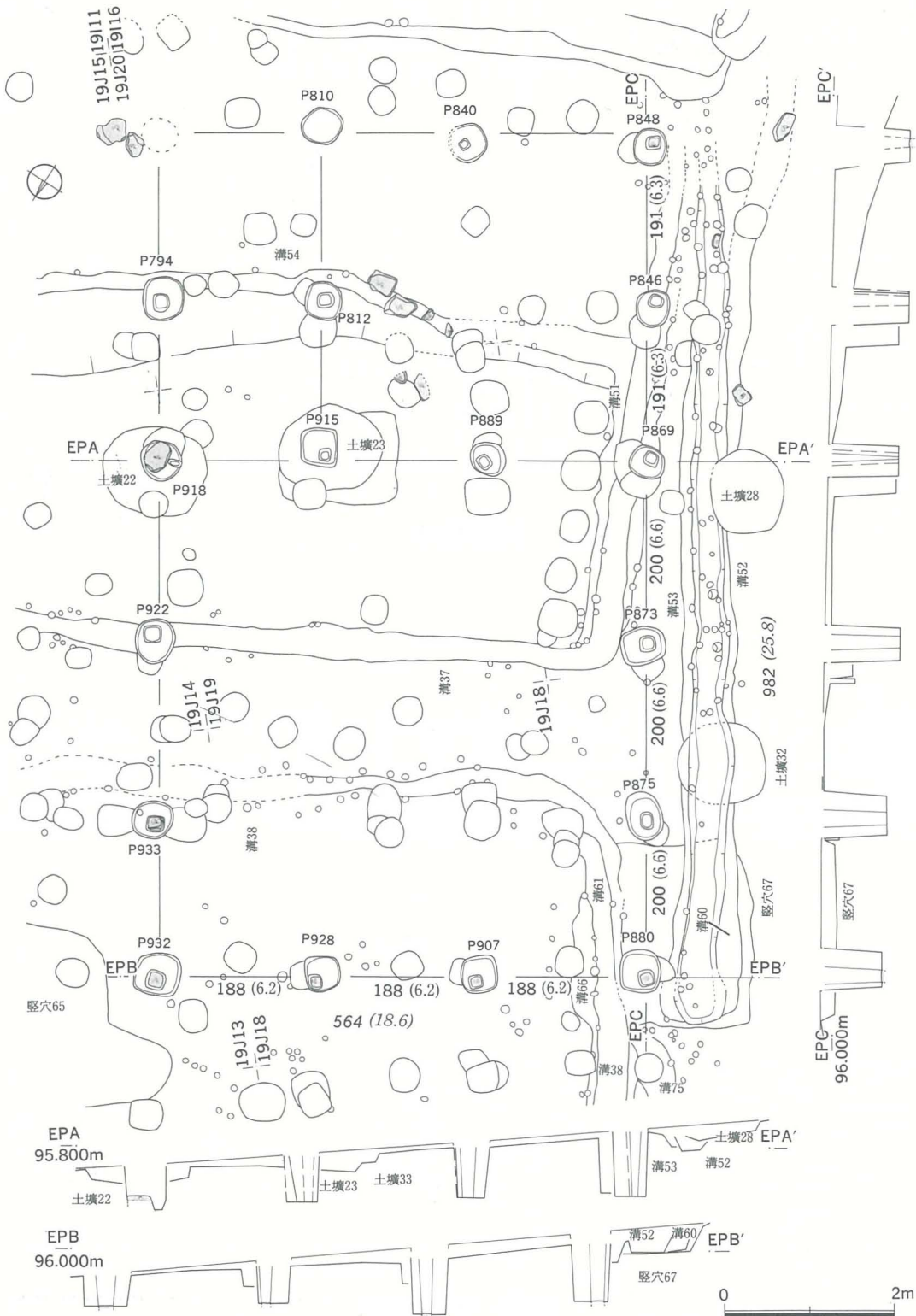
第32図 第28号建物跡想定図



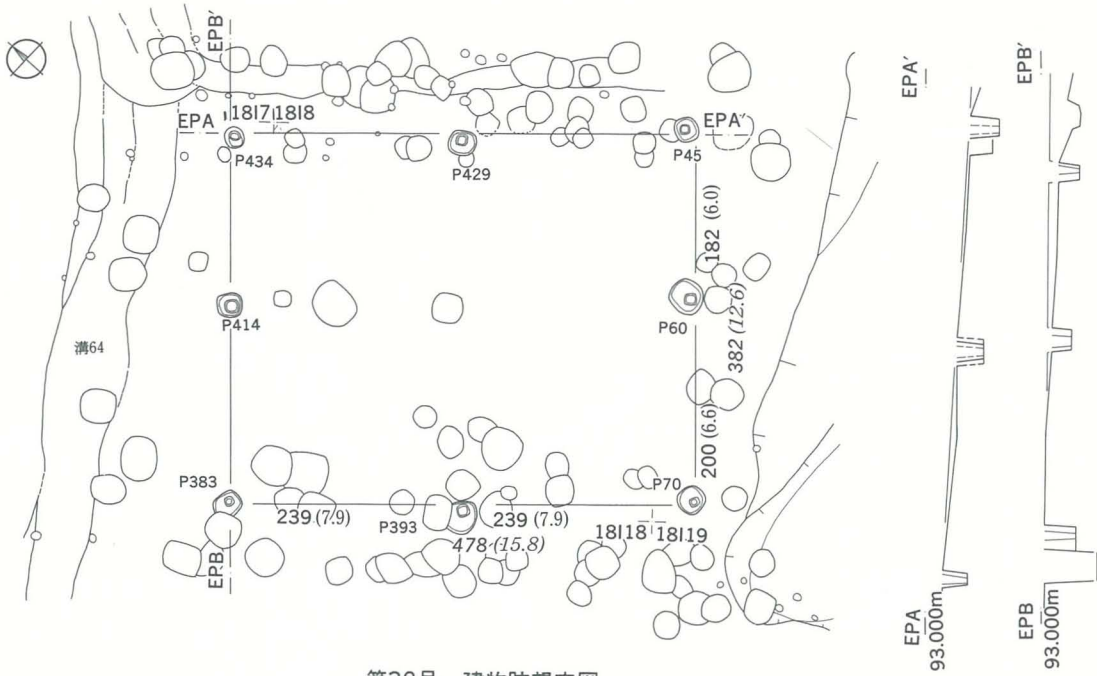
第33図 第29号建物跡想定図



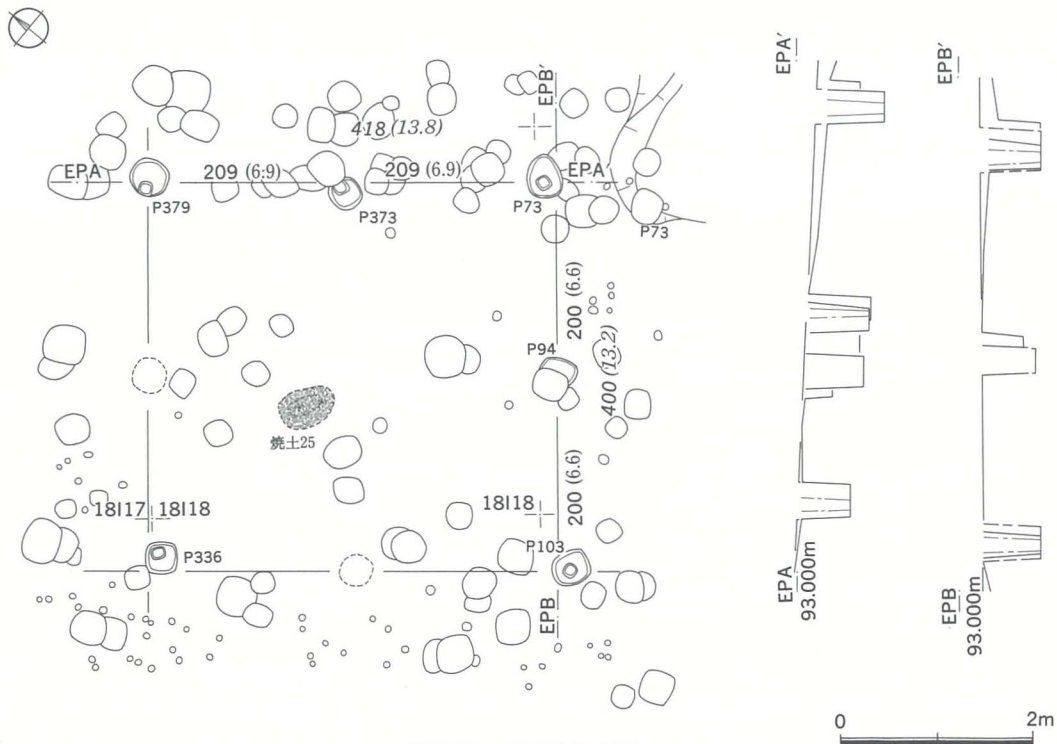
第34図 第30号建物跡想定図



第35図 第31号建物跡想定図

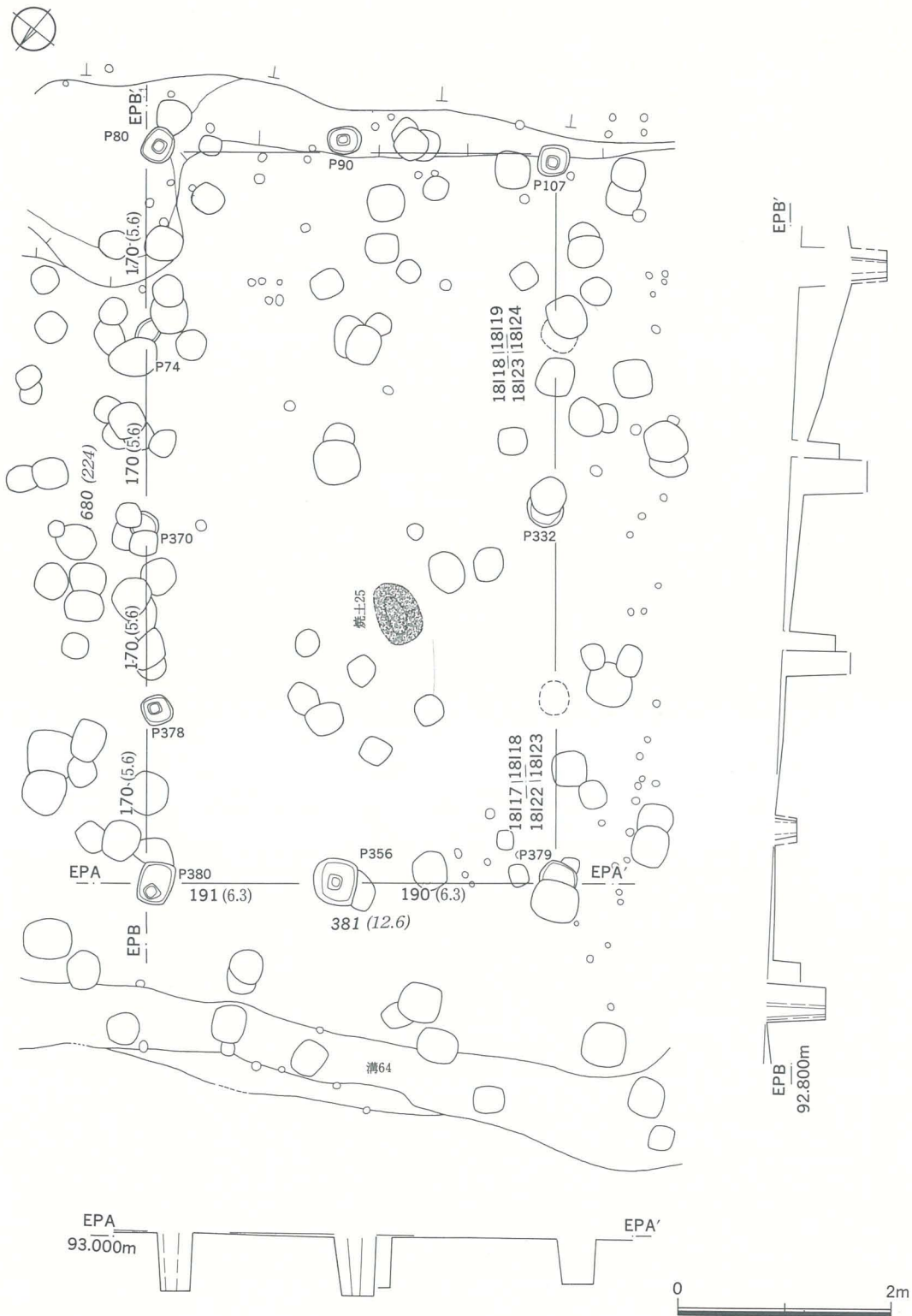


第32号 建物跡想定図

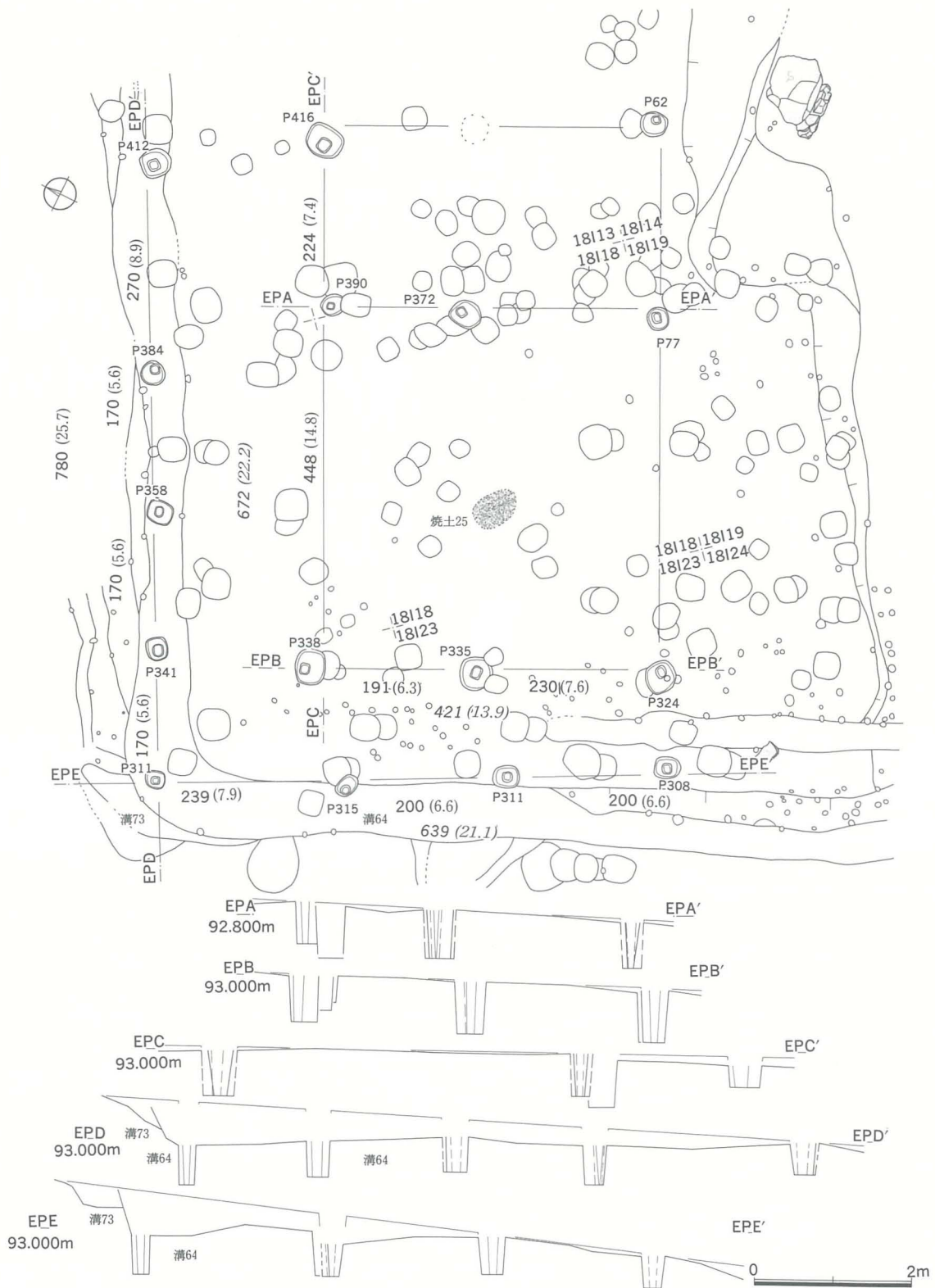


第34号 建物跡想定図

第36図 第32・34号建物跡想定図

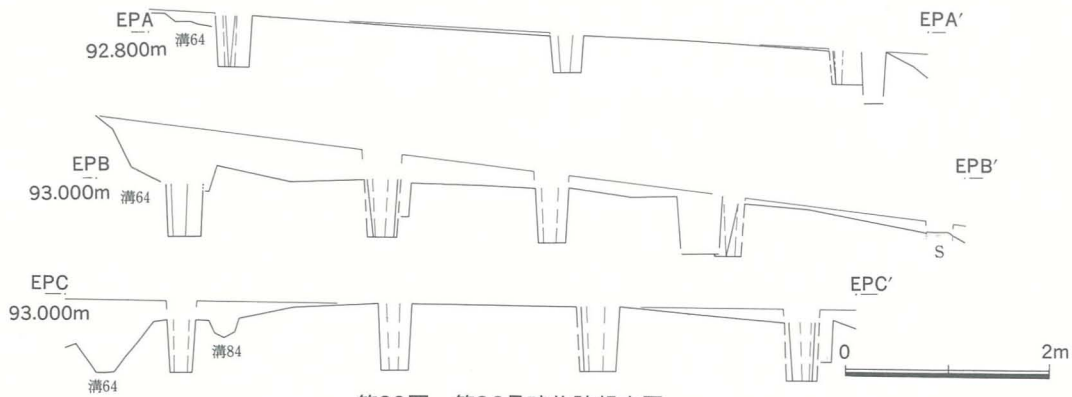
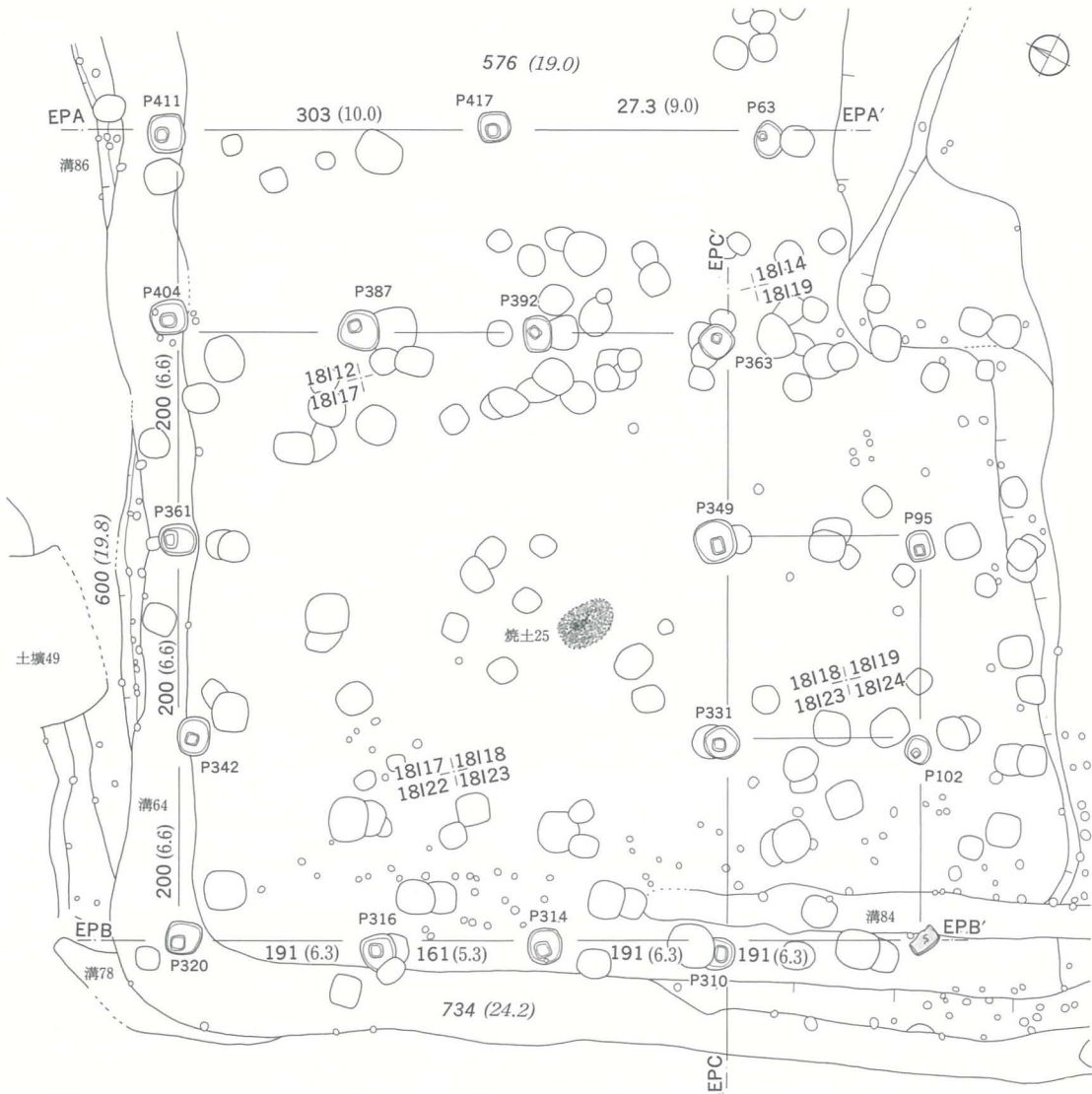


第37图 第33号建物跡想定図

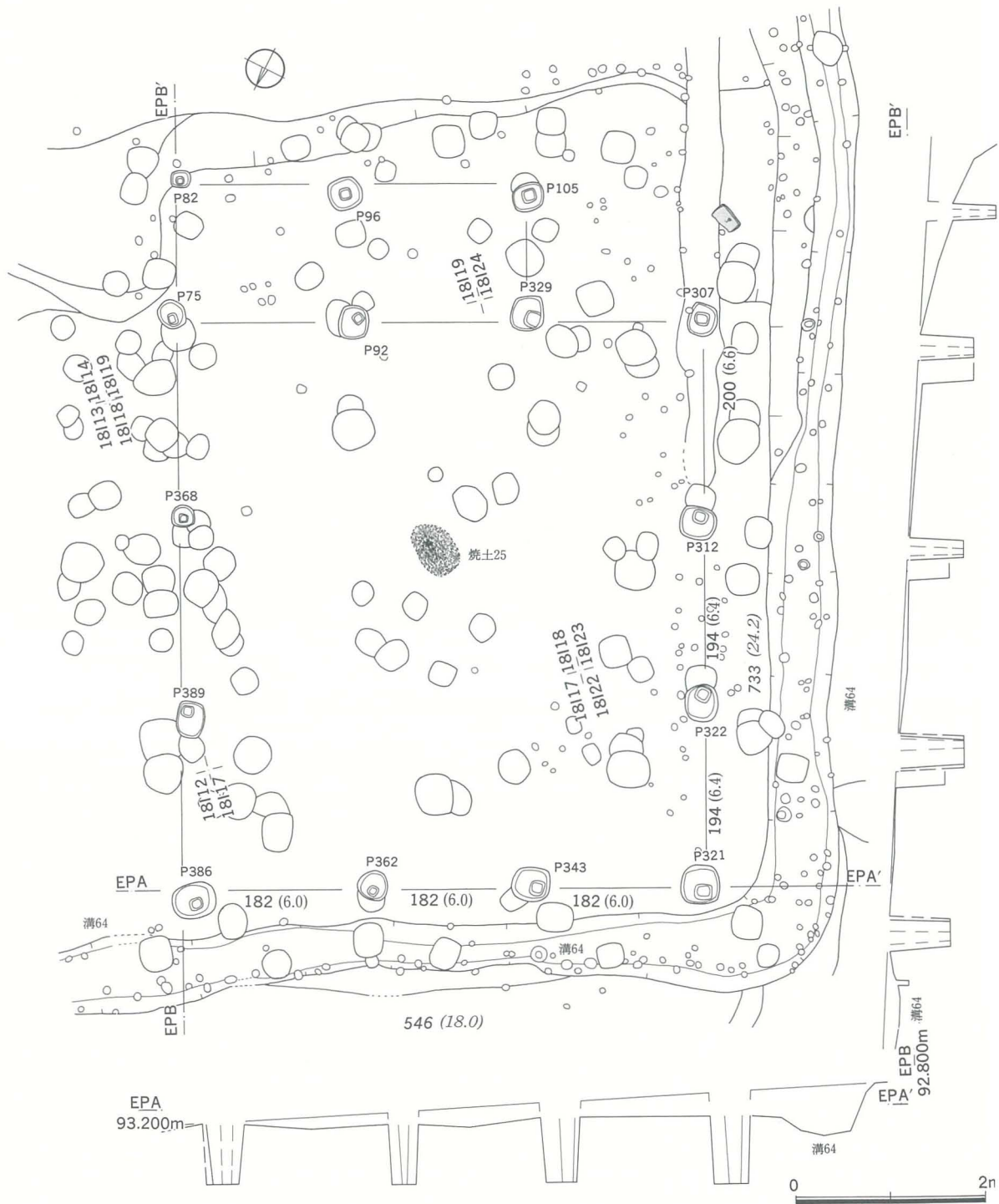


第38図 第35号建物跡想定図

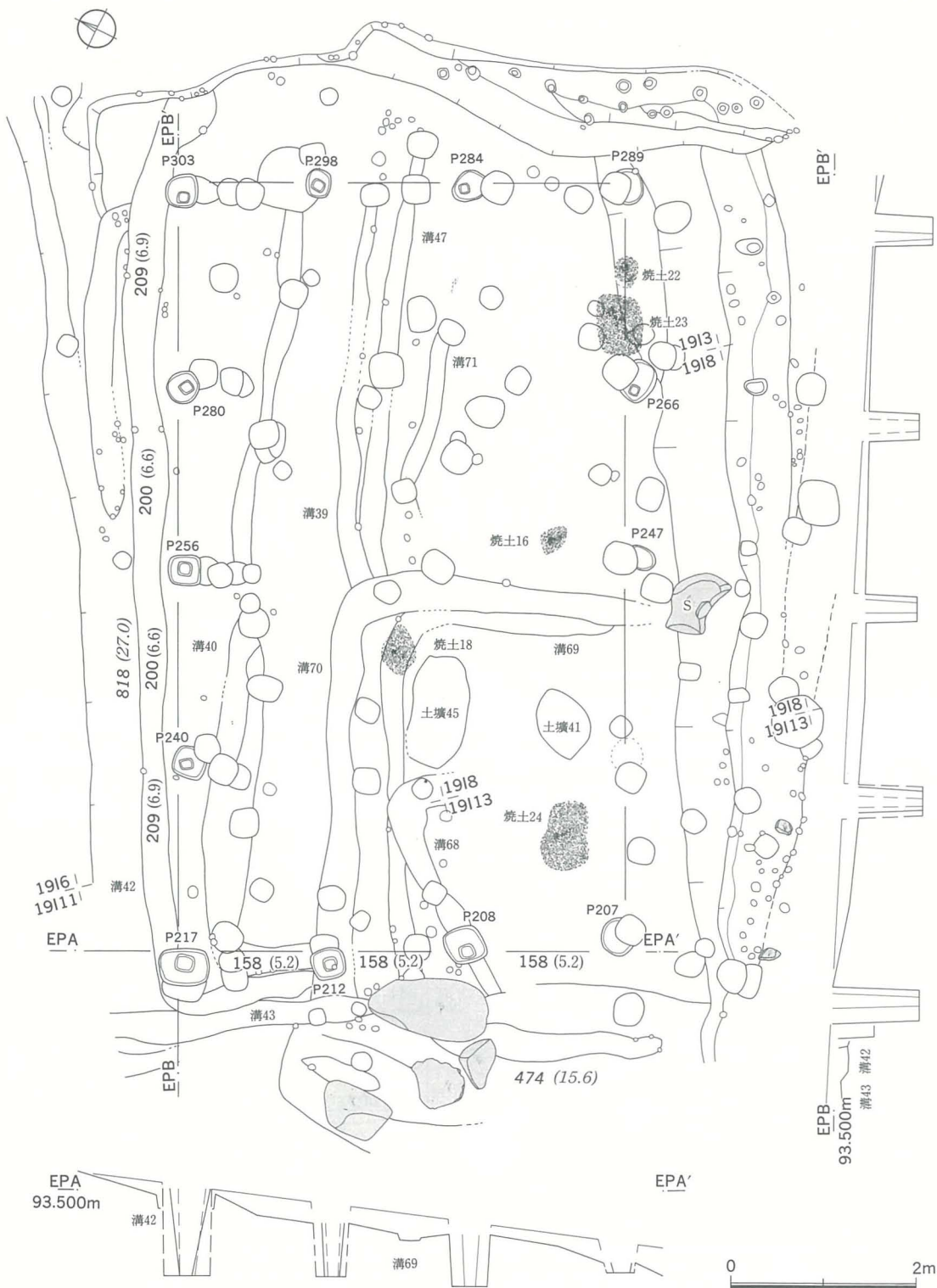




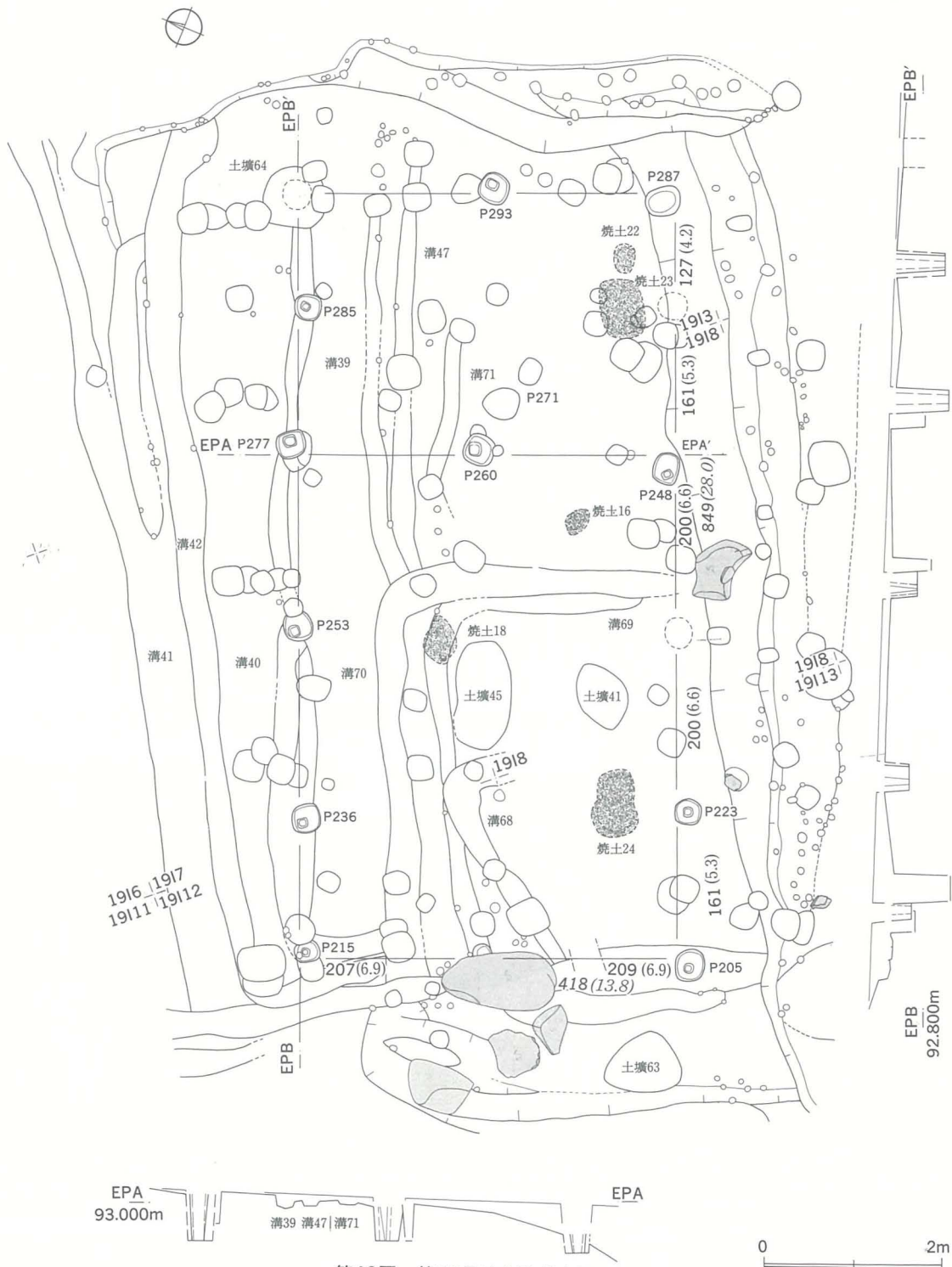
第39图 第36号建物跡想定図



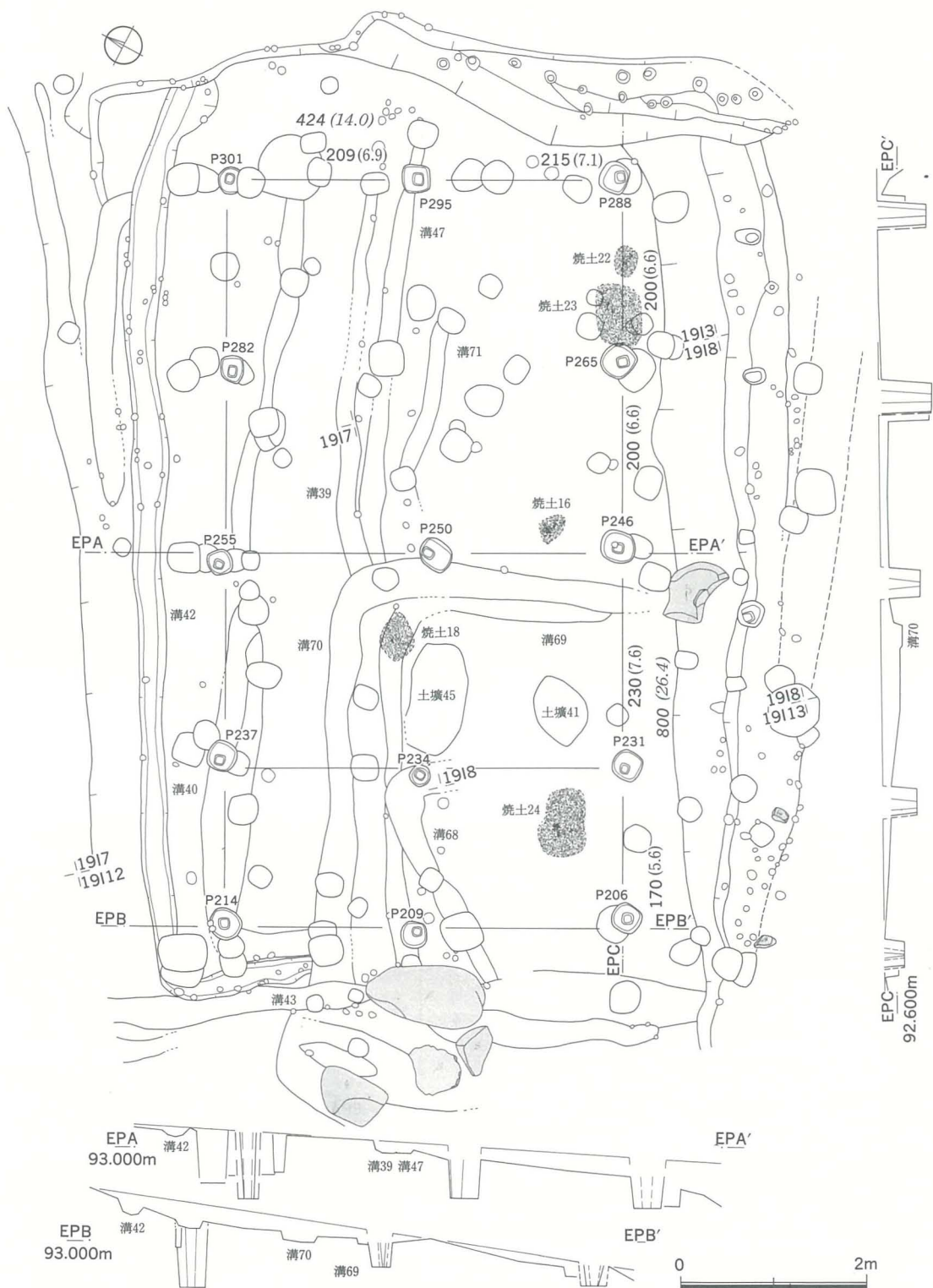
第40図 第37号建物跡想定図



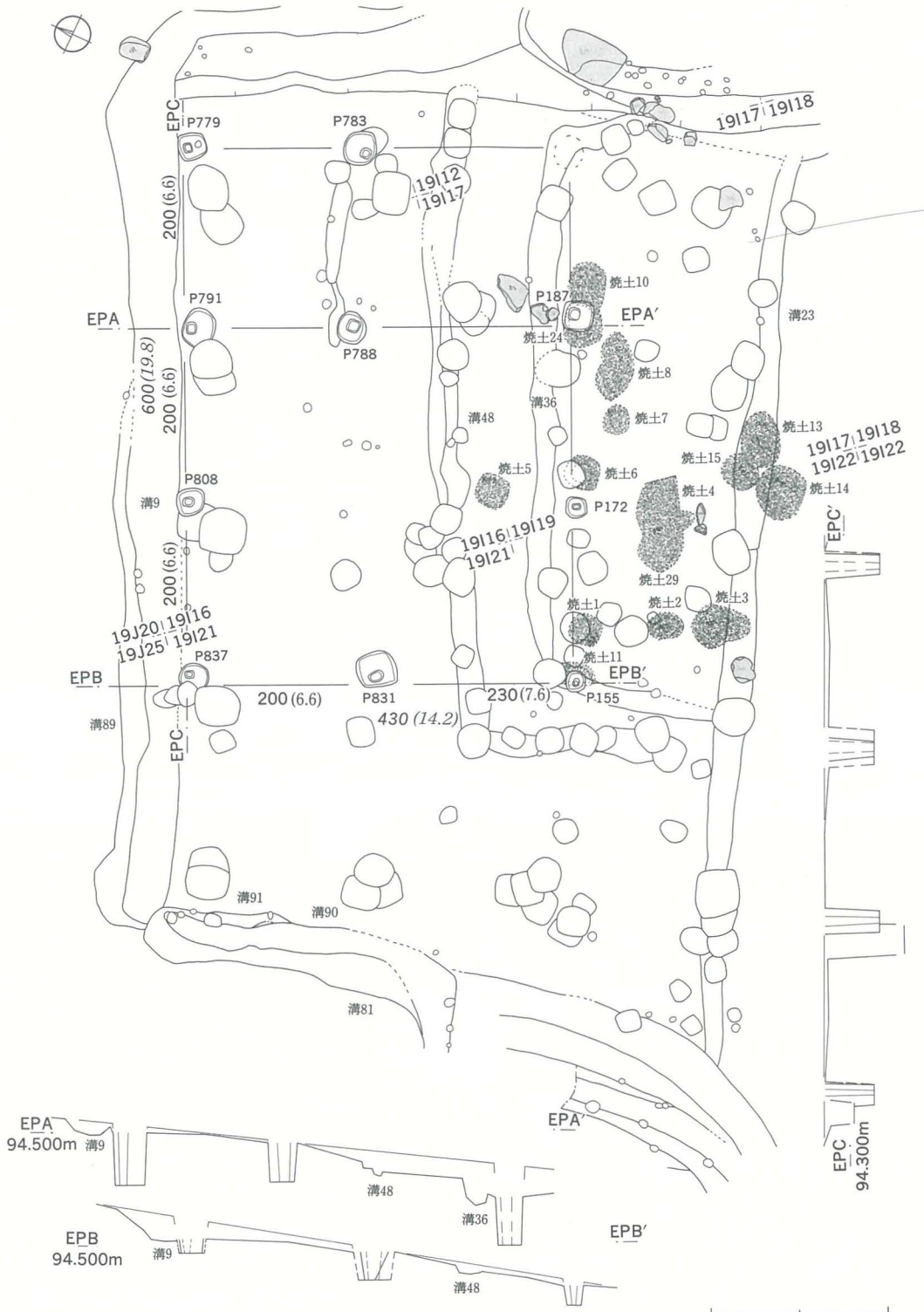
第41図 第38号建物跡想定図



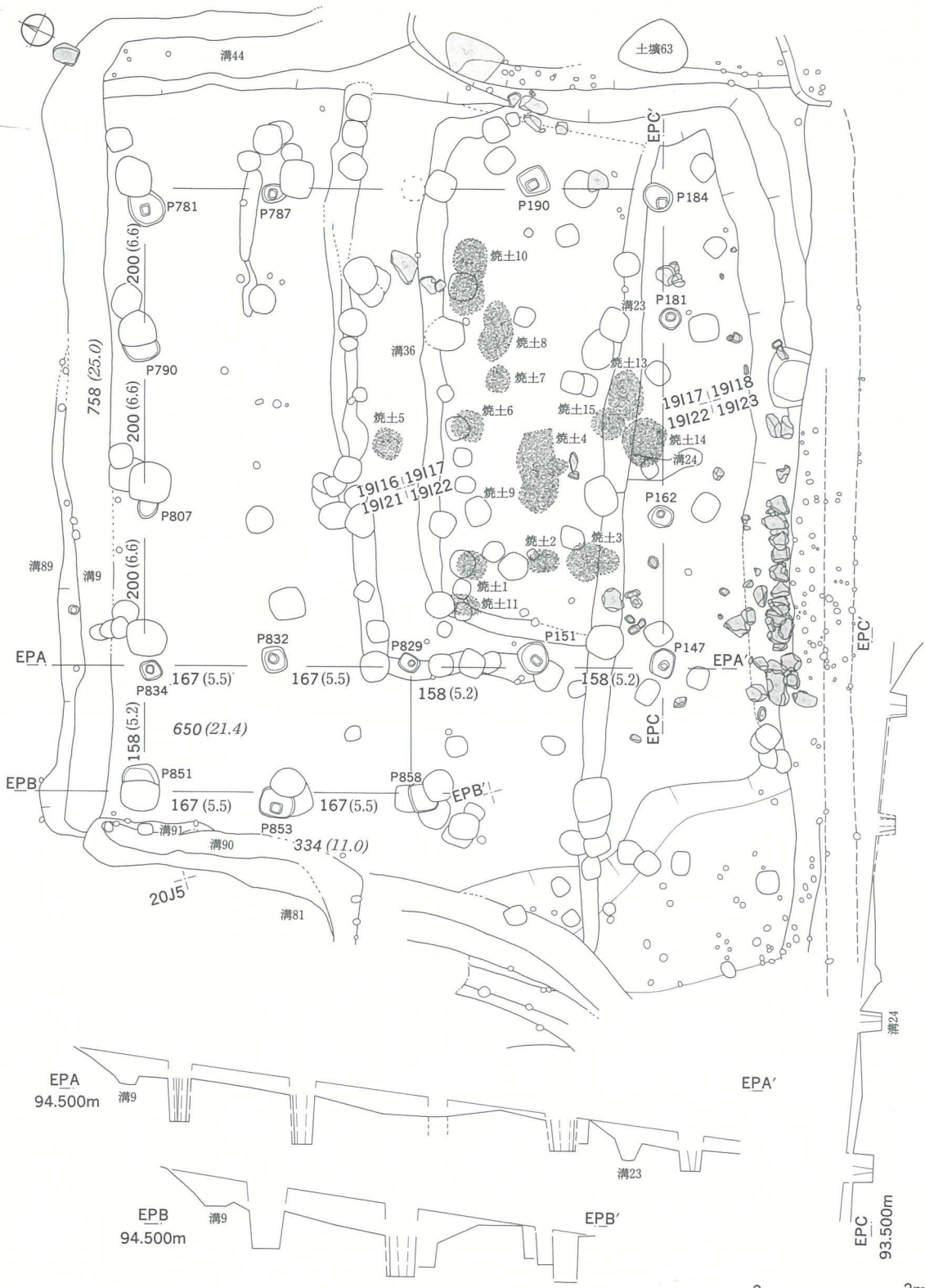
第42図 第39号建物跡想定図



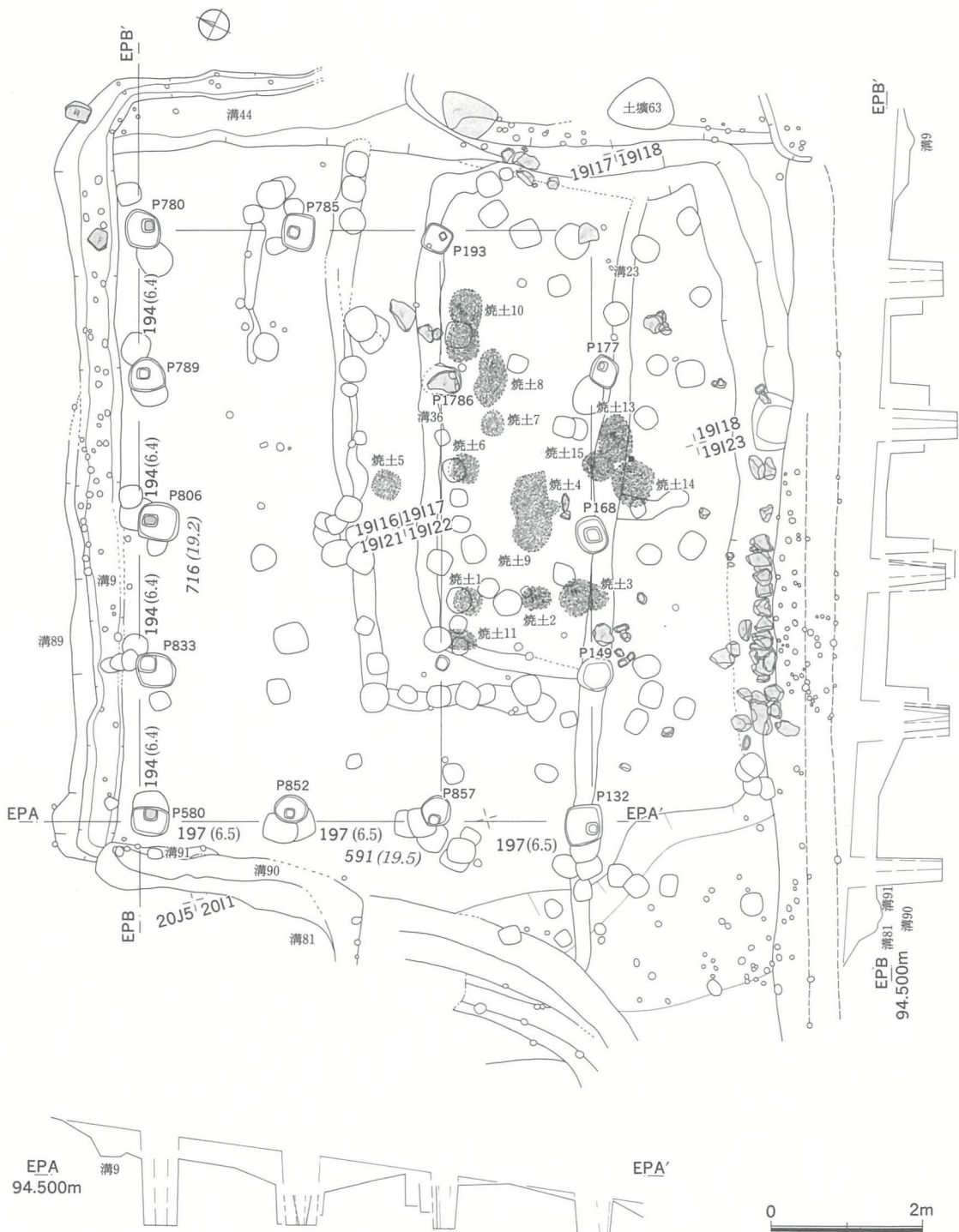
第43図 第40号建物跡想定図



第44図 第41号建物跡想定図

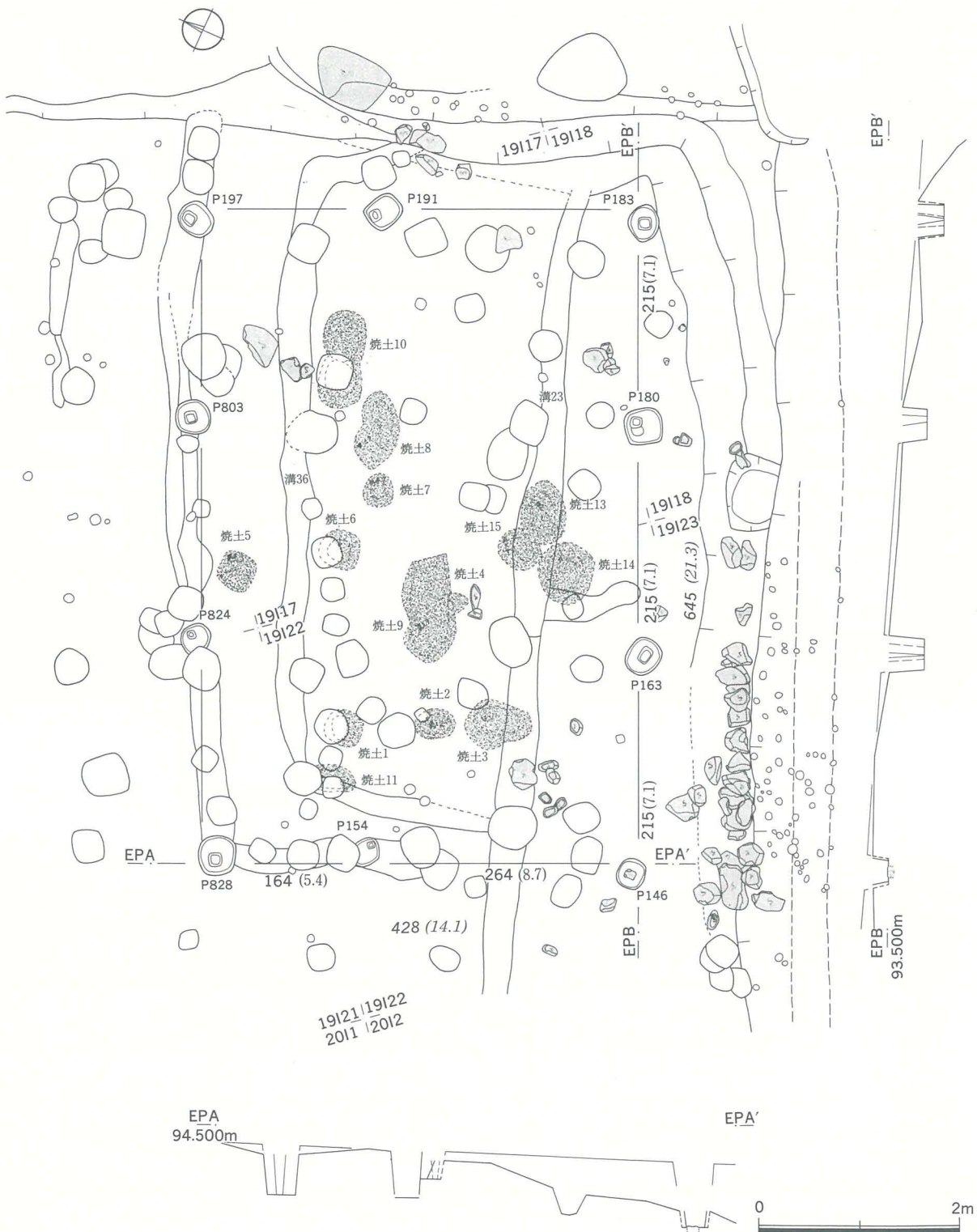


第45図 第42号建物跡想定図



第46図 第43号建物跡想定図





第47図 第44号建物跡想定図

m、平均斜度は19 I 4区から20 I 8までで5°である。

宮ノ沢側に4回、中央通路側に2回の溝の作り替えが認められる。宮ノ沢側の溝は館縁辺部を巡る柵列の布掘りによる掘り込みの痕跡であり、調査区内に設定した土層観察セクション等から溝74→76→73→27の順に、宮ノ沢側から夷王山側へと新しくなっていくことが確認された。特に溝74に残る柱穴は経20cm前後、深さ50cm程の大きなものである。

調査区境界に設定した土層観察セクション(第4図H~H')と溝の数から、盛り土による路面の作りなおしが、少なくとも4回以上行われていたことが窺われるが、路面整地土は6面程に分層されることから、柵列の溝の改修回数よりも多く整地がなされた可能性も考えられる。整地には緑黄色の礫粒、炭化物を多量に含んだ黒色土等が使用され、19 I 9区周辺では整地土である炭化物中に炭化米の塊が多く見られた。溝76と同時期と考えられる路面は、ハードロームを整地土に使用している。

路面の破壊を避けたため平面プランは確認出来なかったが、調査区境界H~H'セクションで、ロームブロック混じりの整地層(III-17)を切る溝の存在を確認している。昨年度の調査でも帯曲輪中央部に溝の存在を確認しているが、掘り込み面が新しいため今年度調査で確認されている溝と直接関係することは考えがたい。

19 I 4・9・13区周辺で、塀と考えられる東西方向の柱列(P116・118・120・228・225・202)を検出した。19 I 18・23区の路面上でも柱穴を数個検出したが、用途・性格は不明である。さらに路面上で柱穴が確認される可能性もあったが、路面を必要以上に破壊することを避けるため、それ以上の調査は行わなかった。

19 I 19区で表面がやや扁平な礫を横に並べている箇所が見られた(PL. 10)。19 I 23区の石積同様、土止めの役割をしていたのかもしれない。

図示はしていないが、19 I 18区P200の付近、炭が多量に混じる整地層の中から藁のようなものが付着した銅製品(仏具?)が出土した。遺物の上下面に藁が付着していたので、藁で包まれていたのであろう。整地層を掘り込んだような痕跡は特に認められなかったため、埋納したものと断定で

きない。

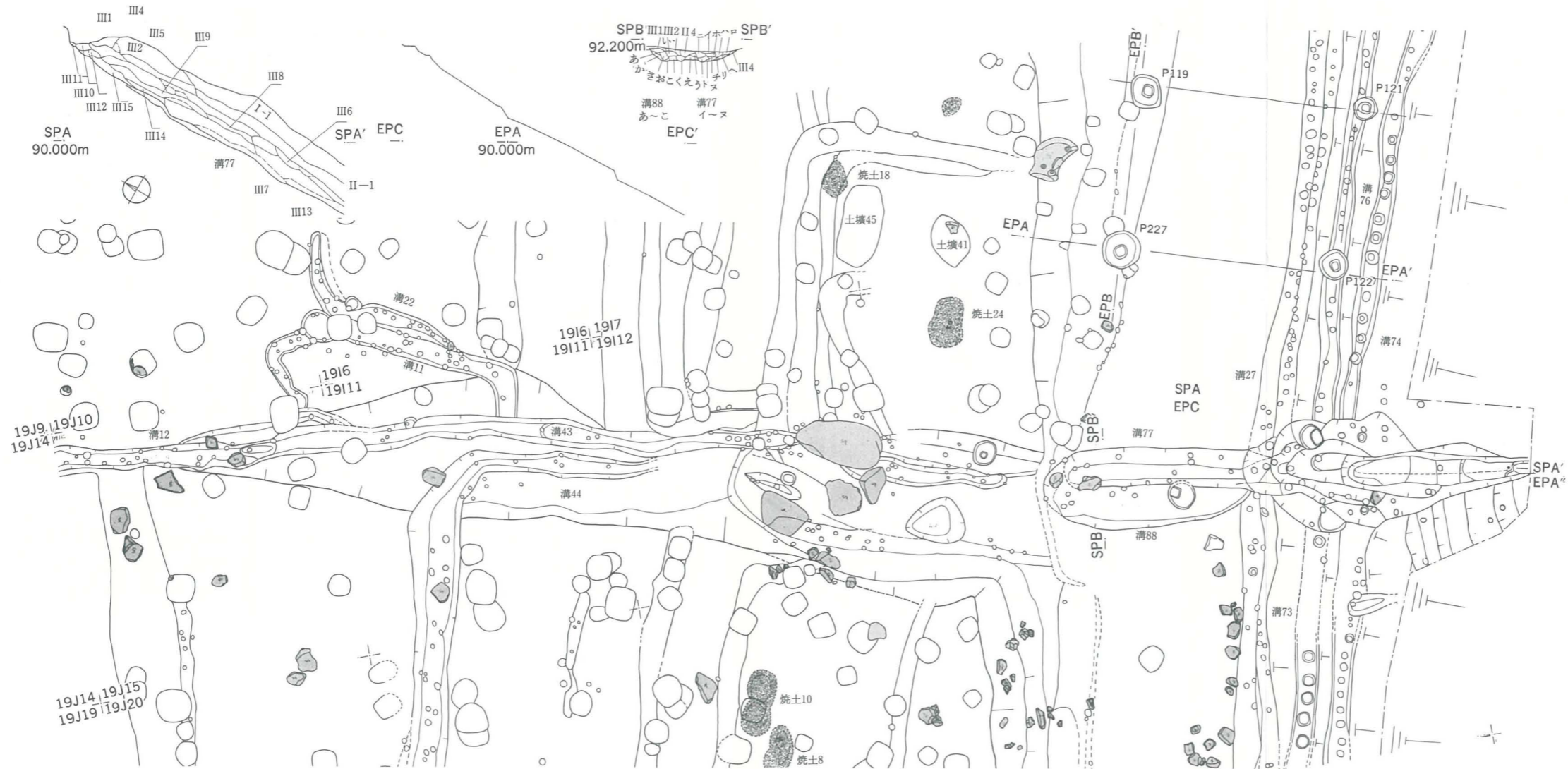
帯曲輪の機能としては、第一・二・三平坦面を縦断する中央通路に対する東西の副次的通路と考えられるが、度重なる作りなおしの痕跡から副次的とはいえ、館内において重要な役割を果たしていたであろうことは考えられる。特に、確認されただけでも4回の作り替えが認められる柵列は、館南部の防御に心を砕いていたことを窺わせる。昨年度の調査で確認された矢倉様建物跡、今年度の調査で検出された門のような建物(第45号建物跡)、堅堀とも考えられる溝77などと結びつき、南方の防御を堅固に固めていたと考えられる。また、館主体部において帯曲輪の存在する南部は、段で画された地割面が存在するなど、大型建物跡・鍛冶鑄造遺構などが存在する北部と異なる様相が見られるため、今後、勝山館主体部の全体の構造を総括的にとらえた視点による帯曲輪の性格の位置付けが必要である。

(第32号建物跡~帯曲輪：松田)

#### (4) 堅穴建物跡・土塀

##### a 堅穴建物跡

**第65号堅穴建物跡**(第50図)：19J13区に位置する、西側に入口をもった1辺約2.3mの方形の建物跡である。四隅と東面および西面の中央に計6本の柱を立て、その間には入口部分を除いて浅い溝が掘られ、壁材を支える柱の跡が並んでいる。西側中央の壁面には用途不明の小柱穴が1つ検出した。覆土は、投げ込みの土で、殆どがロームを含んだ黄褐色~褐色土でブロック状に堆積しているが、入口付近の覆土は入口床面の傾斜に並行して堆積している。南西部分と入口部分の2箇所から炭化物が集中して出土した。両者は出土している層位が違っており、南西部分の炭化物には魚骨が多く含まれているのに対し、入口部分の炭化物には茅材が混ざっていたので別の性格のものである。南西部分は、煮炊きをした場所と考えられるが、焼土は殆ど検出されなかった。炭化物出土範囲の中央部にわずかに凹んだ箇所があり、そこだけ炭化物が希薄である。入口部分の炭化物は、火災によるものと思われる。炭化物が全面にないことから、部分的に火災が起り、その後に廃棄されたのではないだろうか。東側には検出された腐植土も、火災あるいは廃棄された際に柱などの部材が倒れてそのまま腐ったものであろう。また、

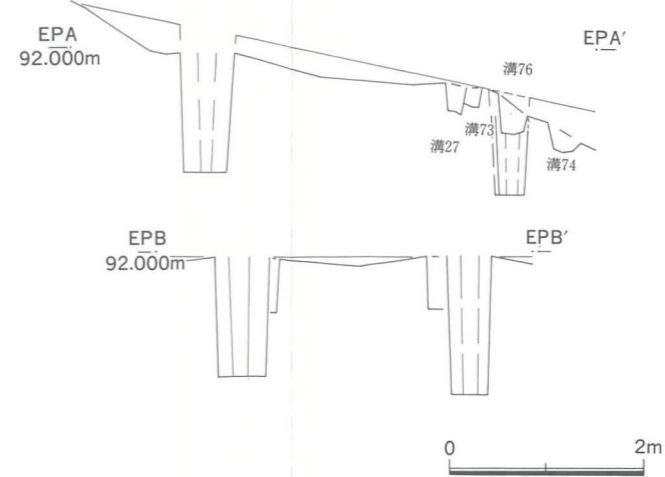


東西セクション北壁土層

III-1	10YR3/4	暗褐	硬	全ローム質	ハード	焼土粒微量	C	土器
2	10YR2/3	黒褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C少量	土器
3	10YR3/3	暗褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C少量	土器
4	10YR4/4	褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C少量	土器
溝77イ	10YR3/4	暗褐	硬	ローム粒	ややハード	焼土粒少量	C	
ロ	10YR3/4	暗褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C少量	
ハ	10YR3/4	暗褐	硬	ローム粒	ややハード	焼土粒微量	C	
ニ	10YR2/3	黒褐	硬	ローム粒	ややソフト	焼土粒微量	C少量	
ホ	10YR3/4	暗褐	硬	ローム粒	ややソフト	焼土粒微量	C	
ヘ	10YR3/3	暗褐	硬	ローム粒	ややハード	焼土粒微量	C少量	
ト	10YR2/3	黒褐	硬	ローム粒	ややハード	焼土粒微量	C少量	
チ	10YR3/4	暗褐	硬	ローム粒	ややハード	焼土粒微量	C	
リ	10YR4/4	褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C	
ニ	10YR4/4	褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C	
溝88あ	10YR3/4	暗褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C少量	土器
い	10YR3/4	暗褐	硬	硬ローム粒	ハード	焼土粒微量	C少量	土器
う	10YR2/3	黒褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C少量	土器
え	10YR3/3	暗褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C	土器
お	10YR2/3	黒褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C	土器
か	10YR3/4	暗褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C少量	土器
き	10YR4/4	褐	硬	全ローム質	ソフト	焼土粒微量	C	土器
く	10YR3/3	暗褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C	土器
け	10YR3/3	暗褐	硬	ローム粒	ハード	焼土粒微量	C少量	土器
こ	10YR3/3	暗褐	硬	ローム粒	ややハード	焼土粒微量	C少量	土器

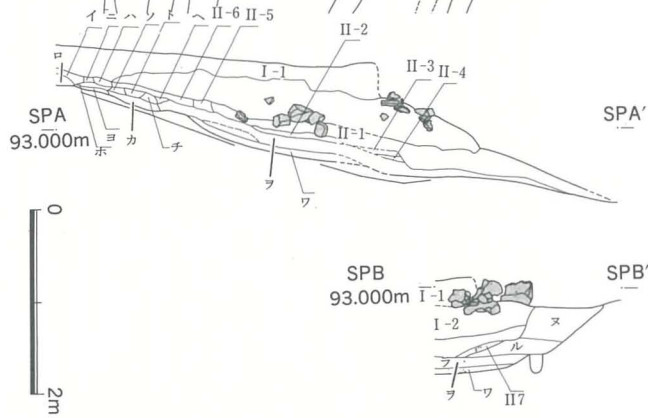
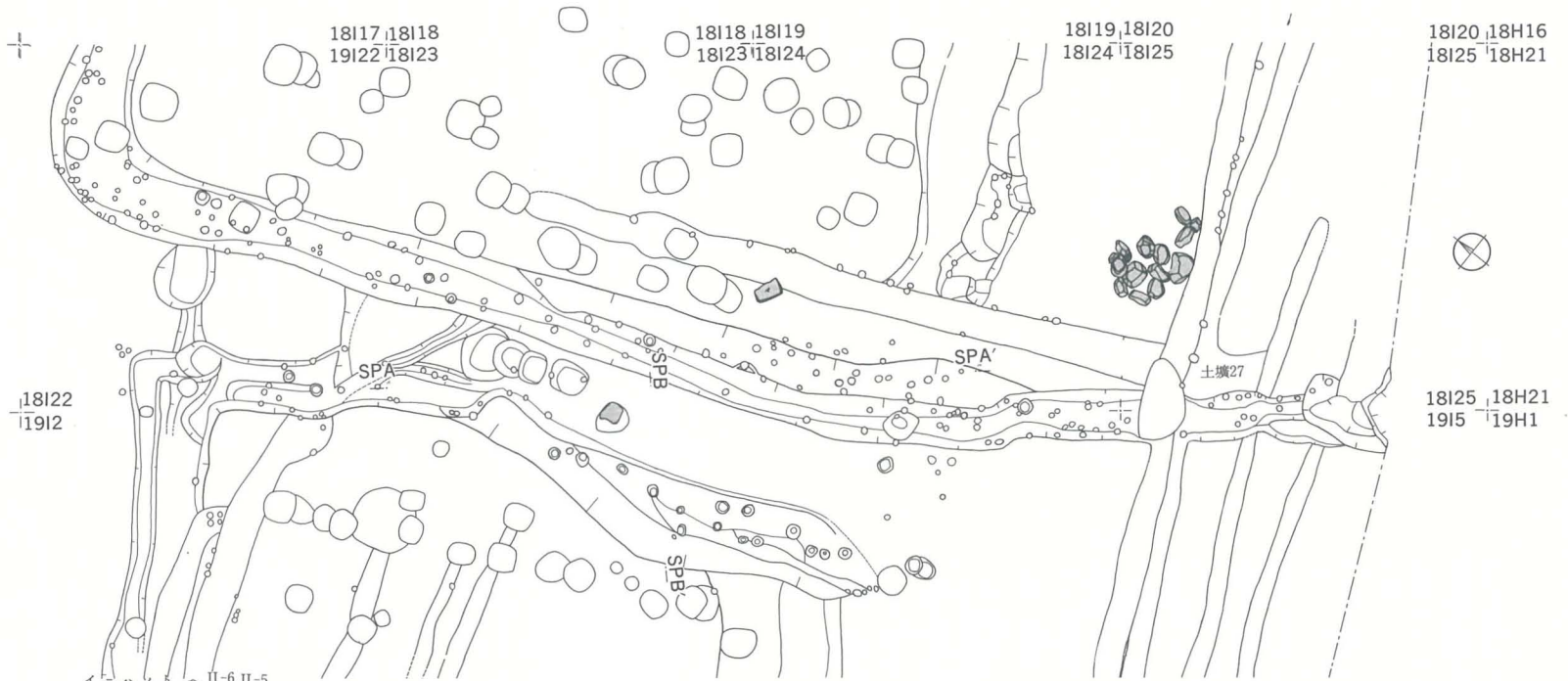
溝77 南北セクション東壁土層

I-1	7.5YR2/3	極暗褐		ローム粒微量	ソフト	焼土粒微量	C微量	
II-2	7.5YR2/3	極暗褐		ローム粒微量	ややソフト	焼土粒微量	C微量	
III-1	7.5YR2/23/2	黒褐		ローム粒	ソフト	焼土粒微量	C微量	
2	10YR2/3	黒褐	硬	ローム粒	ソフト	焼土粒微量	C微量	
3	7.5YR2/3	極暗褐		ローム粒	ややしまりあり	焼土粒微量	C微量	
4	7.5YR3/3	暗褐	硬	ローム粒	玉砂利少量あり	焼土粒微量	C	石器1コ
5	7.5YR3/3	暗褐	硬	ローム粒	ザラザラ	焼土粒微量	C	土器1コ
6	7.5YR3/3	暗褐	硬	ローム粒	ソフト	焼土粒微量	C	
7	7.5YR3/2	黒褐		ローム粒	砂混り	焼土粒微量	C	
8	10YR3/3	黒褐		シルトばい	混り少ない	焼土粒微量	C	炭化物
9	7.5YR3/3	暗褐		ローム粒	全砂混り	焼土粒微量	C	
10	10YR3/4	暗褐	硬	ローム粒	玉砂利少量混り	焼土粒微量	C	
11	10YR3/4	暗褐	硬	ローム粒	ソフト	焼土粒微量	C	
12	10YR2/3	黒褐	硬	ローム粒	全砂混り	焼土粒微量	C	
13	7.5YR3/3	暗褐		基盤粒微量	砂ばい	焼土粒微量	C	土器、炭化物
14	10YR4/3	にぶい		砂混り	玉砂利少量	焼土粒	C	土器
15	7.5YR3/2	黒褐		ローム粒	砂少量混り	焼土粒	C少量	土器、炭化物



第48図 第45号建物跡想定図・通路跡A

第49図 通路跡B



1-1	10YR4/3	にぶい 黄褐	礫粒	ローム粒	ソフト	焼土粒散見	C散見
2	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	高粘粒散見 ソフト	焼土粒散見	C散見
3	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト	しまりなし 焼土粒散見	
II-1	10YR2/3	黒褐			シルト	ソフト	腐性 焼土粒
2	10YR4/	にぶい 黄褐			火山灰多 シルト	ソフト	焼土粒散見
3	10YR2/3	黒褐			高粘粒	ソフト	腐性 焼土粒散見
4	10YR2/2	黒褐			シルト	ソフト	焼土粒散見
5	10YR3/3	暗褐			シルト	ソフト	焼土粒散見
6	10YR3/3	暗褐			火山灰多 シルト	ソフト	焼土粒散見
7	10YR3/3	暗褐			火山灰多 シルト	ソフト	腐性 焼土粒散見
編年 I	10YR4/3	にぶい 黄褐	礫粒		ややソフト	やや腐性	C散見 土部
ハ	10YR4/4	黄	礫粒		ハード	全面粘質	焼土粒散見 C散見 土部
ホ	10YR4/3	にぶい 黄褐	礫粒	ローム粒	ややソフト	やや腐性	焼土粒
ニ	10YR4/4	黄	礫粒		ソフト		焼土粒散見 C散見 土部
ヘ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームゾ ロームゾ	ややハード	焼土粒散見 C散見
ト	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームゾ ロームゾ	ハード	焼土粒散見 C少見
チ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームゾ ロームゾ	ややソフト	C散見 土部
リ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	シルト	ソフト	焼土粒散見
ル	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	ソフト		C散見 土部
レ	10YR2/2	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト		土部、石部
ヲ	10YR4/4	黄	礫粒	全面「ロームゾ ゾ」	ハード		焼土粒
ヅ	10YR2/2	黒褐	礫粒	ローム粒	ソフト	ベースト状	焼土粒 少量
カ	10YR3/3	暗褐	ロームゾ ロームゾ		ソフト		C少見
キ	7.5YR5/4	黄	礫粒	高粘粒	赤礫粒	ソフト	しまりなし

中央の南北に延びる浅い溝も、根太の可能性もあるが、部材が倒れた跡と思われる。この堅穴は第26号建物跡のP964をはじめ9個の柱穴に切られている反面、切っている遺構がない。また、東端が地割を大きく区画する段の上部とほぼ同じ位置にあって、地割に制約されないで建てられていることから、勝山館が計画的に整地される前の初期の建物跡ではないかと考えられる。遺物は、陶磁器では内禿げの青磁皿、染付皿2点（内1点は火熱を受ける）、瀬戸美濃皿2点のうち、1点は端反り皿で大窯I期のもの、もう1点は体部内側にソギがある丸皿が出土した。この丸皿は、16世紀前半～中葉のものであるが、出土地点が確認面と同じ高さなので、この堅穴に伴うものとは考えがたい。鉄製品は、小札1点、釘1点、鍋4点が出土した。図に示していないが、中柄の基部と思われる骨角器が1点出土している。その他磨製石斧が1点出土しているが攪乱の入り込みであろう。

**第67号堅穴建物跡**（第50図）：19J23区に位置する。東端を溝38・61・66に、中央部を溝52・53・60によって殆ど壊されている。入口は東あるいは南側にあったと推測されるが検出できなかった。柱穴は西側に3個北東隅に1個検出した。南東側のP883は掘り方が壁を壊していることから別の柱穴と思われる。中央部には炭化物が集中した箇所が検出され、南側半分は灰褐色の土が混ざる。この堅穴から遺物は出土せず、時期の特定はできないが、立地が第31号建物跡等の地割りと西隣にある1段高い地割りととの境にあり地割りとは無関係に建てられていること、先述の溝6本等に切られていることから、第65号堅穴建物跡と同様に勝山館が大規模に整地される前のものであろう。

（第65・67号堅穴建物跡：佐藤）

**第69号堅穴建物跡**（第51図）：18K19、20、24、25区に位置する。西側部分を欠失しているが、約2.2×2.2mほどの規模をもつ。張り出し部は南東を向き、幅72cm、長さ60cmほどで、スローブ状となる。深さは約60cmであり、浅く、現代の御代参道路でかなり削平を受けていると考えられる。第17号建物跡大型柱穴に切られ、さらに15号建物跡を構成する柱穴P1898と重複し、さらにこれに切られている柱穴よりも古いことから15号建物跡以前の時期のかなり古い時期の堅穴となる。

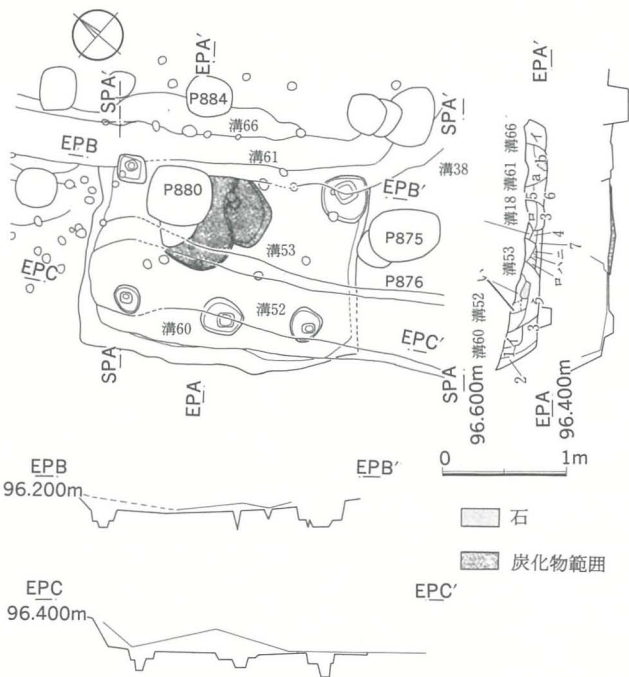
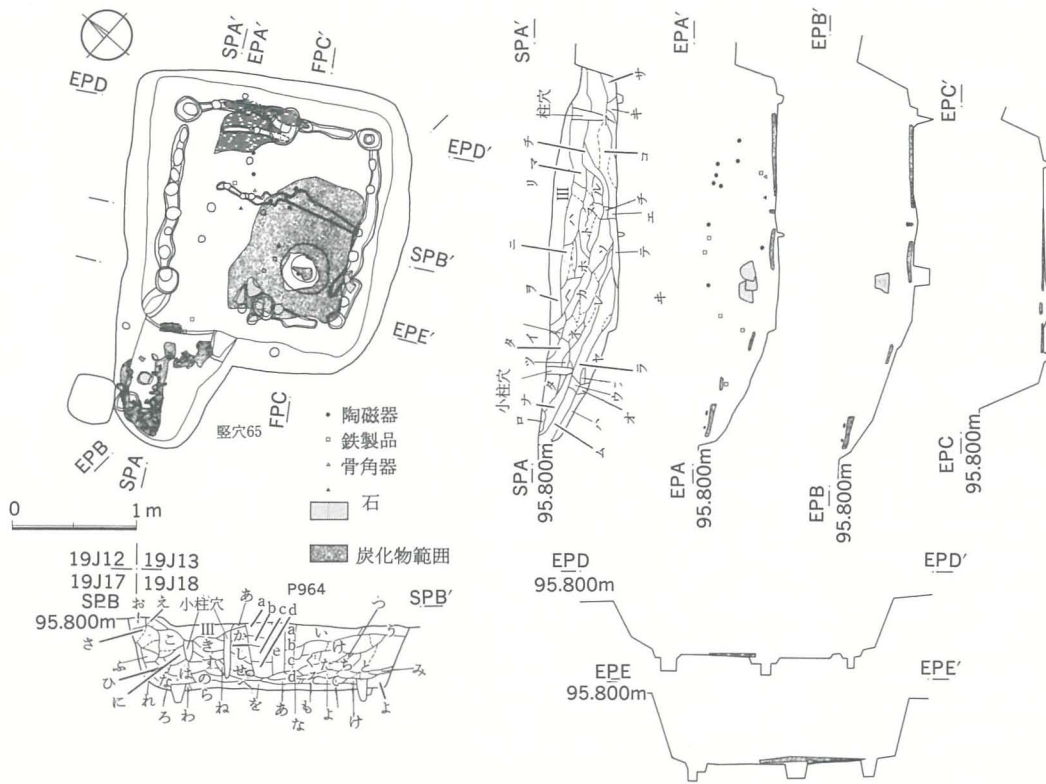
（斉藤）

## b 土 壌

**土壌20**（第52図）：19J14地区に位置し、南北90cm、東西75cmの南北に細長い楕円形を呈しており、南側の立ち上がりの中ほどに僅かだが稜を持つ。堆積は大きく5つに分けることができる。すなわち、①柔らかい黒褐色土層（イ～ロ）、②炭化物が大量に含まれている黒色土層（ニ）、③ローム粒をやや多く含んだ暗褐色土層（ホ～ト）、④粘性のある暗褐色土層（チ～ル・ネ）、そして⑤暗褐～褐色土層（ヲ～ツ）である。炭化物を大量に含んだ黒色土層は土壌の中位にU字形に堆積しており、勝山館跡から検出された土壌の類例として、平成3年度調査の土壌22、平成5年度の土壌3、平成6年度の土壌11が挙げられる。これらの土壌は円形を呈しているのに対し、本土壌は、楕円形を呈している点が異なるが、土層の堆積状況から見ても、過年度に検出された土壌とは機能並びに用途は同じものであったと思われる。また、平成6年度土壌11を除いた全ての土壌には小柱穴が付属していると見られ、土壌20も図に示したとおり同様に小柱穴が付属すると見られる。しかし、土壌の近くでは確認できなかったが、すぐ北西を溝38が走っていると思われるので図の全ての小柱穴が土壌に付属するものとは考えられない。

この土壌からは、陶磁器、鉄製品、骨角器、石が出土した。陶磁器は越前の播鉢（概報V-III類、16世紀前半）と染付皿である。鉄製品は、鍋の破片2点が出土した。骨角器はすべて海獣骨製で中柄あるいは鏃と思われるが、体部・基部のみのため特定はできない。いずれの骨角器も風化が進んでおり、内1点は火を受けたと思われる一部黒ずんでいる。これらの遺物の分布は、鍋が③の層から出土したほかは②の層あるいは①の層から出土しており、上記の過年度に検出された土壌も炭化物層あるいはそれより上位の層から殆どの遺物が出土している。また②の層の様に炭化物を大量に含む層があるにもかかわらず、ほとんどの遺物に火熱を受けた様子が認められない点なども上記の土壌と共通する。

**土壌21**（第52図）：19J14区、土壌20のすぐ東隣に位置する。土壌20と同じ南北にやや長い楕円形を呈し北及び東側に僅かに稜を持つがやや浅い。覆土は黒褐色土層（イ）、炭化物とロームブロックがやや多めに入る暗褐色土層（ニ・ホ・ト・チ）、



1	19YR5.4 紅土 高純	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
2	19YR5.6 黄 紅土 高純	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
3	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
4	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
5	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
6	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
7	10YR4.7 紅土 高純	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
8	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
9	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
10	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
11	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
12	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
13	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
14	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
15	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
16	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
17	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
18	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
19	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
20	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
21	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
22	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
23	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
24	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
25	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
26	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
27	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
28	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
29	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
30	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
31	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
32	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
33	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
34	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
35	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
36	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
37	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
38	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
39	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
40	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
41	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
42	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
43	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
44	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
45	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
46	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
47	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
48	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
49	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物
50	10YR4.6 黄 土	練粒	==A粒	==Pの %	中中粒	粘質	炭化物

第50図 竪穴65・67平面図他

表9 竖穴65セクション 土層表

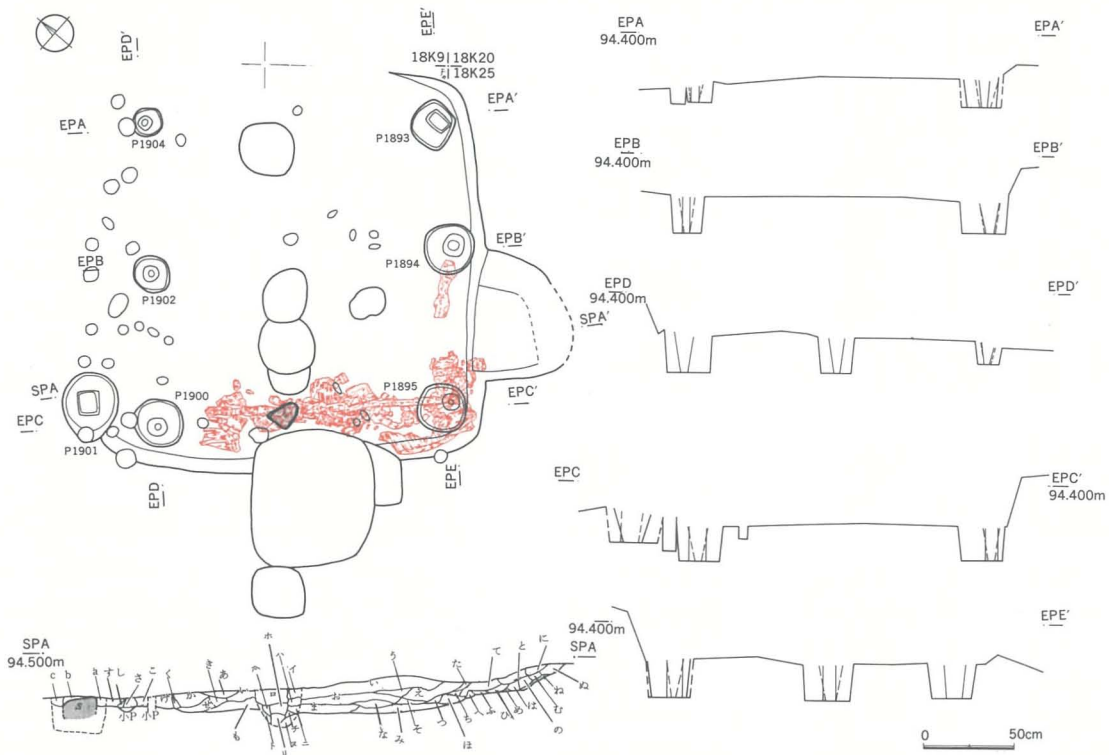
竖穴65 SPA-A'	III	10YR2/3	黒褐	礫粒 土粒	ローム粒	ロームブロック	焼	粘性なし	ソフト	炭化物	
	イ	10YR4/4	褐	礫粒 土粒微量	ローム粒	ロームブロック	焼	粘性なし	ソフト やや粗	炭化物微量	
	ロ	7.5YR4/6 10YR3/3 ~3/4,5/6	褐 暗褐 黄褐	礫粒 礫粒少量	ローム粒	焼土粒(1%) ロームブロック		粘性あまりなし	ややハード <ロ>よりややハード	炭化物(10%) 炭化物	
	ニ	10YR4/4, 4/6	褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	焼土 粒	粘性なし	ややハード	炭化物	
	ホ	10YR5/6	黄褐	礫粒	ロームブロック			粘性あり	ややハード	炭化物微量	
	ヘ	10YR4/4	褐	礫粒 粒少量	ローム粒	ロームブロック	焼土 粒	粘性なし	ややソフト	炭化物微量	
	ト	10YR3/4, 4/4	暗褐褐	礫粒 粒微量	ローム粒	ロームブロック	焼土 粒	粘性なし		炭化物	
	チ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック		ハード		炭化物	
	リ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	焼土粒	<ハ>よりややハード		炭化物	
	ヌ	10YR3/3, 4/4	暗褐褐	礫粒 土粒	ローム粒	ロームブロック	焼				
	ル	10YR3/4, 4/4	暗褐褐	礫粒	ローム粒					炭化物	
	ヲ	10YR4/6	褐	礫粒 焼土粒微量	ローム粒多量	ロームブロック		粘性なし		炭化物微量	
	ワ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	少量	粘性なし	ソフト	炭化物(30%)	
	カ	10YR3/4, 4/4	暗褐褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック		粘性なし	ソフト	炭化物	
	ヨ	10YR5/8	黄褐	全面ローム	礫粒			粘性あり	ハード	炭化物少量 土器	
	タ	10YR4/6	褐	礫粒	ローム粒	やや多し	ロームブ ロック	焼土粒	粘性ややあり	ソフト	炭化物少量
	ソ	10YR3/4, 4/4	暗褐 褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	焼土 粒	粘性なし	ソフト	炭化物	
	ツ	10YR3/4	黄褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	(3%)	焼土粒(1%)	粘性なし	ソフト	炭化物(5%)
	ネ	5YR4/6	赤褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	少量	焼土粒(20%)	粘性なし	ソフト	炭化物(5%)
	ナ	10YR4/4褐(60%)+10 YR2/1黒(40%)		礫粒	ローム粒	ロームブロック		焼土粒少量(3%)	粘性なし	ソフト	炭化物(40%)
	ラ	10YR5/4にぶい黄褐 (60%)+10YR3/3暗褐 (40%)		礫粒	ロームブロック	焼土粒少量			粘性なし	ややソフト	炭化物
	ム	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	火山灰多量			ソフト		炭化物
	ウ	10YR5/6黄褐(50%)+10 YR3/2黒褐(50%)		礫粒	ロームブロック	礫粒	焼土粒微 量		粘性あり	ややハード	炭化物
	ノ	10YR2/2、黒褐 暗褐 3/3		ローム粒	ロームブロック	火山灰多 量			ソフト	炭化物	
	オ	10YR3/2黒褐(80%)+10 YR5/6黄褐(20%)		ローム粒	ロームブロック(20%)	火 山灰(10%)			粘性ややあり		炭化物(10%)
	ヤマ	10YR4/6	褐	礫粒	焼土粒	全面粘土質			ハード		
	ケ	10YR4/3	にぶい黄褐褐 ~4/4	礫粒少量					焼土粒		火山灰少量
	フ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	火山 灰			ややソフト	炭化物
	コ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム	焼土粒				やや粘性あり	炭化物
	エ	10YR6/4	にぶい黄褐	全面火山灰							
テ	7.5YR5/8	明褐	全面ローム	礫粒	焼土粒少量	火山 灰(10%)		粘性あり	ややハード	炭化物(3%)	
ア	10YR3/1	黒褐						粘土質	湿気あり		
サ	10YR3/2	黒褐	礫粒	火山灰				ソフト			
キ	10YR4/4, 4/6	褐、にぶい黄褐	全面粘土								
SPB-B'	III	10YR2/3	黒褐	礫粒	ローム粒	焼土粒		粘性なし	ソフト	炭化物3%	
	あ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	5%	粘性なし	ソフト	炭化物1%	
	い	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	10%	粘性なし	ソフト	炭化物5%	
	う	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	20%	粘性なし	ややハード	炭化物3%	
	え	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒	焼土粒	2%			炭化物	
	お	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒	焼土粒微量			ややハード		炭化物	
	か	10YR5/6	黄褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	10%	粘性なし	ややハード	炭化物1%	
	き	10YR5/6	黄褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	30%	粘性あり	ややハード	炭化物10% <ハ>と同一層	
	く	10YR5/6	黄褐	全面ローム	礫粒	焼土粒微量		粘性ややあり	ややハード	炭化物少量	
	け	10YR4/4, 4/6	褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	焼土 粒	火山灰	粘性ややあり	ややハード	炭化物
	こ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	焼土粒微量				炭化物	
	さ	10YR4/3, 4/4	にぶい黄褐 褐	礫粒少量	ローム粒	ロームブロック			粘土質	炭化物	
	し	10YR5/8	黄褐	全面ローム	礫粒	焼土粒少量			粘性なし	ハード	炭化物2%
	す	10YR3/3, 3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	焼土 粒	微量	粘性なし		炭化物2% <ト>と同一層
	せ	10YR5/8	黄褐	全面ローム	礫粒	<く>より少ない			粘性ややあり	ハード	炭化物1%
そ	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ロームブロック	5%		粘性なし	ハード	炭化物1%	

た	10YR3/3	暗褐	礫粒 ローム粒 ロームブロック3% 焼土粒微量	粘性なし ソフト	炭化物5%
ち	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒 ローム粒 ロームブロック5% 焼土粒少量	粘性なし ハード	炭化物1%
つ	10YR5/8	黄褐	全面ローム 礫粒 焼土粒微量	粘性あり ややハード	炭化物少量
て	10YR5/6	黄褐	礫粒 ローム粒 ロームブロック10% 焼土粒1%	粘性ややあり ハード	炭化物3% 土器
と	10YR4/4	褐	礫粒 ローム粒 ロームブロック10% 焼土粒微量	粘性ややあり ややソフト	炭化物5%
な	10YR5/8	黄褐	全面ローム 礫粒	粘性なし ハード	炭化物少量
に	10YR5/4	にぶい黄褐	全面ローム	礫粒少量	焼土粒微量 ハード 密
ぬ	10YR4/4	褐	礫粒 ローム粒 粘性なし	ハード	
ね	10YR5/6	黄褐	全面ローム 礫粒 焼土粒微量	粘性ややあり ハード	
の	10YR3/3	暗褐~褐	礫粒 ローム粒 ロームブロック焼土 粒火山灰少量		炭化物 <ヌ> と同一層
は	10YR4/4	褐	礫粒 焼土粒	粘土質 やや密	炭化物
ひ	10YR3/4	暗褐	礫粒 ローム粒	<ふ> よりソフト	炭化物少量
ふ	10YR3/4	暗褐	礫粒 ローム粒多量 (<こ> より多量)		

表10 18K24. 25. 堅穴69東西北壁セクション土層

堅穴	あ	10YR3/4	暗褐	ローム粒1% 火山灰微量	砂質 やや密 ややソフト	C15% 焼土粒微量
	い	10YR4/4	褐	ローム粒10% 小礫粒多量	砂質 密 ハード	Cブロック1%
	う	10YR4/4	褐	ローム粒10% 小礫粒多量	砂質 やや密 ややハード	C粒少量
	え	10YR3/3	暗褐	ローム粒50%以上 礫粒多量	砂質 やや密 ハード	Cブロック30% 焼土粒1%
	お	10YR3/4	暗褐	ローム粒5%	砂質 やや粗 ややソフト	Cブロック7% 焼土粒微量
	か	10YR3/4	暗褐	ローム粒1% 火山灰10%	砂質 やや密 ややソフト	Cブロック30%
	き	10YR5/4	にぶい黄褐	火山灰50%以上 小礫粒微量	砂質 やや密 ややソフト	Cブロック10%
	く	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒微量 小礫粒微量	砂質 ややハード	粘性やや有
	け	10YR4/4	褐	ローム粒2%	砂質 やや密 ややハード	C粒1% 粘性やや有
	こ	10YR3/4	暗褐	ローム粒微量	砂質 しまり有り ハード まじり少 ない	C粒微量
	さ	10YR4/4	褐	ローム粒微量	砂質 やや粗 ソフト まじり少ない	C粒微量
	し	10YR4/4	褐	火山灰40%	砂質 しまり有り ややハードまじり 少ない	
	す	10YR3/4	暗褐	火山灰微量	砂質 やや粗 ややソフトまじり少な い	C粒1%
	せ	10YR4/4	褐	ローム粒10% 火山灰1%	砂質 密 ややハード	C粒微量 焼土粒微量
	た	10YR3/3	暗褐	小礫粒微量	砂質 やや密 ソフト	C粒20%
	ち	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒30% 小礫粒微量	砂質 密 ややハード	Cブロック10%
	つ	10YR4/4	褐	ローム粒微量	砂質 密 ハード	C粒40% 焼土粒微量
	て	10YR3/2	黒褐	ローム粒微量	砂質 密 ややソフト	C粒10% 焼土粒1%
	と	10YR3/4	暗褐	ローム粒30%	砂質 密 ハード	C粒5%
	な	10YR3/3	暗褐	ローム粒2% 10YR1.7/1黒色土15%	やや密 ややソフト	焼土粒少量
	に	10YR3/4	暗褐	ローム粒20%	砂質 ややソフト	C粒5% 粘性やや有 焼土粒2%
		10YR3/4	暗褐	10YR2/2黒褐色土50%混 小礫粒少 量	砂質 やや粗 ソフト	
	ぬ	10YR3/4	暗褐	ローム粒少量	粘土質 密 ややハード	C粒1%
	ね	10YR3/3	暗褐	ローム粒少量	やや密 ソフト	C粒微量 粘性有
	の	10YR3/4	暗褐	ローム粒1% 小礫粒多量	粗 ソフト	粘性やや有
	は	10YR3/4	暗褐	ローム粒30%	粘土質 密 ややハード	C粒10%
	ひ	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒30% 礫粒多量	やや粗 ソフト	C粒微量 やや粘性有
	ふ	10YR3/4	暗褐	ロームブロック40% 小礫粒微量	やや密 ややソフト	C粒微量 粘性やや高
	へ	10YR3/4	暗褐	ローム粒10%	密 ややハード	C粒微量混 焼土粒2% 粘性やや高
	ほ	10YR3/4	暗褐	ローム粒15%	砂質 やや密 ややソフト	C粒ブロック10% 焼土粒1%
	ま	10YR3/4	暗褐	ローム粒微量	砂質 やや粗 ソフト 混り少い	C粒20%
	み	10YR1.7/1	黒	ローム粒1%	砂質 やや密 ソフト	C粒50%以上
	む	10YR3/3	暗褐	ローム粒40%	密 ハード	C粒10% 焼土粒少量
	め	10YR3/3	暗褐	ローム粒50% 小礫粒多量	やや密 ややハード	
	も	10YR2/3	黒褐	ローム粒25% 火山灰1%	砂質 やや密 ソフト	C粒5%
	a	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒10%	砂質 やや密 ややソフト	C粒1% 焼土粒微量
	b	10YR4/3	にぶい黄褐		砂質 やや密 ややハード	C粒微量
	c	10YR3/4	暗褐	ローム粒少量 礫粒少量	砂質 密 ハード混り少い	
	イ	10YR3/4	暗褐	礫粒 火山灰少量	砂質 密 ややソフト	C粒少量 焼土粒少量
	ロ	10YR4/4	褐	火山灰少量	砂質 しまり有り ややソフト	C少量
	ハ	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒少量	砂質 密 ややソフト	C粒微量 焼土粒微量
	ニ	10YR3/4	暗褐	ローム粒2% 礫粒少量	砂質 やや密 ややハード	C塊1% 焼土粒微量
	ホ	10YR3/4	暗褐	火山灰微量	砂質 しまり有り ソフト	C粒微量 焼土粒3%
	ヘ	10YR3/4	暗褐	ローム粒10%	砂質 しまり有り ややソフト	C10%
	ト	10YR3/4	暗褐	ローム粒微量	砂質 しまりやや有り ややソフト	焼土粒微量
	チ	10YR3/4	暗褐		砂質 密 ややハード	C粒1%
	リ	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒微量	砂質 しまり有り ややソフト	C粒5% C塊10% 焼土粒微量
	ヌ	10YR3/3	にぶい黄褐	火山灰微量	砂質 密 ややハード	C粒10% 焼土粒微量





第51図 第69号竪穴遺構平面図他

しまりのない黒色・黒褐色土層（ヌ・ル・ワ・カ・タ）、最初に堆積したと考えられるロームブロックが入った黒褐色土層（ロ・ハ・ヘ・リ・ヲ・ヨ・レ・ソ・ツ）の4つに大別することができる。全体的に炭化物が混じった余りしまりのない土で、暗褐色土層に炭化物が特に多く含まれるが、土壌20のように層全体に入るほどではない。周囲には小柱穴が検出され、この土壌に付属するものと考えられる。土壌20に比べやや浅く、覆土の堆積状況も若干異なるが、形状、中に炭化物が含まれる層がある点、周囲に小柱穴を伴う点から、土壌20と同じ性格を持つと考えられる。新旧関係では溝37およびP943を切っていることから、第29号建物跡より新しい。土壌から遺物は出土しなかった。

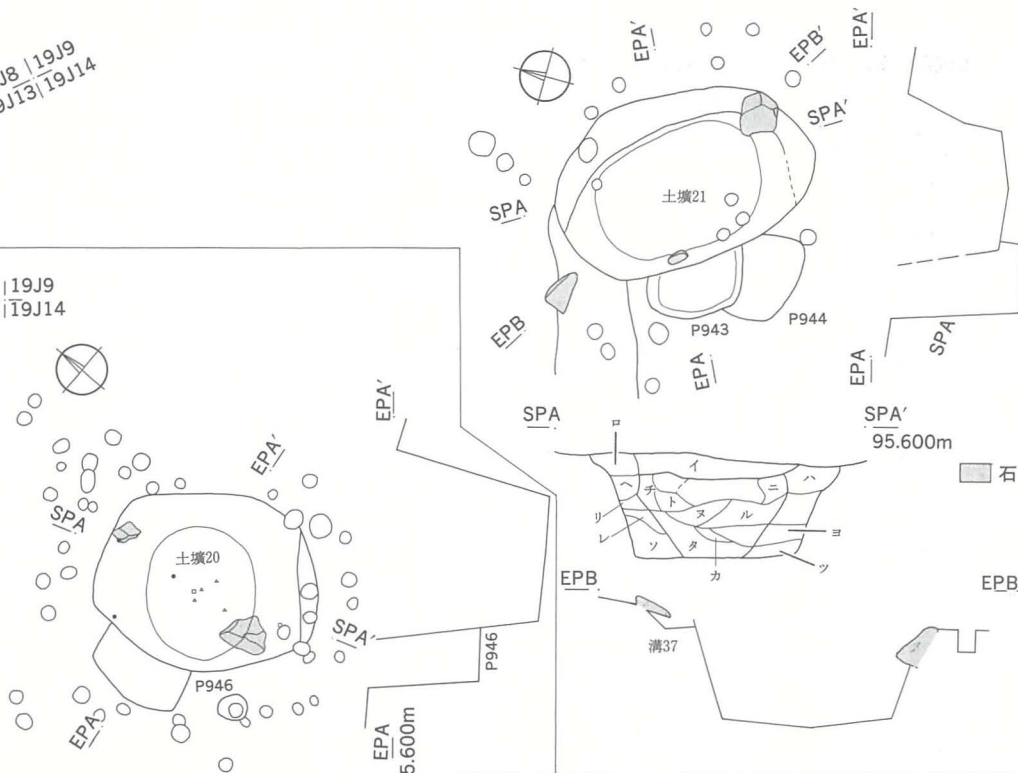
**土壌22**（第52図）：19J14・19区に位置し、東西が長径の楕円形を呈した深さ17cm程の浅い土壌である。覆土はややしまった暗褐色土で、焼土粒と炭化物を少量含む。P917とP918に切られ、その一方でP920を切っていることから、この土壌は、第30・31号建物跡より古く、第29号建物跡より新しい。遺物は3点の石の他は出土しなかった。

**土壌23**（第53図）：土壌22のすぐ西側、19J19区に位置する。形状は土壌22と同様長径が東西の楕円形を呈しており、深さも最深部で15cmと浅く、東側の立ち上がりははっきりしない。覆土は全体的に焼土粒・炭化物を少量含むややしまった暗褐色～にぶい褐色土でありあまり差はない。遺物は覆土中の石以外は出土せず、用途等は不明であるが、大きさ及び形状が土壌22と似ているので同じ用途で作られたものと考えられる。この土壌は、P914とP915に切られていることから、第30・31号建物跡より古い、第29号建物跡との関係はわからない。またこの西側にある土壌33は、東西にやや長い隅丸方形の浅い土壌であり、土壌23より古い。（土壌20～23：佐藤）

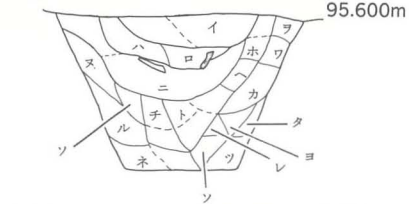
**土壌40**（第55図）：調査区南西端19J11区26～28号建物跡を区画する地割端部で検出された。規模は東西68cm、南北は現代のイモ穴により切られており明確でないが、約64cm程、深さ12cm程の小型で浅い土壌であり、覆土内から骨角器が検出された。土層の堆積では覆土の状態は全体に柔らかい。上部は灰褐～暗褐の土が入るが、中間部分ではIV a

19J8 | 19J9  
19J13 | 19J14

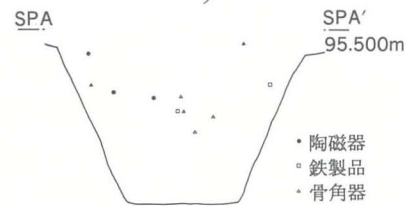
19J8 | 19J9  
19J13 | 19J14



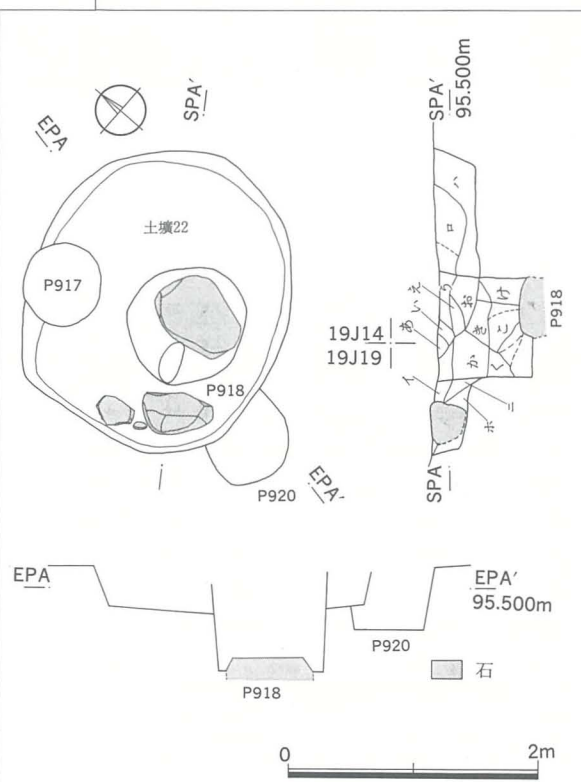
SPA SPA' 95.600m



SPA SPA' 95.500m



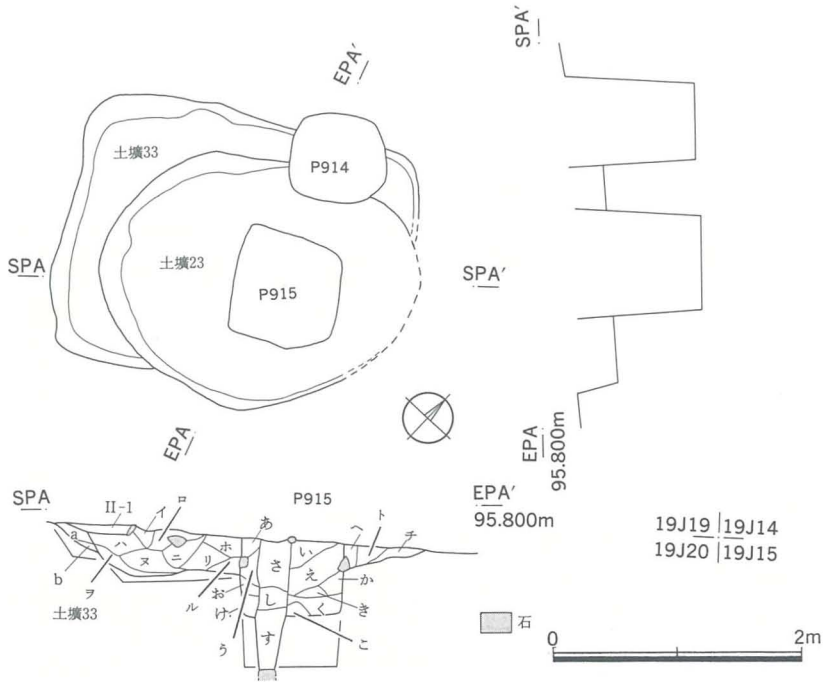
- 陶磁器
- ◻ 鉄製品
- ◻ 骨角器
- ◻ 石
- ◻ 石



第52図 土壌20・21・22平面図他



き	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ハード	炭化物
く	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 焼土粒	〈え〉・〈か〉よりソフト	炭化物
け	10YR3/3	暗褐	礫 礫粒	ローム粒 焼土粒		炭化物
こ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	粘性ややあり	炭化物
さ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 火山灰	ソフト	炭化物
し	10YR3/4	暗褐	礫		礫粒	ソフト
す	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 火山灰多量	〈し〉よりソフト	炭化物
へ	7.5YR5/6	明褐	全面ローム	礫粒	粘性あり	炭化物3%
ほ	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒	粘性あり	炭化物5%
			火山灰1%			
ま	10YR5/8	黄褐	全面ローム	礫粒	粘性なし	炭化物少量
み	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒 火山灰少量	粘性ややあり	炭化物少量
む	10YR5/6	黄褐	礫粒	ローム粒	粘性ややあり	炭化物少量
			ロームブロック焼土粒少量			
め	10YR5/6	黄褐	礫粒	ローム粒	粘性ややあり	炭化物
			ロームブロック焼土粒火山灰			
も	10YR3/4	暗褐	礫粒	ローム粒 火山灰	粘性ややあり	炭化物3%
や	10YR5/8	黄褐	全面ローム	礫粒 焼土粒微量	粘性ややあり	炭化物1%
ゆ	10YR4/4	褐	礫粒	ローム粒	粘性ややあり	炭化物5%
よ	10YR4/3	暗褐	礫粒	ローム粒	粘性あり	炭化物5%
ら	10YR5/8	黄褐	全面ローム	礫粒	粘性あり	炭化物少量
り	10YR4/3	にぶい黄褐	礫粒少量		ロームブロック	土器 〈ヨ〉と同一層
れ	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒		全面粘土質	〈ひ・ふ〉よりローム多量
ろ	10YR3/3	暗褐	ローム粒微量		ハード 密	炭化物
わ	10YR3/3	暗褐	礫粒	ローム粒 焼土粒 火山灰	ソフト 粗	炭化物微量
	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム粒	焼土粒 火山灰少量	ややソフト	炭化物
	7.5YR5/8	明褐	全面ローム	礫粒 焼土粒少量 火山灰10%	粘性あり	炭化物3% 〈テ〉と同一層
P964 a	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	粘性なし	炭化物
			土粒少量	ロームブロック 焼土粒		
b	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	ハード	炭化物 土器
			土粒	ロームブロック 焼土粒		
c	10YR5/4	にぶい黄褐	礫粒	ローム粒	粘性なし	炭化物
			土粒	ロームブロック 焼土粒		
d	7.5YR5/6、	明褐、褐	礫粒	ローム粒	粘性なし	炭化物
	10YR4/6		土粒	ロームブロック 焼土粒		
e	10YR4/6	褐	礫粒	ローム粒	粘性なし	炭化物1%

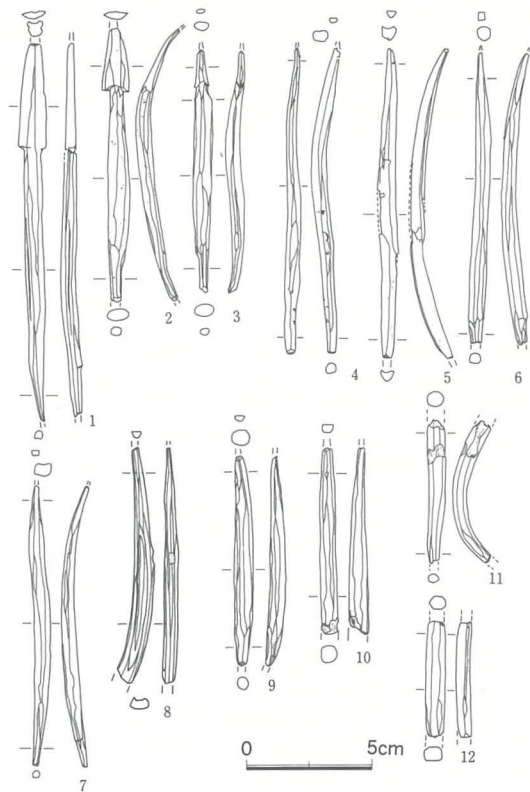


第53図 土壌23平面図他

層をベースとした黒色土が主体をなす。下部にいくに従いIV b層やソフトロームブロックがまじるようになる。全体として埋め戻したような状態ではない。この土壌内から23点の骨角器が検出された。(第54図1~12)遺物の分布状態は平面的には土壌内南西側イモ穴と切り合う箇所集中的に分布する一群と土壌内北東端の壁面焼土付近に散逸した状態の一群とに大きく分かれる。尚この土壌と重複するイモ穴にも1点検出された。レベル的には前者の一群は土壌内覆土下部~床面近くに分布する。後者は覆土上面に分布する。1、2、3は鏃である。1は多数の横の亀裂あり。陸獣骨製か。2も胴部に多数の横の亀裂あり。海獣骨製か。3は胴部上側には下からの削り込みにより小さな逆刺を作りだしている。先端部が使用のため摩滅し、丸みを帯びている。4は図示されていないが、下部に4面の面取りが施されている。先端がやや扁平であるが、きわめて細身に作られており、ヤスと考えられる。5は胴部が断面三角形を呈し、一方の面に1条の稜線を持つ、全体に極めて華奢に作られている。先端部は4と同様に尖る。6は全体が5よりもやや太めであるが下部には削り出しによる加工があり、先端部は上下、左右4方向を平らに加工し、方形の断面を作りだしている。胴部断面は円形を呈する。先端部が極めて細く尖っていることからヤスと考えられる。海獣骨製。7も6と同様下部に削り出しが入り、先端部も上下、左右4方向を平らに加工し、方形の断面を作りだしている。胴部断面はかまぼこ状となる。やはり先端部が細く尖っていることからヤスと考えられる。海獣骨製か。8は先端部に数珠の削り出しを行ない、かまぼこ状の断面形を作出している。先端部を欠損しているため明確でないが、中柄の可能性はある。陸獣骨製。9は胴部全体が丸みを帯びており、先端部は一方に面をつくり断面形をかまぼこ状としている、ほぼ完形である。中柄と考えられる。海獣骨製。10は胴部断面形は円形であるが、上部~先端付近は一面を平坦につくりだし断面形をかまぼこ状としている。。中柄である。海獣骨製。11は胴部断面が円形、図では下部が先端部分となる。先端部付近は細かな削り出しが見られず、断面形が円形となる。中柄と思われる。海獣骨製。12は胴部断面がかまぼこ状となる。胴部中央部分しかないが中柄と思われる。海獣骨製。

(齊藤)

**第17号建物跡** (第56図) : 18K24、25、19K4、5に位置する。梁間、桁行とも1間で8尺等間である。柱根は32~34cmの角柱、掘り形の規模は大きさ70~74cm、P1851とP1852は深さ40cm、P1850とP1853はそれぞれ60cmの大型柱穴である。P1850とP1852には柱根残存部が検出された。溝26より西側へは出ず、14~17号がある地割内の西端部にある。第14号建物跡および第15号建物跡に建物空間が重複していること、さらにこれらの建物跡を構成する柱穴を切っていることからより新しい時期の構造物ということになる。これは平成5年度検出された大型柱穴と類似するが、掘り方が浅い。やはり門あるいは櫓のような構造物かと思われるが、門だとしても対応する建物跡がこの地割面では16号建物跡のみとなるが、軸線等が揃わず、また17号建物跡との距離があり、この建物跡に対応するとは言いがたい。やはり単独の構造物の可能性が考えられる。(齊藤)



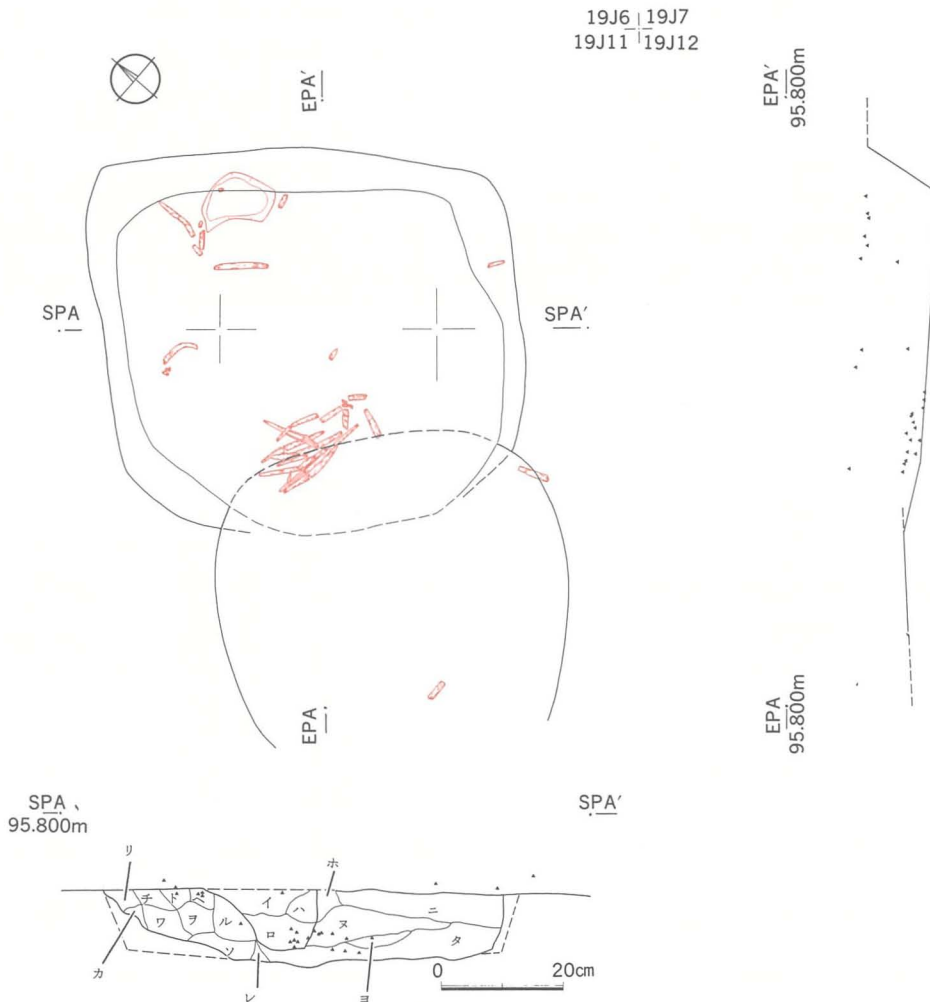
第54図 土壌40出土遺物

(5) 出土遺物の概要

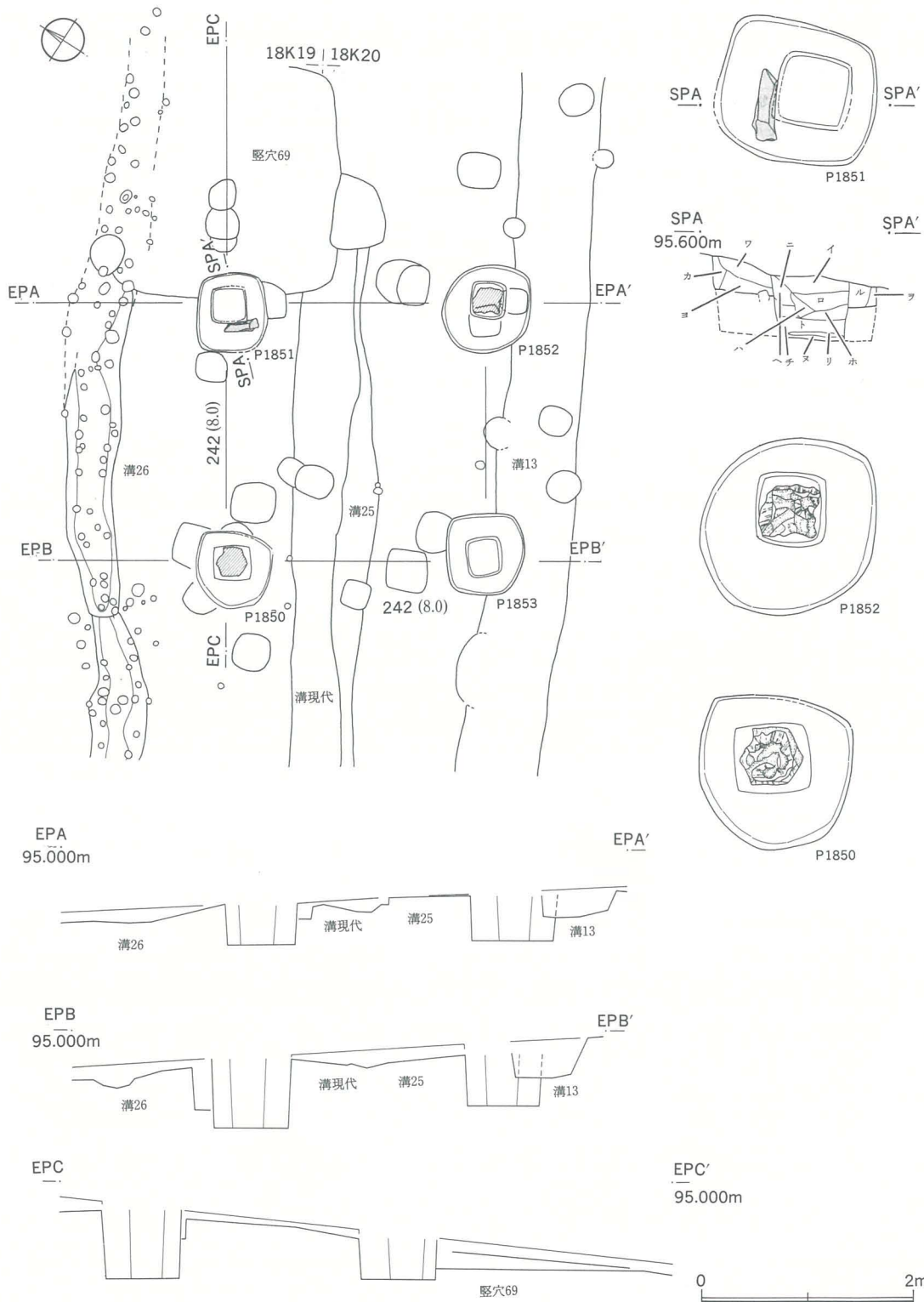
**陶磁器** (第57・58・60図)：1・2は直口縁の青磁碗、3は青磁の輪花皿である。4は白磁の端反皿。5は外側体部と見込に梵字文が入る染付碗。6～12は染付皿で、この内6は獅子皿、7～10は碁筒底の皿で見込みの文字はすべて「寿」と思われる。12は青磁染付である。13は鉄釉の肩衝茶入で、胎土が緻密なため中国製と思われる(以上第57図)。1～8は瀬戸美濃の灰釉皿で、1～3は端反皿で大窯I期、4・5は丸皿、7・8は折縁皿で8の内側はソギが入る。9は瀬戸美濃の鉄釉碗(いわゆる天目茶碗)である。10～12は瀬戸美濃鉄釉皿。13は志野丸皿。14は土器の碗で内・外面

に漆が塗られている。勝山館では補修に漆を使った例はあるがこのような例は初めてである(以上第60図)。1～8は越前播鉢で、この内1～4が概報V-III類、5～8は概報V-II類のものである。9は珠洲の播鉢である(第58図)。

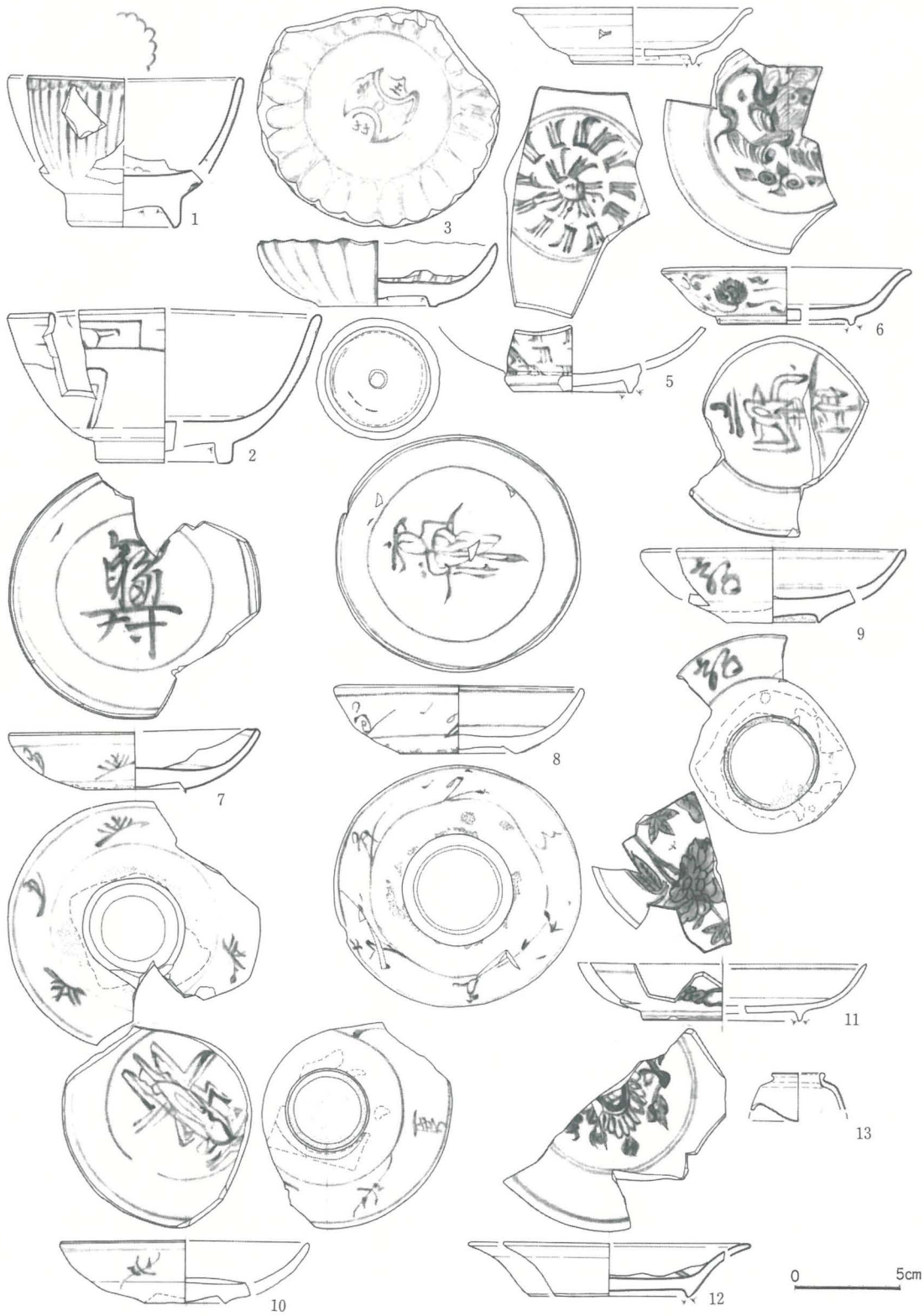
**鉄製品・その他** (第58・59図)：1は鎧の脇板の一部である。2は平小札。3は火打金。4は鉄。5・6は茶釜の蓋、7は茶釜である。8・9は籍である。10は鉤である。11は断面が方形の鉄製品であるが用途は不明である。12は芋引金である。13～18は釘、19は鋸、20は鑿である。21・22は用途不明。23は鉄砲玉。24・25は鉄滓。26～29は陶錘。30は石の中央に穴を穿ったもので、用途は不



第55図 土壌40平面図他

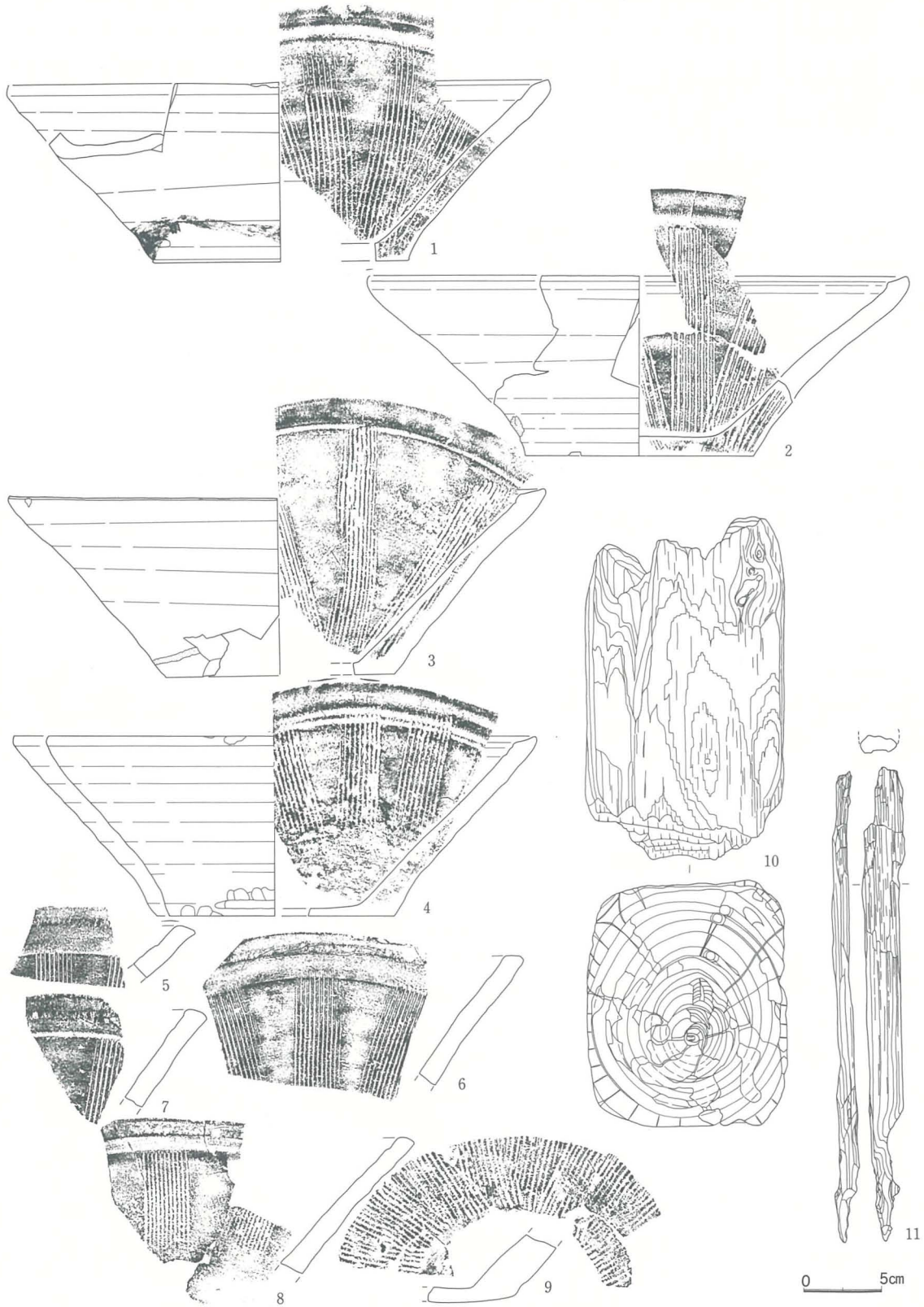


第56図 第17号建物跡想定図

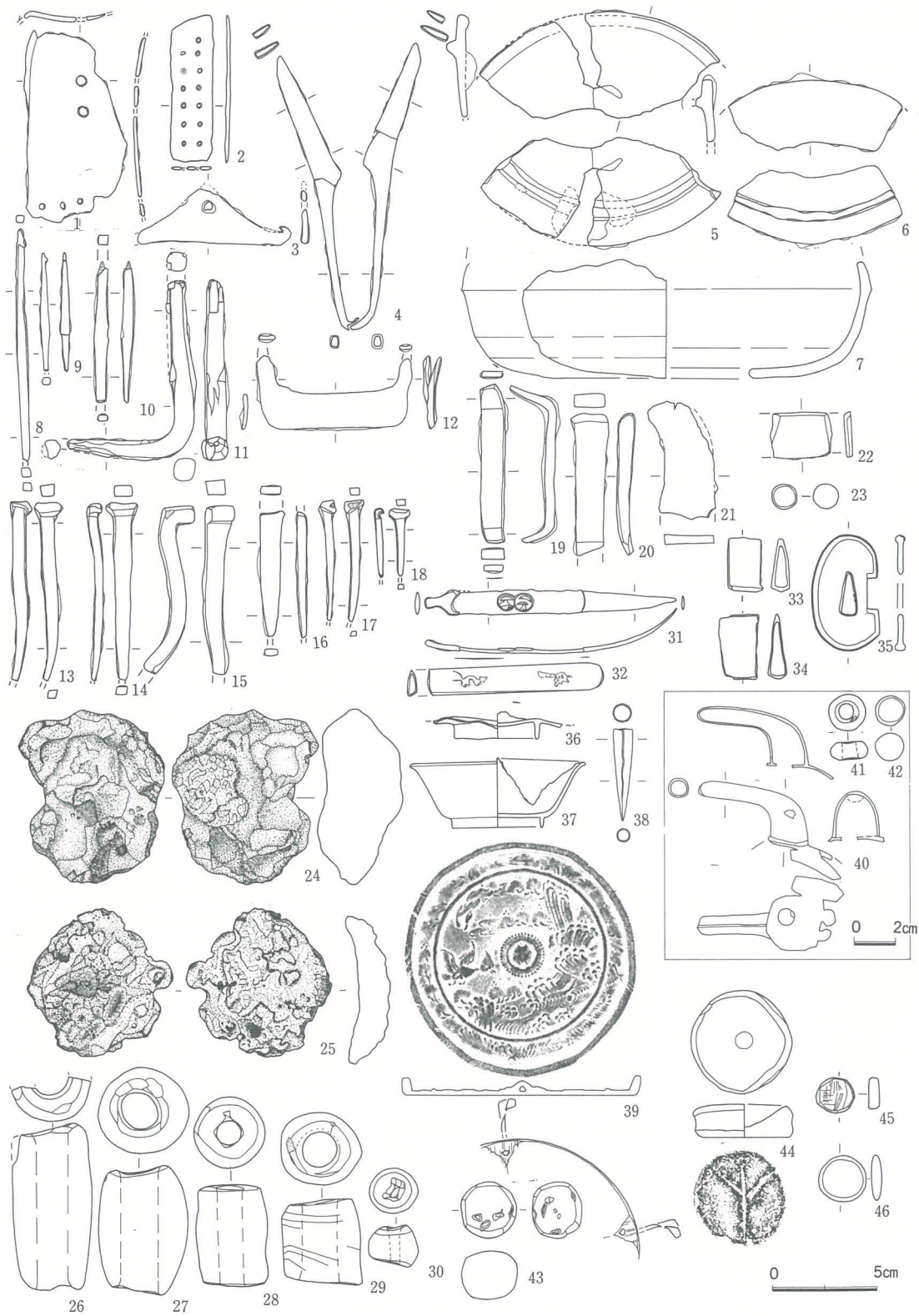


第57図 調査区出土遺物(陶磁器)





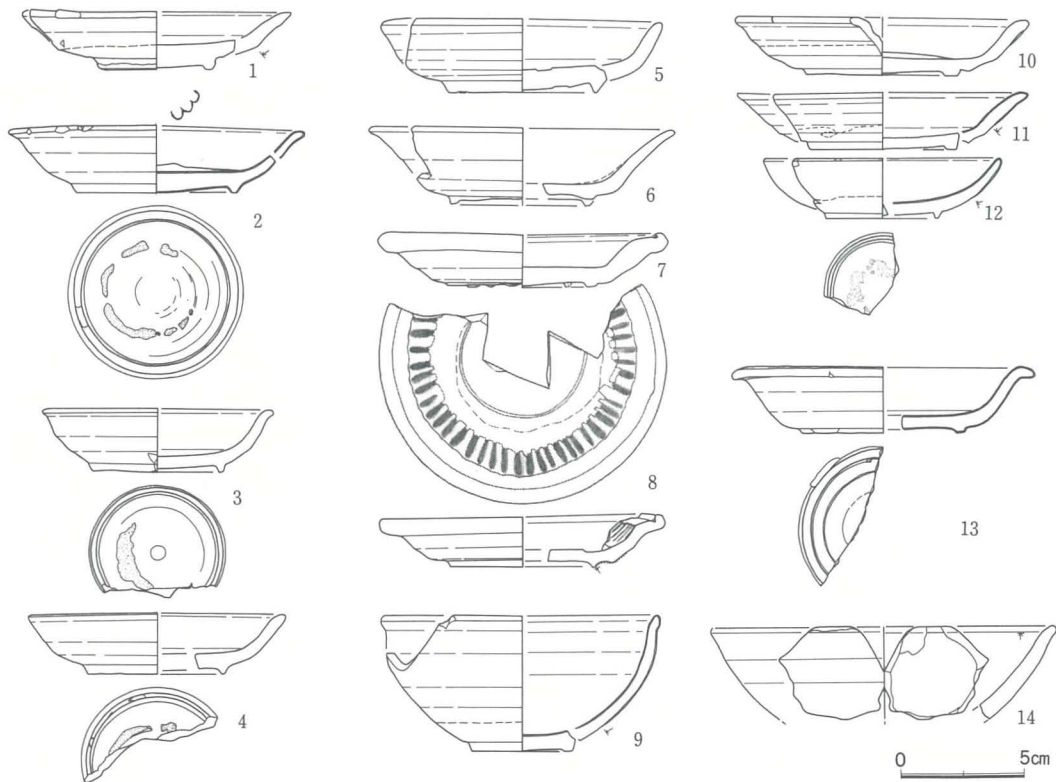
第58図 調査区出土遺物(陶磁器他)



第59図 調査区出土遺物(金属製品他)

明である。31は筭、32は小柄、33・34は甕、35は  
 罽でいずれも銅製である。36は六器碗、37は六器  
 台である。38は円錐形の銅製品で用途は不明。39  
 は蓬萊文鏡で鏡面から2つの穴が穿孔されてお  
 り、その部分には抉りがある。40は返角と思われ  
 る。41はガラス製の玉。42・43は球状の土製品で

用途は不明である。44は擦文土器の底部を加工し  
 て別の用途に使ったものと考えられるが、不明で  
 ある。45は石製の駒かと思われる。46は石製の黒  
 の基石である（以上第59図）。第58図の10・11は柱  
 痕跡に残っていた柱材である。（佐藤）



第60図 調査区出土遺物（陶磁器）

表12 18K24大型柱穴南北西壁セクション

柱痕	イ	10YR4/4	褐	砂	まじり少ない	やや密	粘性ややあり やヤソフト	C 小礫粒微量 C粒5% 小礫粒30% C粒 小礫粒 ローム粒微量 白色礫粒25% C微量 礫粒少量 C微量 小礫 白色礫少量 砂微量
	ロ	10YR4/4	褐	砂	まじり少ない	やや密		
	ハ	10YR3/4	暗褐	砂	まじり少ない	やや粗		
	ニ	10YR4/4	褐	砂	まじり少ない	やや密		
	ホ	10YR3/4	暗褐	砂	まじり少ない	やや粗		
へ	ト	10YR4/4	褐	ローム	まじり少ない	やや密	粘性ややあり	小礫粒多量 ローム粒20% 小礫 砂少量
	チ	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム	まじり少ない	密		
	リ	10YR4/3	にぶい黄褐	砂	まじり少ない	密		
	ヌ	10YR4/3	にぶい黄褐	砂	まじり少ない	密		
	ヲ	10YR3/4	暗褐	シルト		密		
掘り方	ル	10YR4/4	褐	砂		密	粘性ややあり	ローム粒50% 白色礫1% C少量
	ワ	10YR3/4	暗褐	ローム	まじり少ない	密		
	カ	10YR5/4	にぶい黄褐	砂	まじり少ない	密		
	コ	10YR4/4	褐	砂		密		
	ク	10YR3/4	暗褐	砂		密		

表13 出土遺物観察表 (陶磁器)

種別器種	法量mm			釉	調	胎	土	特 徴	備 考	出土地点	図版番号	
	口径	底径	器高									
青磁碗	(108)	44	72	グレイスのオリ	うすい黄	直口縁、剣先、蓮弁、見込印花高台裏の釉拭われる				19J11III50 19J11P111	第57図-1	
〃	(148)	65	71~74	グレイスの黄緑	黄みの白	直口縁雷文の省略形と思える彫りが1部見える				19K9III-1 19J11P102	第57図-2	
青磁皿	114	46	32	あかるいグレイ	ベージュ	輪花皿内部内面は花卉状に掻き取る、見込、文字(金他)				19J11III他	第57図-3	
白磁皿	(114)	55	27.5	黄みの白	白	端反り、面取りの皿付は露胎、高台、見込に少量の砂が付着				18I22II他	第57図-4	
染付碗		56		あかるい	白	蓮子碗、高台裏放射状のカンナケズリは不整、胴部外面、見込、梵字文				19J16P88II他	第57図-5	
染付皿	(120)	66	27.5	〃	白	端反り、体部外面牡丹唐草文、見込は二条團縁内にししが書かれる				19K15 I II他	第57図-6	
染付皿	120	49	28.5	グレイスの黄	ベージュ	基筒底、口縁は軽く内湾気味、見込、莢、外面は文字を圖案化				20I3III他	第57図-7	
〃	118	56	33	黄みのグレイ	白	〃 〃 見込は擬人化した寿、全面施釉				19I17集石 19I17III他	第57図-8	
〃	(127)	44	36	グレイスの黄	うすい黄	〃 〃 〃 底部、高台ウラに砂付着				19I18P95他	第57図-9	
〃	(118)	40	30	グレイスの黄	ベージュ	〃 〃 〃				20I3III道路他	第57図-10	
〃	(138)	66	27.5	明るい	白	丸皿、口高裏に放射状のカンナケズリ痕 見込花				19I13III他	第57図-11	
〃	(134)	76	26	明るい	黄みの	碗皿形態口縁下に團縁、見込二重圏内に菊花				16L6III他	第57図-12	
鉄釉茶入	25			ブラウンスの	グレイスの	肩衝茶入、土は硬質かつ精緻器厚2.5mm				19J11P102	第57図-13	
美濃灰釉皿	(106)	46	23	グレイスの	うすい黄	口縁は外反、碗が入る体部以下露胎、削り出し高台、見込トチ跡有				19J17III他	第60図-1	
〃	(118)	65	27	グレイスの	黄みの白	端反り全面施釉、付高台、見込菊花文、底部に輪ドチ跡有				19K15 I II他	第60図-2	
〃	(92)	42	21.5	うすい黄	うすい黄	端反り全面施釉付高台、輪ドチ跡有				19J13 : V12	第60図-3	
〃	(102)	56	24.5	グレイスの	グレイスの	内湾気味に立ちあがる、全面施釉付高台底部に輪ドチ跡有				19I12 I II他	第60図-4	
〃	(120)	60	29	うすい黄	うすい黄	〃				19K9、ミヅ7他	第60図-5	
〃	(122)	58	31	グレイスの	うすい黄	胴部が張りゆるやかに外反、全面施釉、付高台				19I18 I II他	第60図-6	
〃	(116)	59	21~22	くらい	うすい	折縁、厚手、底平、削り出し高台、見込トチ跡、底部に輪ドチ跡有				18I14 I II他	第60図-7	
〃	114	58	19~22	くらい	うすい	折縁、体部内面にノギが施される、削り出し高台見込の釉拭われる				19I16P77他	第60図-8	
美濃鉄釉碗	(114)	40	54	くらい	にぶい	口唇部は1且立ちあがり短く外反する、体部は丸味を帯びる				19I8III	第60図-9	
美濃鉄釉皿	(118)	62	23	グレイスのブラ	ベージュ	体部下方は直線的で上方はゆるやかに外反、高台巾が広い、体部中央辺り以下露胎				19I16 : V48	第60図-10	
〃	(116)	58	23	グレイスのブラ	ベージュ	〃				19I19 : V7	第60図-11	
〃	(94)	46	24	ブラウンスの	グレイスの	体部は丸味を帯び上方は若干開く 全面施釉				17I12 I II	第60図-12	
志野丸皿	(122)	65	26.5	グレイスの	うすい	体部は丸味を帯び口縁が外反する 削り出しの高台は方形				19J16P83	第60図-13	
土器碗?	(138)			黄いグレイスの	ベージュ	体部?は丸味を帯びる、内外面ともうるしが塗られる				19I17III	第60図-14	
越前擂鉢	(344)	160	114	ベージュ	ベージュ	口唇断面形は鋭角となし内削り気味 9条1単位、とくに内面の炭化が著しく不明炭化物が付着				19J8P141	第58図-1	
〃	(344)	145	114	うすい	うすい	口唇断面形は内削ぎ、8条1単位				壱穴59	第58図-2	
〃	(340)	145	116	ベージュ	ベージュ	口唇断面形内削ぎ気味、播し目間隔は25~6.5cm、10条1単位				19J9、P172	第58図-3	
〃	(332)	150	114	にぶい	にぶい	〃 播し目間隔は2~3cm 9条1単位				壱穴66	第58図-4	
〃				グレイスの	グレイスの	口唇断面形丸味内面口縁下で器厚が薄く作出され段状を呈す10条1単位				同一個体か	19I9 I II	第58図-5
〃				〃	〃	11条1単位				19I15 I II	第58図-6	
〃				あかるい	グレイスの	口唇断面形は角張る				19I8III	第58図-7	
〃				あかるい	あかるい	口唇断面形は丸味を有し水平に近くなる、全体に薄く作出、口唇下内外に指おさえが見られる。11条1単位				19J8P154他	第58図-8	
珠洲擂鉢				グレイスの	グレイスの	胴部最下部				19I7 I II	第58図-9	

表14 出土遺物観察表（鉄製品他）

種別器種	口mm	厚mm	長mm	重量g	特 徴	備考	出土地点	図版番号
鍔	(48)	3	(91)	26.1	脇板		1917III	第59図-1
小札	19	2	70	7.1	平小札		1918	第59図-2
火打金	最大巾(27)	45	(55)	16.2	紐を通す穴が上部にある、一端だけかえしが残る		19K10 I・II	第59図-3
鉄			(137)		刃長64mm		1916III	4
茶釜蓋				64.4g	下面には「かえり」が付く、腐食が著しい		1917III	第59図-5
茶釜		5		125.6	胴部推計194mm		1914III	第59図-6
籍	7	9	(11)	14.7	基部端欠損		1919 ミノ76	第59図-8
不明	5.5	5	(56)	3.4	不明		1913III	第59図-9
不明	7	7	(67)	6.9	断面方形籍か?		19J21 ミノ75	第59図-10
鉤	10	10	(86)	35.7	断面方形		19K5 I II	第59図-11
導引金	19	3	73	18.5	ほぼ完形		19K5P50	第59図-12
釘	7.5	7.5	(85)	14.0	折釘先端部欠損		17117III	第59図-13
釘	9.5	6	(80)	12.2	不明		19113 ミノ28	第59図-14
釘	12	9	(80)	36.4	不明		1918 I II	1第59図-5
釘?	11	6	(59)	11.8	頭部、先端部欠損		19113 ミノ28	第59図-16
釘	5	5	(55)	5.5	折釘先端部欠損		19111溝9	第59図-17
釘	5	3	(32)	1.1	折釘先端部欠損		1916III	第59図-18
鍔	13	7	36	5.7	両端の尖る細長い角棒の両端を折り曲げた形態、一端欠損		19117 集石遺構	第59図-19
鑿	18	7	(68)	35.7	下部が湾曲する		1917III	第59図-20
不明	26	5	(56)	16.5			19J5P152	第59図-21
不明	21	5	(28)	10.0			18I21 I II	第59図-22
鉄砲玉				8.6	径12mm、鉛製		18I23 ミノ64	第59図-23
鉄滓	78	36	84	182.0	碗形滓表皮は鉄錆色し強く磁着する		19J12III	第59図-24
不明	69	19	71	400.0	碗形滓青黒色で多孔質磁着なし		排土	第59図-25
陶鉢	(38.5)		80		漁網鉢		18K25 I II	第59図-26
不明	43	41	62	90.0	不明		19114 I II	第59図-27
不明	34	34	50	59.2	不明		19111III	第59図-28
不明	38	35	41	45.5	不明		94埋土	第59図-29
有孔石製品	23.5		20	9.0	軽量で小型だが鏝として使用したものか?		19113III	第59図-30
弁	11	2	(120)	16.7	平形弁、胴部には丸に松ノ木状の銀象嵌が2個		1916 溝11	第59図-31
小柄	13	5	84	27.0	刀身の茎を銅(合金?)で包む、地板に1対の動物の浮彫あり		19J4 P39	第59図-32
匙	17	2	26	8.0	銅製		19113 P138	第59図-33
不明	19	1	31	5.6	不明		18J15 I・II	第59図-34
銅	30	3	55	32.7	楕円形で切り出しがある、縁はやや盛り上がっている		1919III	第59図-35
六器	口径84	底径44	器高33.5	93.7	胴部は丸く口唇にむけてゆるやかに開く		1918III	第59図-36
六器台		底径40	器高13	42.0	被熱のため外縁が溶け折れ曲がる		1917III	第59図-37
不明銅製品	9	1	44	3.9	円錐状で中が空洞になっている		18J21 P25	第59図-38
鏡	径114	3		220.0	蓮英鏡、花形穹窿座鈕、中縁単圈、直角式中縁、下側に2つの孔有		19112 I・II	第59図-39
不明銅製品		1		2.5	鞘に装着するかえしか?角の部分は空洞		19122III	第59図-40
玉	径9	4.5		0.6	ガラス製、にぶい青緑、孔径6mm		19J16 I II	第59図-41
球状土製品	径9			0.7	不明		1816 I	第59図-42
不明	径27			14.3	大きさ1~3mm、深さ2~6mmの穴が4ヶ所焼成前にあけられる		19J9	第59図-43
円板状土製品		底径46	高さ16	33.5	底部に刻印がある撥文土器を利用、底部から15mmのところを丁寧に磨る		排土	第59図-44
駒状石製品	径19	5.5		3.2	蠟石製不整形で表裏とも擦痕あり		1816 I II	第59図-45
礫石	径12	5		5.6	不明		1916 I	第59図-46
柱			(30)		杖状か?		19J16P119	第58図-10
不明	151	125	(217)		角柱材		19J11P23小 柱穴内	第58図-11

表15 掘立柱建物一覧表

号数	図版番号	発掘区	建物軸方向（棟方向）	梁間	桁行	新旧関係
1	第6図	18K5	N-36° -W（南北）	3	6	2号より旧
2	第7図	18J6	N-37° -W（南北）	2	5	3号より旧
3	第8図	18J6	N-39° -W（南北）	2	5	3号より新
4	第9図	18J9	N-35° -W（南北）	3	4	6号より旧
5	第10図	18J9	N-33° -W（南北）	3	5	7号より旧
6	第11図	18J9	N-31° -W（南北）	3	6	4号より新
7	第12図	18J9	N-34° -W（南北）	3	4	5・6号より新
8	第13図	18J11	N-38° -W（南北）	3	4	11号より旧
9	第14図	18J11	N-40.5° -W（南北）	2	4	10号より旧
10	第15図	18J11	N-39° -W（南北）	3	3	9号より新、12号より旧
11	第16図	18J11	N-41° -W（南北）	3	6	8号より新、12号より旧
12	第17図	18J11	N-38° -W（南北）	3	5	10・11号より新
13	第18図	18J14	N-35° -W（南北）	3	4	
14	第19図	18J21	N-38.5° -W（南北）	3	4	17号より旧
15	第20図	18J21	N-36.5° -W（南北）	3	4	17号より旧
16	第21図	18J23	N-38° -W（南北）	3	4	25号より旧
17	第56図	18K25	N-34° -W（南北）?	1	1	14・15号より新
18	第22図	19K10	N-39.5° -W（南北）	3	4	19号より旧
19	第23図	19K9	N-36° -W（南北）	3	5	18号より新
20	第24図	19J2	N-37° -W（南北）	3	3	18・19号より旧
21	第25図	19J4	N-54° -E（東西）	5	3	22号より旧
22	第26図	19J8	N-37.5° -W（南北）	3	4	21号より新、25号より旧
23	第27図	19J10	N-57° -E（東西）	2	2	22・25号より旧
24	第28図	19J10	N-53° -E（東西）	4	2	
25	第29図	19J14	N-26° -W（南北）	3	5	22・23号より新
26	第30図	19J18	N-59° -E（東西）	2	3	31号より旧
27	第31図	19J17	N-35° -W（南北）	3	4 (5)	
28	第32図	19J16	N-34° -W（南北）	3	3+ $\alpha$	
29	第33図	19J20	N-63° -E（東西）	3	3	30・31号より旧
30	第34図	19J19	N-33° -W（南北）	3	4	29・31号より旧
31	第35図	19J19	N-33° -W（南北）	3	5	29・30号より新
32	第36図	18I13	N-42° -W（南北）	2	2	36号より旧
33	第37図	18I18	N-39.5° -W（南北）	2	4	34・35・36・37号より旧
34	第36図	18I18	N-39° -W（南北）	2	2	33号より新35号より旧
35	第38図	18I18	N-65° -E（東西）	2	2 (?)	33号より新、37号より旧
36	第39図	18I18	N-64° -E（東西）	3	3	32・33号より新
37	第40図	18I18	N-27° -W（南北）	3	3	33・35号より新
38	第41図	19I8	N-64° -E（東西）	3	4	39・40号より新
39	第42図	19I8	N-68° -E（東西）	2	4	38・39号より新、40号より旧
40	第43図	19I8	N-63° -E（東西）	2	4	38号より新
41	第44図	19I16	N-66° -E（東西）	2	3	43号より旧
42	第45図	19I17	N-25° -W（南北）	3	4	43号より旧
43	第46図	19I17	N-65° -E（東西）	3	4	41・42号より新
44	第47図	19I17	N-65° -E（東西）	2	3	
45	第48図	19I9	N-24° -W（南北）	1	1	

張り出し部は柱間数に含めていない。建物構造の検討も十分でないため、棟方向も検討を要する。

### III 小 括

土壌40は第26～28号建物跡を区画する地割面北東端部にある。この地区は他の地区と違いこのような小規模の浅い土壌が複数で見られる地域である。土層堆積状況を見ると埋め戻した様な状況は見られないが、遺物の分布状況が中央部に集中し土壌下部～床面近くの一定のレベルにある一群と土壌内北側に散逸したように分布しておりレベル的には土壌覆土上部に集中する一群がある。またこの土壌を切っている現代のイモ穴内からも1点出土しており、この土壌の北側が後世の攪乱をうけた可能性が高い。土壌底面近くの一群はイモ穴と切りあっている箇所からの出土であるが、攪乱をうけた状態では出土していないことからかろうじて攪乱を免れたと考えられる。また出土した骨角器全体が熱を受けており、白っぽい状態であり、湾曲し反り返っているものが多く横に多数の亀裂が入っているものが少なくなかった。またいずれも破損している状態のものばかりであった。しか

し土壌の骨角器集中箇所には焼土純層の堆積がまったくみられないことから他の場所で焼かれ、この土壌に廃棄された可能性が高い。

建物間及び帯曲輪から建物跡群に入る通路を確認することが今年度の調査の目的の一つであったが、帯曲輪付近にて2本の通路跡が検出された。通路跡Aは帯曲輪から西の第41～44号建物跡を区画する地割と第38～39号建物跡を区画する地割の間を抜け第29～31号建物跡を区画する地割と26～28号建物跡を区画する地割との間の南北に伸びる空間部へと至る通路が考えられる。また通路跡Bは第32～37号建物跡を区画する地割と第38～40号建物跡を区画する地割の間を抜け、調査区中央よりやや東側の13号建物跡の空間をぬけ4～7号建物跡空間へと至るか、あるいは13号建物跡の北東側の溝で地割してありながら建物跡が想定できなかった空間へ至る通路と考えられる。

(斉藤)

表16 出土遺物集計表1 (陶磁器)

(総破片数)

産地 器種別	船 載						国 産										小計	碗皿計	合計	その他	近世	総計		
	中 国					朝鮮	瀬戸美濃			志野	唐津	土器	越前	珠洲	信楽	備前								
	青磁	白磁	染付	赤絵	褐釉		灰釉	鉄釉	鉄漿															
碗	135	12	223	9			379	36	110			2	1					149	(528)	528		54	582	
皿	93	357	338	1			789	825	48		3	16						892	(1681)	1681	1	11	1693	
かわらけ																								
杯		9	1				10												(10)	10		1	11	
盤																								
香炉	2						2		1									1		3		1	4	
播鉢										2				529	10			541		541		2	543	
瓶・壺・鉢									4					12				16		16	3	8	27	
袋物		3					5													5		2	7	
その他		1					1													1	4	2	7	
計	230	382	562	10	2		1186	861	163	2	3	18	1	541	10			1599	(2219)	2785	8	81	2874	

※表中瀬戸美濃の播鉢としたものは、瀬戸市埋蔵文化財センター藤澤良祐氏の御教示により越中瀬戸であることが判明した。前年度までに報告のものにも、両者が含まれていると思えるので再整理したい。(山崎)

表17 出土遺物集計表2 (鉄製品他)

種別		数量	点数	重量 g	備考	種別		数量	点数	重量 g	備考	種別		数量	点数	備考			
鉄	武器・式具	刀子	15	135.4		銅	武器	小柄	3	37.5		石	製	硯	3				
		小刀	4	17.9				斧	3	23.4				碁石	4				
		脇板	1	26.1				鐔	1	32.7				駒状石製品	1				
		小札	41	228.3				鉏	2	13.6				茶臼	2				
	計	61	407.7		目貫			1	0.8		砥石			28					
	狩猟・生産具	箆	3	23.8				縮金具	1	16.2				砥石原石	5				
		鉤	1	53.3				八双金	1	4.6				有孔石製品	1				
		苧引金	2	35.4				八双鉏	1	1.7				合計	44				
		鎌	2	64.2				緑金具	1	1.6				骨	角	器	銚頭	1	
		鎌	2	64.2				計	14	132.1							銚	5	
縮金具	5	34.7		宗	六器	2	135.7		刺突具	4									
計	13	211.4		教	六器台	2	27.6		不明	37	刺突具又は中柄								
計	13	211.4		具	計	4	163.3		合計	47									
製	建築・加工具	釘	242	1,098.5		品	生活	鏡	2	318.6		その他		獸魚骨	37	うち魚骨3			
		鏝	3	91.9				煙管	1	8.7				漆	1				
		鑿	1	35.7				計	3	327.3				建築部材	4	柱3 杭1			
		壺金	1	147.5				不明	8	234.05				陶錘	9				
		計	247	1,373.6				合計	29	856.75				土製品	4				
品	生活具	鍋	142	5,671.8	内耳1	銅	銭	開通元宝	2		その他		鉄砲玉	1					
		火打金	1	16.2				熙寧元宝	1				ガラス玉	1					
		火箸	1	11.8				天禧通宝	1				合計	57					
		ハサミ	1	32.2				皇崇通宝	2				(山崎)						
		茶釜	3	248.8	フタ2			元豊通宝	2										
	計	148	5,980.8		聖崇通宝			2											
	不明	容器	2	22.3				咸平通宝	1										
		その他	38	335.3				治平通宝	2										
		計	40	357.6				咸淳元宝	1										
	合計	509	8,331.1		永樂通宝			2											
鍛冶関連	銅滴	1	9.4		洪武通宝	4													
	鉄滓	14	1,548.1		朝鮮通宝	1													
	合計	15	1,557.5		無名銭	10													
				不明	61														
				計	92														
				寛永通宝	1														
				合計	93														

## IV 保存処理

### 1 木製品

今年度は過去P. E. G含浸処理を完了した木製品1,400点をエタノールによる表面処理を行なった。処理の内訳は箸、枳材、板材、木の皮、鞘等である。

### 2 漆器

10点の処理を行なった。P. E. G含浸後エタノールによる表面処理である。

### 3 鉄製品

1,000点の処理を行なった従来通り錆除去、エタ

ノール脱水、、パラロイドNAD-10のソルベントナフサ20~30%溶液による樹脂含浸、接合等を行なった。処理の内訳は釘、鏝、鍋、鍋蓋、籍、小刀、鎌、銭等である。処理後シリカゲルを入れたOVフィルムに入れて保管している。

### 4 銅製品

40点の処理を行なった。メスによる錆除去、エタノール脱水後、ベンゾトリアゾールのエタノール2~3%溶液による減圧含浸処理を行なった。

(斉藤)



## V まとめ

平成7年度の調査では掘立柱建物跡45棟をはじめ、竪穴建物跡、土壇・区画溝・柵列跡・通路跡などの遺構が検出され、2800点余の陶磁器、鉄・銅製品、骨角器などが出土した。掘立柱の建物跡では17号とした大型の柱穴4個を一組とする建物跡が留意される場所である。第69号竪穴建物跡などとともにも幕末期に上部を削平されているものと推される。平成5年度に中央通りを跨ぐような形で同様の遺構が検出され、門・櫓等を想定した場所であるが、本第17号建物跡はこの中央通りに面する溝12で区画された地割りの北西ほぼ中央、中央通りに近接した位置にあり、この地割と通りとを結ぶ遺構と推すべきであろうか。地割り内の最も新しい建物跡は第25号建物跡であるが、軸線の揃わない難点がある。第16号建物跡と24号建物跡の二棟合体の1棟を想定したが無理なようである（鈴木亘先生のご教示による）。第16、20、21、22号建物跡等と23、24号建物跡等の組合せとも推される。

中央通りに面した調査区北西部と調査区中央部の平坦面は3×5間の南北棟の建物形状が基調にあり、一部3×4間や稀に3×6間、2×5間の建物跡が見られるようである。

こうした平坦面の南東部は一段低く作られ、松田が地割面A、Bとした区画やその南東、32~37号建物跡の建つ区画となっている。この地区を担当した松田と意見の分かれたところであるが、地割面Bの42号の建物跡は北半5.5尺二間と南半5.2尺二間からなるがこの境の東西に棟が通っていた可能性はないだろうか。P1788、P193で東2個欠失していることが前提であるが、これにより第44、42、43号建物跡は共に桁行が等間の共通性があり、その寸法が7.1、6.6、6.4尺と変化していると推定

できよう。37号建物跡も36号建物跡の1×2間の張り出し部が逆に付いた、基本的に柱間配置の同様な、桁行柱間が6.0、6.6尺等間の建物と推定できないであろうか。これは松田が既述の如く、これらの区画の南側台地の縁辺に帯曲輪が走り、この帯曲輪や更に南の方向を強く意識した結果必然的に生じた建物構造であることを示しているのではあるまいか。遺物その他が未整理な現状では、その機能等を具体的に示し得ないが、6年度調査区の17、18号建物跡等と共通する場所でもある。

これらの地割を画すると同時に、帯曲輪とこの地割面、更に上部中心部平坦面を結ぶ通路A、Bが見つかった。これは6年度調査で想定した通路に繋がると推されるものである。地割面Aと25号建物跡の間を通る通路は溝35・82を両側に一旦は13号建物方向へ北折し、それから18 I 11区、更に6年度調査区の63号竪穴南側へ連続すると推される。溝35に沿うL字型の3×3間の柱列は建物の一部ではなく、通路の大きな屈曲部、恰かも枳形状の一角に設けられた遺構をしめすとも推される。

土廣40から骨角器が一括出土した。骨角器廃棄の何かを示唆するのであろうか。かつて館後方の貝塚から多数出土した時には気付かなかった状況である。

中央通りからの経路等今年も多く課題を残し新年度に臨むことになった。

既に与えられた字数はない。勝山館の調査に新しい戦力が続々と参入してきた。その活躍を願うと同時に、よりよい環境づくりに責任を感じるところです。最後に新しい力への温かくも厳しいご指導と勝山館との変わらぬご厚誼を心からお願い申し上げます。（松崎）

# 図 版



P L. 1 調査区全景



調査区遠景（東から）



遺構検出状況（南西から）

P.L. 2 遺構・遺物検出状況

帯曲輪検出状況（南西から）



40号土壌遺物出土状況  
（骨角器集中箇所）





調査区調査前（南西から）



調査区調査前（西から）

P L . 3 調査区調査前・遺構検出状況



遺構検出状況（南西から）



遺構検出状況（北東から）

P.L. 4 遺構検出状況

遺構検出状況（南西から）



第1～3号建物跡（南西から）



第4～7号建物跡（南西から）



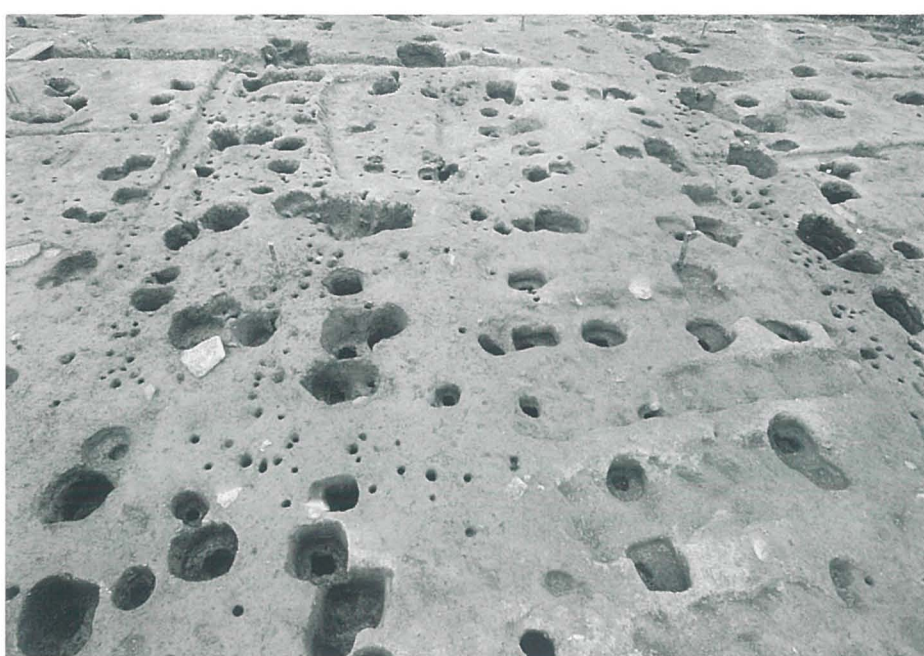
第8～12号建物跡（北西から）



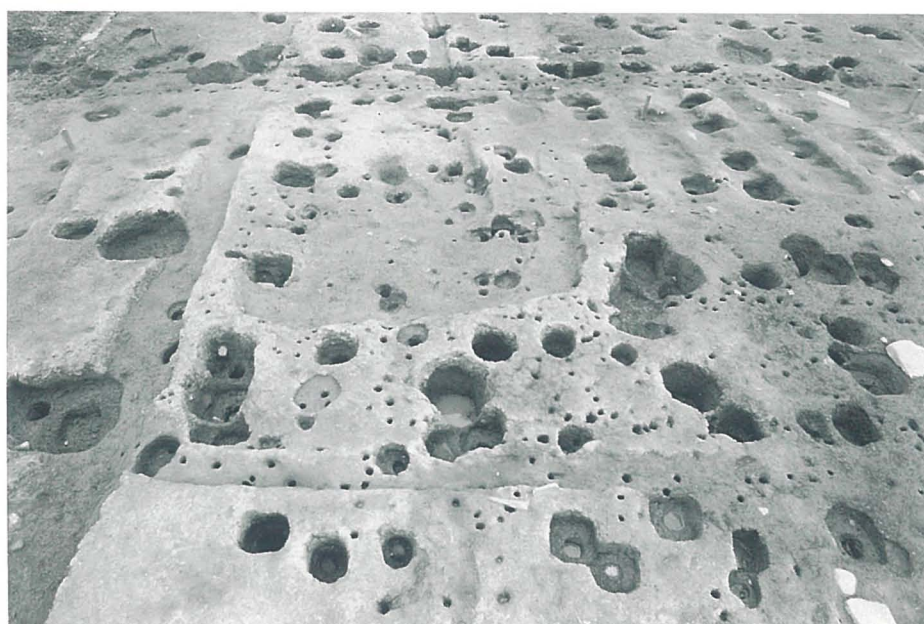
第11号建物跡（北西から）



第14・15号建物跡（南東から）

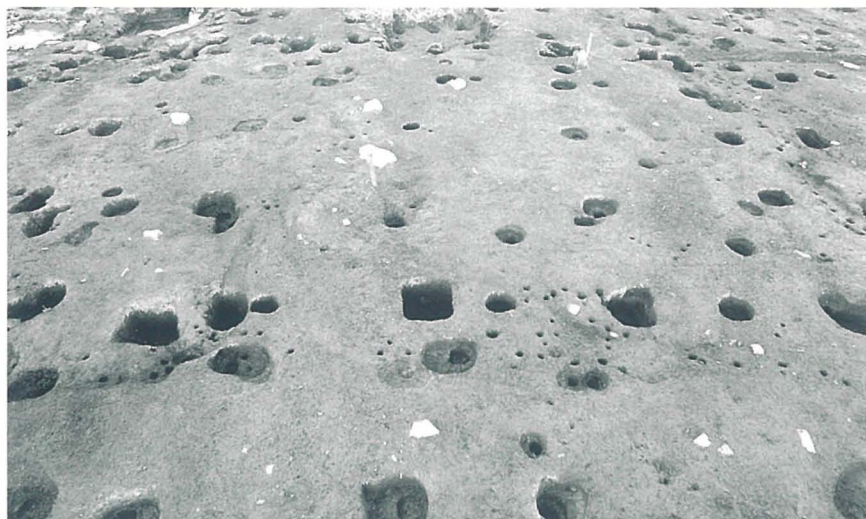


第14・15号建物跡（南西から）





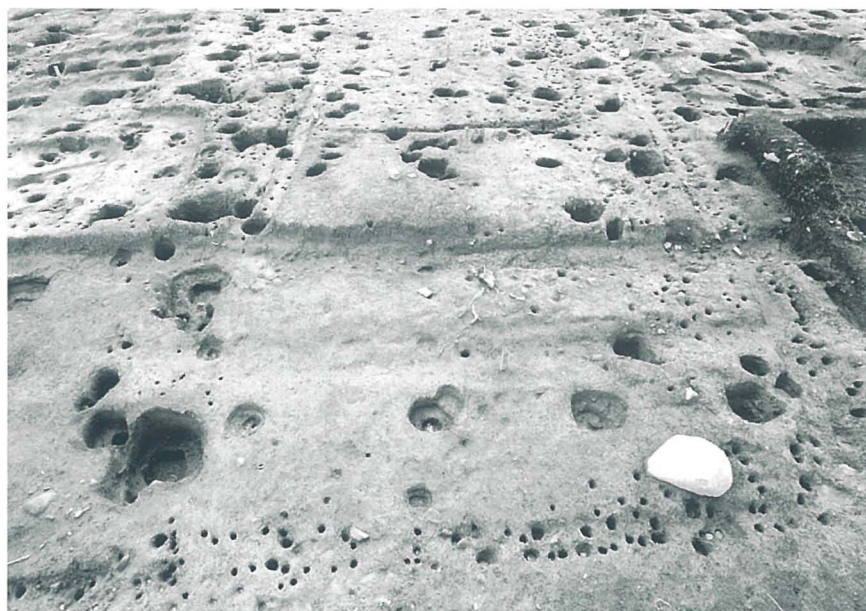
P.L. 6 遺構検出状況



第13号建物跡（南西から）



第17号建物跡（北東から）

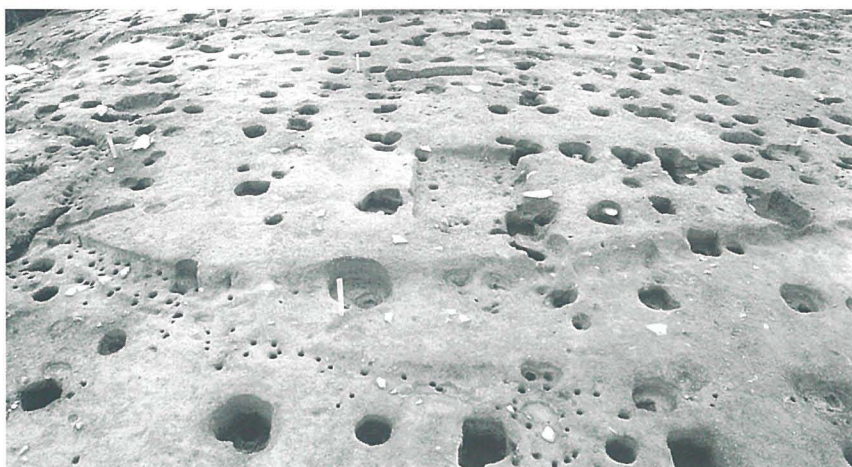


第18・19号建物跡（北西から）

第18～20号建物跡（南西から）



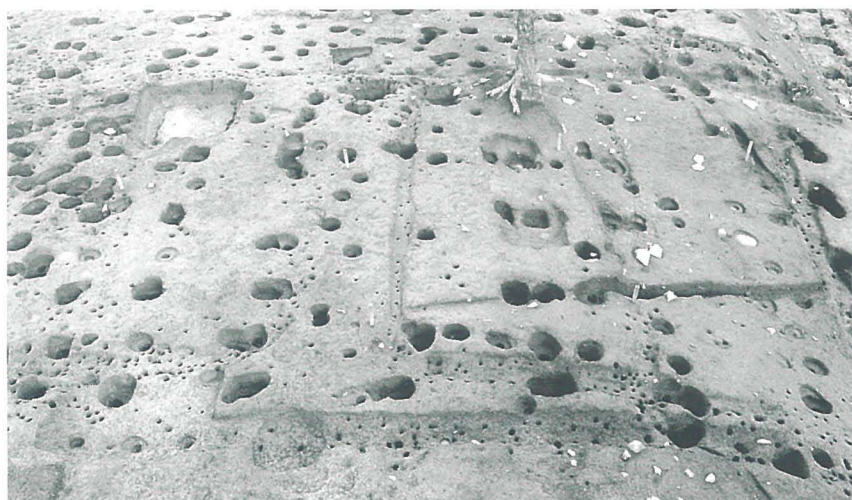
第23～25号建物跡（北東から）



第26～28号建物跡（南西から）



第26・29～31号建物跡（南西から）



P.L. 8 遺構検出状況



第32～37号建物跡（北西から）



第32～37号建物跡（南西から）



第38～40号建物跡（南西から）



41～44号建物跡（北西から）

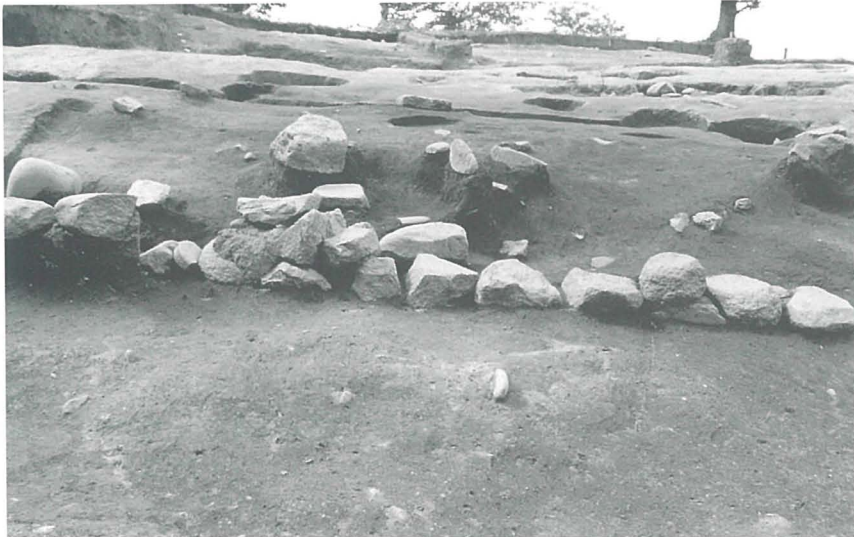


帯曲輪検出状況（北西から）



帯曲輪検出状況（南西から）

石積遺構検出状況（南東から）





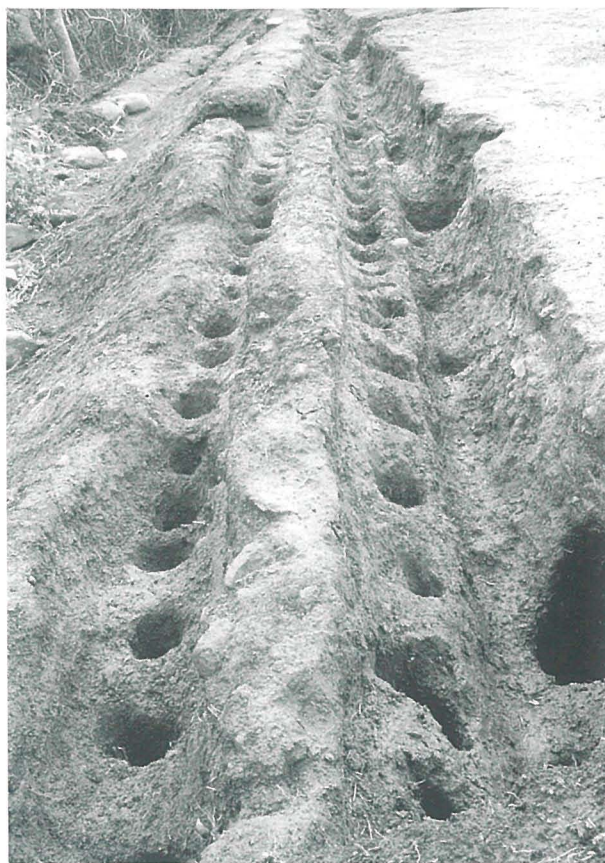
通路跡 A 及び炭化材検出状況



帯曲輪検出状況（南西から）



溝77検出状況



帯曲輪溝検出状況



64号竖穴建物跡



64号竖穴建物跡炭化材検出状況



64号竖穴建物跡炭化材検出状況



64号竖穴建物跡炭化材検出状況



69号竖穴建物跡



66号竖穴建物跡

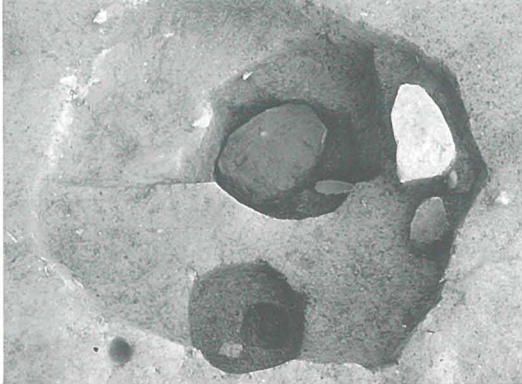


65号竖穴建物跡

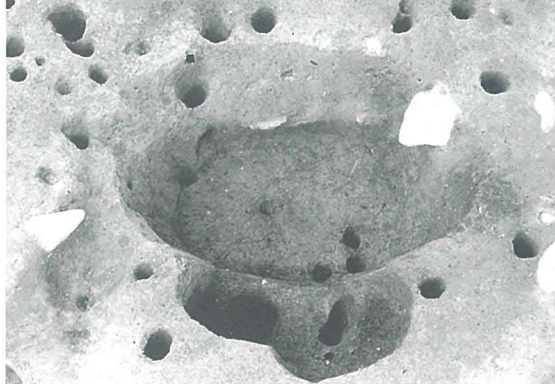


65号竖穴建物跡土層堆積状況

P.L. 12 遺構検出状況



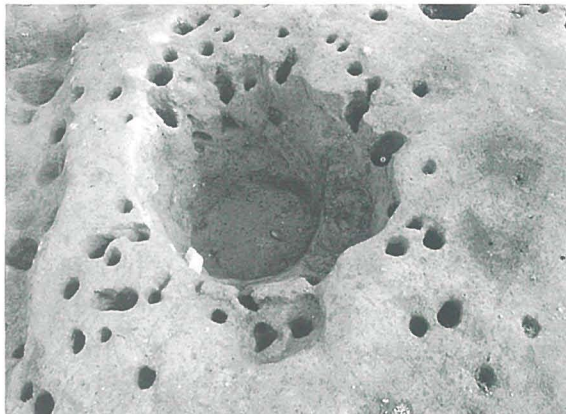
22号土壌



21号土壌



23号土壌



20号土壌



40号土壌  
(骨角器検出状況)



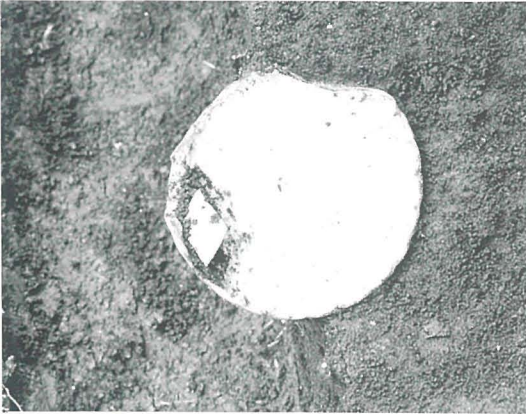
40号土壌骨角器  
検出状況



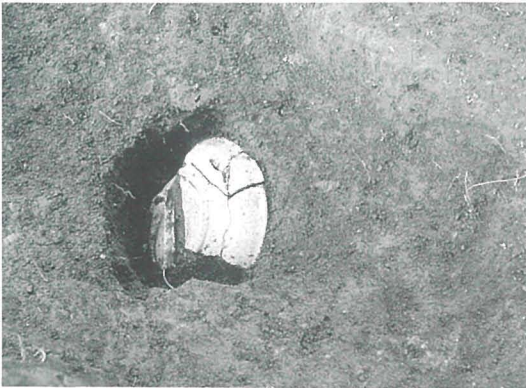
遺物出土状況（柱根）



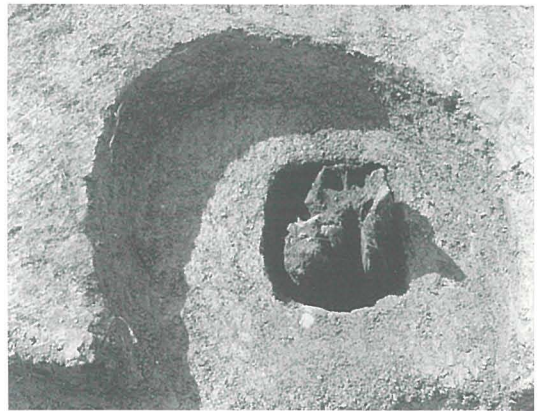
遺物出土状況（柱根）



遺物出土状況（青磁皿）



遺物出土状況



遺物出土状況（大型柱穴柱根）



遺物出土状況（越前播鉢）



遺物出土状況（大型柱穴柱根）





遺物出土状況（美濃鉄釉碗）



遺物出土状況（仏具）



遺物出土状況（中国製鉄釉茶入）



遺物出土状況（鉄砲玉）



遺物出土状況（美濃鉄釉碗）



発掘体験



遺物出土状況（仏具）



発掘体験



遺物出土状況（小柄）

---

史跡 上之国勝山館跡 X VII

—平成7年度発掘調査環境整備事業概報—

発行 上ノ国町教育委員会

北海道檜山郡上ノ国町字大留100

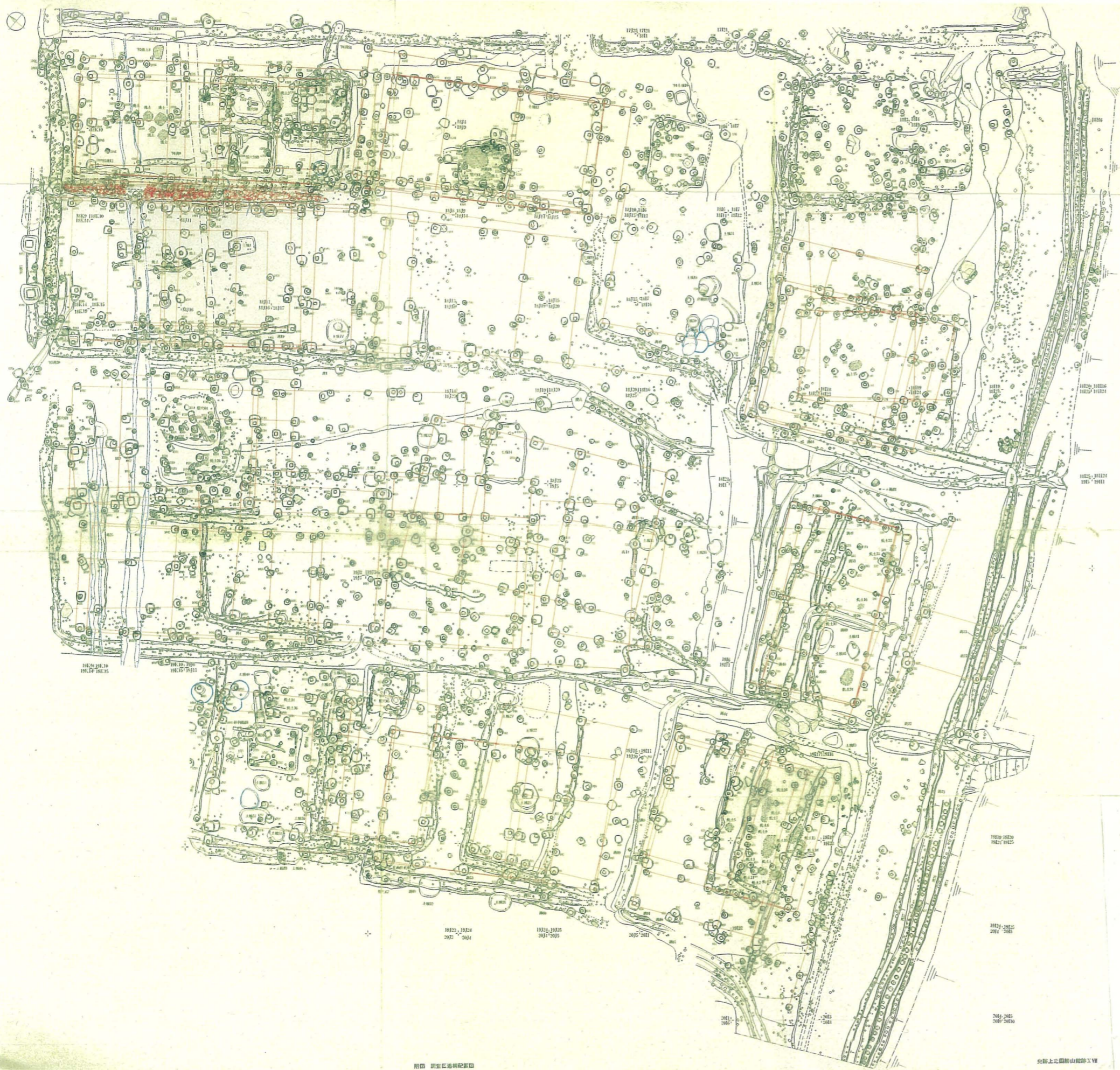
印刷 平成8年3月25日

発行 平成8年3月29日

印刷所 ㈱北海道機関紙印刷所

---





附圖 武王伐商紀略圖

國立中央研究院歷史語言研究所